

東京都シニアサッカー連盟

創立25周年記念誌

since 2000



東京都シニアサッカー連盟

創立25周年記念誌

since 2000



創立25周年記念誌 目次

since 2000

挨拶

25周年のご挨拶	4
東京都シニアサッカー連盟 委員長 末永 孝彦氏	

祝辞

公益財団法人東京都サッカー協会 会長 植田 昌利氏	6
祝 東京都シニアサッカー連盟創立25周年	
藤枝フットボールクラブ 代表 村越 廣 氏	7
東京都シニアサッカー連盟創立25周年に寄せて	
NPO法人日本華僑体育交流協会 理事長 陳 宏宇 氏	8
東京都シニアサッカー連盟創立25周年おめでとうございます	
東京都シニアサッカー連盟 顧問・衆議院議員 海江田 万里 氏	9
東京都シニアサッカー連盟25周年に寄せて	
ソウルロイヤルFC 会長／前大韓民国ソウル市蹴球協会 会長 崔 在益 氏	10
東京都シニアサッカー連盟創立25周年おめでとうございます	

連盟の歩み

年表	12
日本のシニアサッカーを導く東京モデル 理念と実践の25年	16
公益財団法人東京都サッカー協会 顧問／ シニアサッカー連盟 顧問／東アジア大会担当名誉会長 曹 明 氏	
シニアサッカーの礎を築いて	20
—小倉功・元副委員長に聞く創設の歩みと未来への提言	
受け継がれた志と、 試練の時代を越えた成長	23
2018～2024 東京シニアサッカー連盟の歩み	
リーグ・トーナメント優勝チーム	26
東京都代表チームの主な戦績(全日本大会)	28
東京都代表チームの主な戦績(関東大会)	30
グラフで見るシニアサッカー連盟の推移	32

特別インタビュー

JFAシニアサッカーアンバサダー 金田 喜稔 氏	34
大人になっても夢中になれる シニアサッカーが持つ可能性	

活躍したチーム

高麗サッカークラブ インタビュー	37
サッカーを純粋に愛し、生涯サッカーを目指す —その原点	
朴 良一 氏／吳 泰栄 氏／成 炳茂 氏	
セレクション・トキオFC	41
全国三連覇 —チーム発足と『勝ち』に結びした3年間	
セレクション・トキオFC 代表 石田 治 氏	

四十雀クラブ東京	43
我が四十雀クラブ東京の歴史と活動について	
四十雀クラブ東京 会長 柳谷 俊郎 氏	

東京都北区サッカー協会	45
地域リーグから支えるシニアサッカー	
一般社団法人 東京都北区サッカー協会 会長 山田 和範 氏	
PET	47
シニアに「PET」あり —世代をつなぎ、勝利を刻む	

Super Infinito	48
目指すはO-70全国大会への出場・優勝	

LB御殿下FC	50
「東大ライトブルー」の伝統と絆を守り続ける	

WKU 65/70/75	52
今、この瞬間を大切に、 サッカーライフを楽しむ	
WKU 坂本 正夫 氏	

活躍してきた選手

1・深澤 光賢 氏	54
生涯フットボーラーの軌跡 深澤 光賢・元委員長が語る挑戦の道のり	
2・猪鼻 孝之 氏	57
最高年齢カテゴリーの開拓者	
3・野村 六彦 氏	59
我がサッカー人生	
4・前田 治 氏	62
もう一度、夢を追う場所 私のシニアサッカー人生	
5・トーマス・エイドリアン 氏	64
得意のトキックと快速の点取り屋	
6・吉川 誠 氏	66
2,300試合出場の男! 1,600ゴール、840アシスト達成!	
7・斎藤 由理子 氏	69
ずっとサッカーボールと遊んできた!	
8・川口 さきえ 氏	71
サッカーと私	
9・平山 勲 氏	73
第二の青春はシニアサッカーから始まった	
Over 40座談会@暫亭いりり	76
サッカーを続けていける環境があることへの感謝	

ALBUM

11,28-31,75,103

リーグの特徴

TCL/TSL/CWL	
Over40~60世代の運営について	78
グラスルーツのシニアサッカーリーグ	
理想モデルを模索するCWL65リーグ	
CWL65リーグ幹事長 張 寿山 氏	83
SFLリーグ(70・75・80)の	
発展と大会の運営	85
Soccer For Life: SFLリーグが導く	
シニアスポーツの新時代	
SFLリーグ統括部長 御厨 雅宏 氏	
SFLリーグ事務局長 青山 哲司 氏	
SFL80リーグ戦の運営	89
SFL80リーグ幹事長 伊藤 優 氏	
SFL75リーグ戦の運営	89
SFL75リーグ幹事長 角皆 茂樹 氏	
SFL70リーグ戦の運営	91
SFL70リーグ幹事長 竹嶋 明彦 氏	
SFL70・75・80リーグ戦の大会要領	90
SFLリーグ審判部の運営	91
SFLリーグ審判講習会	93
安全・安心の環境創り	94
ピッチを支えるもうひとつの力	94
—女子レフェリー座談会	

トピックス

東アジアシニアサッカー大会	96
言葉を越えたサッカーのつながりと 元国家代表との真剣勝負	
アフリカ寄付プロジェクト	104
距離と年齢を超えて、サッカーでつながる世界交流	

チーム紹介

106

戦績

シニア連盟リーグ戦 上位チーム一覧	139
シニア連盟トーナメント大会 上位チーム一覧	146

連盟組織

2024年常任委員	149
体制遷移	150
あとがき	152



25周年のご挨拶

東京都シニアサッカー連盟

委員長 末永 孝彦 氏

東京都シニアサッカー連盟は2000年の設立以来、シニア世代が安全に、そして真剣にサッカーに取り組める環境づくりに力を注いでまいりました。初代・曹明委員長、小倉功副委員長のリーダーシップのもと創設された当連盟は、当初は参加数も限られていきましたが、25年の歳月を経て、今ではOver40からOver80まで幅広い世代へと広がり、6,000人を超える選手が都内各地で熱戦を繰り広げています。ここまで発展できたのも、日本サッカー協会、東京都サッカー協会をはじめとする関係諸団体の皆様、支援企業の皆様の温かいご支援、そして日頃のリーグ運営を支えてくださるチーム関係者の皆様のご尽力の賜物です。心より感謝申し上げます。

シニア連盟としての歩みは25年余りですが、東京のシニアサッカーの歴史は、戦後まもない1950年代にまで遡ります。多くの諸先輩方がシニア世代のサッカーの立ち上げと普及に情熱を注ぎ、クラブ単位、学校OB組織、地域協会など、多様な取り組みが積み重ねられてきました。これらの努力が、今日の東京のシニアサッカーの礎となっています。1990年代後半には、東京都サッカー協会の呼びかけのもと、プレ日本マスターズ大会関東予選会への東京代表選出を視野に、各団体が一堂に会し、統括団体の組織化に向けた議論が進みました。当時、「独自の取り組みで十分ではないか」という声もありましたが、「JFA登録のもと、最高年代のシニアが日本の模範となる運営と組織を東京からつくろう」という熱意が連盟設立を後押しし、今日の発展につながりました。

私自身は2005年よりOver40でプレーを始め、その後の連盟の急速な発展を感じてまいりました。プレイヤーとして、また2018年以降は役員として連盟に深く関わる中で、強く実感しているのはサッカーの「生涯スポーツ」としての力です。Over40に始まり、カテゴリーが上がるごとに“最若手”として活躍する場があり、年齢を重ねてもなお「もっと上手くなりたい」という気持ちを胸にピッチに立ち続けられる。勝利を仲間と分かち合い、敗戦の悔しさを語り合う時間が、日常をどれほど豊かにしてくれるか、計り知れません。

こうしたサッカーの持つ力を次の世代へと伝え、社会に広めていくことが、私たちの重要な役割だと考えています。まずは私たち自身がシニアサッカーを心から楽しみ、その姿を子どもたちや若い世代に示すこと。それこそが生涯スポーツの素晴らしさを体現し、未来へとつなげていく最良の方法です。

この25周年を新たなスタートとして、以下の行動指針を策定いたしました。「生涯スポーツ」の理念のもと「安全 (SAFE)」「公正 (FAIR)」「敬意 (RESPECT)」を大切にしながら、誰もが安心してサッカーを楽しめる環境を守り、友情の輪を広げ、シニアサッカーのさらなる発展とその価値の発信に全力で取り組んでまいります。

引き続き、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

東京都シニアサッカー連盟 行動指針

東京都シニアサッカー連盟は、生涯スポーツとしてのサッカーが持つ力を活かし、東京都内はもとより、地域、国境、そして世代を超えて友情の輪を広げていきます。

日本サッカーの最年長カテゴリーとして、あらゆる世代の模範となることを目指します。その基盤となるのは「安全 (SAFE)」「公正 (FAIR)」「敬意 (RESPECT)」の三つの柱です。

安全 (SAFE) : 運営は安全を最優先とし、選手は「ケガをしない・させない」プレーを徹底します。誰もが安心して、真剣にサッカーを楽しめる環境を守ります。

公正 (FAIR) : 運営は公正中立を重んじ、選手はフェアプレーを実践します。勝敗以上に「正々堂々と戦う」姿勢を大切にします。

敬意 (RESPECT) : 仲間、対戦相手、審判、運営、そしてサッカーを支えるすべての人に敬意を払います。その姿勢が東京シニアの品格であり、サッカーの価値を高めます。

東京都シニアサッカー連盟は、この行動指針を加盟チーム全体で共有し、日常の活動、大会、地域・国際交流の場で実践していきます。シニアサッカーの魅力と可能性を、次の世代へつなげていきます。



祝辭

祝 東京都シニアサッカー 連盟創立25周年

公益財団法人東京都サッカー協会

会長 植田 昌利 氏

東京都シニアサッカー連盟創立25周年、誠におめでとうございます。

長きにわたり、連盟の発展にご尽力された関係者の方々に敬意を表します。

1999年に創立され、同年に当協会へ加盟、2000年の加盟登録数は1チーム12名という記録が残っています。その後、O-50リーグをスタートした2002年には13チーム249名に、O-40リーグスタートの2005年には53チーム1,139名と大幅に登録数を増やし、さらにO-60、O-70、O-65、O-75と各年代のリーグ戦が着実に実施されるようになりました。

2023年には、遂にO-80リーグが幕を開け、海外含む各メディアにも取り上げられるなど注目を集めました。

今や、当協会加盟団体の中で、最も若々しく活動しているのがシニアサッカー連盟だといっても過言ではありません。

登録数も、2023年度末時点で209チーム5,547名が加盟、2024年度には6,000名を超えるかという勢いです。これは、47都道府県全体登録数の10%を超えており、特筆に値します。

また、数だけではなく、各全国大会においては、東京代表のチームが多く好成績を収めており、その実力も高く評価されています。

超高齢化社会を迎える日本では、健康寿命を延ばすことが大きな課題ですが、歳を重ねても、身体が動く限りスポーツに勤しむことは大変意義あることです。

どうか皆様には、動ける限り一生サッカーを楽しんでいただきたいと思います。

そして、今後ますます増えていくであろうシニアの新人たちを温かく迎えてください。

最後に、東京都シニアサッカー連盟にご協賛をいただいている皆様、日々の活動にご協力いただいている皆様に心より御礼申し上げますと共に、連盟のますますの発展と加盟チームのご活躍を祈念し、お祝いの言葉いたします。



祝辞

東京都シニアサッカー連盟 創立25周年に寄せて

藤枝フットボールクラブ

代表 村越 廣 氏

東京都シニアサッカー連盟 創立25周年おめでとうございます。世界の有数都市である東京都、政治経済をはじめあらゆる分野で中心となり、ますます発展する東京に羨望と憧れを感じます。

サッカーを文化の核として発展する「蹴球都市 藤枝」と東京都シニアサッカー連盟の交流は2006年（平成18年）からでした。歴代連盟役員の皆様方のご理解とご支援から、藤枝フットボールクラブの主要事業として2025年には交流20年の節目を迎えます。

藤枝フットボールクラブは1976年設立、西日本OBサッカー連盟に所属して大会などに参加してきました。その後、静岡県シニアリーグを7チームでスタートしたのは1980年でした。サッカー王国「静岡」での戦いは、打倒藤枝を掲げる清水、静岡、焼津、浜松が中心でした。2005年、藤枝東FCシニア誕生時、クラブの主要メンバーが退会することとなりました。クラブの存続をかけて、4代目の代表に私が推举されました。

2006年12月16日、整備された天然芝グラウンドに東京都シニア連盟の役員を迎えて交流試合が開催されました。藤枝のサッカー環境に感服された皆様が交流の継続を望まれたスタートでした。連盟初代会長（現顧問）の曹さんから「藤枝フットボールクラブが魅力あるクラブであることが交流継続の基本条件」と言われ、全国一のシニアサッカークラブを目指すことを宣言して今日に至っております。

翌2007年夏からの東京強化遠征（40・50・役員）を重ねた結果、藤枝FC40は2008年以降17年間で、県リーグ優勝14回、マスターズ優勝、JFA全日本大会に出場6回（優勝、準優勝、3位3回）することができました。50代から70代も40代に準ずる成績を残し、県リーグでの4世代優勝、各世代2部降格なしの唯一のクラブです。

東京都シニア連盟傘下のクラブチームは267、静岡県は63の規模の違いから東京の凄さを感じます。グラウンドの確保を含め大会運営には大変ご苦労があると思います。

近年、JFA全日本サッカー大会における東京都シニア連盟傘下のチームが各世代大活躍されています。2026年、藤枝フットボールクラブは創立50周年を迎えます。東京都シニア連盟の皆様をお迎えして記念試合ができるることを楽しみにしております。



祝 辞

東京都シニアサッカー連盟 創立25周年 おめでとうございます

NPO法人日本華僑体育交流協会
チン ヒロウ
理事長 陳 宏宇 氏

私は、日本華僑体育交流協会理事長の陳宏宇と申します。本年は、中国上海市で開催された「第9回東アジアシニアサッカー大会」のサポートをさせていただきました。2014年の大会開催以来、曹明委員長より協力のご依頼を受け、日本側における中国との折衝担当者として活動してまいりました。

本大会の設立に先立つ2013年、駐日中国大使館より「東京都サッカー協会のシニア年代で行われている日韓サッカー交流に、中国も参画し、東アジア大会を実現する可能性を検討したい」とのご相談をいただきました。その折、中国大使館にて当時の曹明委員長ならびに国会議員秘書であり選手でもある篠田氏とお会いし、協議を重ねたことを今も鮮明に記憶しております。

2014年の第1回大会が東京で開催されて以来、今日に至るまで、委員長のご依頼を受け、日本側における中国折衝の窓口として微力ながら尽力してまいりました。

貴連盟が主催されている東京都シニア年代の大会は、スポーツを通じて世代を超えた絆を育み、健康と生きがいを支えるその姿勢に、深く感銘を受けております。地域社会に希望をもたらすその活動は、まさに社会的意義の高い取り組みであると存じます。

また、世界の同年代との交流を目指した東アジア大会は、国際的な連携の架け橋となることを期待しており、今後ますますの発展が楽しみでなりません。

今後とも、皆様と共に本東アジアシニアサッカー大会の発展に貢献できることを願うと同時に、東京都シニアサッカー連盟のますますのご繁栄を心よりご祈念申し上げます。



祝 辞

東京都シニアサッカー連盟 25周年に寄せて

東京都シニアサッカー連盟

顧問・衆議院議員 海江田 万里 氏

東京都シニアサッカー連盟結成25周年おめでとうございます。

創設から25年経つと、世代交代が図られ、活動しているメンバーも入れ替わるものですが、シニアサッカー連盟は創設時のメンバーが今でも活躍しています。これはシニア世代にとってサッカーが健康を維持するために大いに効果があることの証左だと思います。

東京都シニアサッカー連盟は国際交流にも力を入れていますので、私も連盟の顧問として皆様のお力になれるよう努めます。またグラウンドの不足はシニア連盟だけでなくサッカー界全体の問題ですから、引き続きグラウンドの確保に尽力したいと思います。

連盟傘下の各チームの皆様が今後ますます健康で、ご活躍することを祈ります。



祝 辞

東京都シニアサッカー連盟 創立25周年 おめでとうございます

ソウルロイヤルFC 会長 チェ ジェイク
前大韓民国ソウル市蹴球協会 会長 崔 在益 氏

韓日のシニアサッカー交流は2009年に始まりました。その後、私がソウル市蹴球協会会長に就任した折、東京都サッカー協会の曹明氏より、中国を含めた拡大についてのご相談をいただきました。その趣旨に賛同した結果、2014年に記念すべき「第一回東アジアシニアサッカー大会」を開催することができました。

今後とも、参加のソウル市・東京都・上海市の3チームが共に発展することはもちろん、この大会が長く継続していくことを願っております。

最後に、東京都シニアサッカー連盟のこの間の労苦に感謝すると共に今後ますますご発展することを心よりご祈念いたします。

도쿄도 시니어 축구 연맹 창립 25주년 축하합니다

한·일 시니어 축구 교류는 2009년에 시작되었습니다. 그 후,
제가 서울시축구협회 회장으로 취임 해 있을 때, 도쿄도 축구 협회의
曹明씨로부터 중국을 포함한 확대에 대한 상담을 받았습니다.

그 취지에 동의한 결과, 2014년에 기념만한 할 제1회 동아시아 시니어 축구
대회를 개최할 수 있었습니다.

앞으로도, 서울시·도쿄도·상하이시의 3팀이 함께 발전하는 것은 물론, 이 대회가
오랫동안 계속해 가기를 바랍니다. 마지막으로, 도쿄도 시니어 축구 연맹의
그 동안의 노고에 감사하는 것과 동시에 향후 점점 발전하기를 진심으로 기원하겠습니다.



年表

	組織運営(含む人事)	大会や行事等の開始・中断・終了、年齢カテゴリー拡大	国際交流
1997 以前		1994年 シニア連盟組成の母体の一つとなるO-40 SML(東京23区FA代表チームのリーグ)開幕 当初6区でスタート(北区、新宿区、豊島区、足立区、世田谷区、目黒区)	
1998	日本体育協会主催の日本スポーツマスターズ大会にサッカーが参入することが決定。その為に東京都サッカー協会にシニアサッカー連盟立ち上げの必要性が発生し、東京都サッカー協会にそれぞれ任意で活動していた東京都スーパーマスターズリーグ(SML)・三多摩リーグ(SSL)・四十雀クラブ東京・江東五区SC・地区連盟の代表が呼ばれ、立ち上げの打合せ会を開催。約3カ月に1回集まる。		
1999	東京都サッカー協会シニア委員会を結成。SML、SSLは従来からの運用主体による運営を継続。		
2000	東京都シニアサッカー連盟を組成 曹明氏初代委員長就任、小倉功氏初代副委員長就任	プレ日本スポーツマスターズ大会サッカー競技の関東予選会に向けて、東京都で活動中の強豪6チームを集めたシニア大会を開催。 ①高麗SC・②立川オールスターズ・③新宿マエストロス・④北区シニア・⑤四十雀クラブ東京・⑥多摩シニア この大会後、参加チーム内より選抜チームを組成しプレ日本スポーツマスターズ関東予選会に選抜チームで出場(茨城県神栖市)するが、1回戦で千葉県に同点(2-2)でPK戦で敗退。	
2001		O-40 日本スポーツマスターズ東京予選開幕 O-50 全国シニアプレ大会東京予選実施 O-40 秋季大会開幕 初年度4チーム O-40日本スポーツマスターズは東京予選会の優勝チームを関東予選会に派遣 O-50全日本プレ大会は東京都予選会優勝チームを関東予選会に派遣 O-60全国シニアは2011年までは選抜での東京代表チームを中心に関東予選会に派遣、2012年~2017年は前年度リーグ優勝チームを中心とする選抜チーム、2018年以降は前年度に実施する東京都予選会優勝チームを派遣	
2002		O-50 SML開幕 O-50 全国シニア大会東京予選開幕	
		O-50全国シニアは東京予選会の優勝チームを関東予選会に派遣	
2003		O-40 TML開幕(クラブチームのリーグ) O-50 秋季大会開幕 初年度6チーム	
2004			
2005	東京都サッカー協会に正式加盟 開幕式@東京厚生年金会館 ゲスト:釜本邦茂氏	O-40 TCL開幕(SML、TML、SSLの上位リーグとして設立) TCL 10チーム、SML 7チーム、TML 11チーム、SSL 4チーム 数年間にわたりリーグ戦の合間にフレンドリーマッチを実施	
2006	開幕式@東京厚生年金会館 ゲスト:岡野俊一郎氏	O-50 TSL開幕 藤枝FCとの交流戦開始	
2007	開幕式@東京厚生年金会館 ゲスト:杉山隆一氏	O-70全国シニアフェスティバルの関東予選会には当時は選抜チームを派遣、2022年、2023年の大会には前年度リーグ優勝チーム、2024年以降は前年度に開催される東京都予選会の優勝チームを東京代表として派遣	
2008	開幕式@東京厚生年金会館 ゲスト:松永章氏	O-60 CWL開幕 初年度2回開催(第1回5チーム、第2回6チーム)	
2009	開幕式@東京厚生年金会館 ゲスト:細谷一郎氏	O-60 春季大会開幕 O-60 秋季大会開幕	O-40 トヨペットシニアガシニア連盟のアレンジによりソウル市訪問、交流戦実施

その他大会主管、イベント等	特記すべき戦績1 (全国での優勝／準優勝)	特記すべき戦績2 (KTFA関東大会での優勝／準優勝)	
			1997 以前
			1998
2004年高麗全国シニア40優勝	2014年 lazos (全国優勝)	2015年 FC青山40全国優勝	1999
			2000
2021年 四十雀50全国大会優勝	2024年 Tドリームス50全国優勝	2025年 エリース全国優勝	2001
			2002
			2003
	O-40 日本スポーツマスターズ 優勝 高麗SC O-50 全国シニア 優勝 セレクシオントキオ		2004
プレ関東シニア大会を東京主管で実施 (東京、神奈川、千葉3都県の参加)	O-50 全国シニア 優勝 セレクシオントキオ		2005
O-40プレ関東シニア選手権を主管 四十雀クラブ東京が主催する新春の四十雀東京大会にグランド提供する形で共催に参画	O-50 全国シニア 優勝 セレクシオントキオ	プレ関東シニア選手権 O-40 優勝 東京北区シニアFC	2006
ロイヤル東西対抗戦 東大LB会との共同主管 4級審判取得講習会実施 O-40日本スポーツマスターズ関東予選会を主管 O-50全国シニア関東予選会を主管		関東シニア選手権 O-50 優勝 セレクシオントキオ	2007
都民生涯スポーツ大会のサッカー競技主管を開始 AED講習会実施		関東シニア選手権 O-50 優勝 高麗SC50	2008
	O-50 全国シニア 準優勝 高麗SC50		2009

年表

	組織運営(含む人事)	大会や行事等の開始・中断・終了、年齢カテゴリー拡大	国際交流
2010	開幕式@東京厚生年金会館 ゲスト：藤口光紀氏		ソウル市との交流開始 第1回東京ソウル定期戦開始 (東京開催)
2011	開幕式@中野サンプラザ ゲスト：岡野俊一郎氏		第2回東京ソウル定期戦 (ソウル市開催)
2012	開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：鈴木良平氏	O-70 SFL70開幕 初年度4チーム O-60 秋季大会終了	第3回東京ソウル定期戦開催 (東京開催)
2013	開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：松本育夫氏	O-65 CWL65開幕 初年度7チーム	第4回東京ソウル定期戦 (ソウル市開催)
2014	開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：関塚隆氏	O-40のリーグ構成をTCLに一元化 O-40、O-50 秋季大会終了	中国から広州市が東アジア交流に参画、2023年以降は広州市に代り上海市が参画 第1回東アジアシニアサッカー大会を赤羽スポーツの森公園、歓迎レセプションを新宿プリンスホテルにて開催
2015	開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：藤縄信夫氏		第2回東アジアシニアサッカー大会 (広州市開催)
2016	開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：野村六彦氏	O-60春季大会終了、次年度より全国シニア東京都予選会へ移行 年齢基準変更(年度初から年度中基準に変更)	第3回東アジアシニアサッカー大会 (ソウル市開催)
2017	開幕式@リーガロイヤルホテル	新春企画大会(リーグ王者と予選会王者とのチャンピオンシップ戦を含む交流大会)を開始 O-75 SFL75開幕 初年度4チーム O-60 全国シニア東京予選会開幕(全国大会は翌年度開催、2012年～2017年の全国大会には前年度リーグ優勝チームを中心とする選抜チームを東京代表として関東予選会に派遣、それ以前はリーグ選抜チームを派遣)	第4回東アジアシニアサッカー大会を味の素フィールド西が丘、赤羽スポーツの森公園、歓迎レセプションをリーガロイヤルホテルにて開催
2018	深澤光賢氏2代目委員長就任 開幕式@リーガロイヤルホテル		第5回東アジアシニアサッカー大会 (広州市開催)
2019	開幕式@リーガロイヤルホテル 人命救助表彰	重複登録廃止	第6回東アジアシニアサッカー大会 (ソウル市開催)
2020	佐藤也寸志氏3代目委員長就任 開幕式@リーガロイヤルホテル	コロナで活動中断、予選会は延期対応、主なりリーグ戦は延期再開後、感染症予防対策を実施のうえ、2ブロックに分け、時間も短縮した縮小開催を実施	東アジアシニアサッカー大会 (東京開催)コロナにより中止
2021	開幕式オンライン開催 代表者会議オンライン開催(以降オンラインで実施)		東アジアシニアサッカー大会 (東京開催)コロナにより中止
2022	開幕式オンライン開催	予選会単独参加制度廃止	東アジアシニアサッカー大会 (東京開催)コロナにより中止
2023	開幕式オンライン開催	O-70 全日本大会東京予選開幕(全日本大会は翌年度の開催、2021年、2022年はリーグ優勝チーム、それ以前はSFL選抜チームを東京代表として関東予選会に派遣) O-80 SFL80開幕 初年度3チーム O-40、O-50、O-60 予選会参加資格変更(新年度1部、2部リーグ所属し、参加意思表明しているチーム)	広州市にかわり上海市が東アジア大会に参画 第7回東アジアシニアサッカー大会を駒沢オリンピック公園、歓迎レセプションをリーガロイヤルホテルにて開催
2024	末永孝彦氏4代目委員長就任 開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：JFAシニアサッカーアンバサダー金田喜穂氏、特別ゲスト：小池百合子都知事	O-50 TSL一般球に切り替え(リーグ戦のみ)	第8回東アジアシニアサッカー大会 (当初上海市開催の予定をソウル開催に切り替えて実施)
2025	開幕式@リーガロイヤルホテル ゲスト：クリアソン新宿 フットボールアンバサダー 森岡 隆三氏	O-50 東京都予選会も一般球に切り替え	第9回東アジアシニアサッカー大会 (上海市開催)

その他大会主管、イベント等	特記すべき戦績1 (全国での優勝／準優勝)	特記すべき戦績2 (KTFA関東大会での優勝／準優勝)	
	O-50 全国シニア 優勝 高麗SC50 O-70 シニアフェスティバル ブロック優勝 東京ロイヤル(選抜チーム)		2010
		関東シニア選手権O-50 優勝 セレクション・トキオ	2011
	O-70 シニアフェスティバル ブロック優勝 東京ロイヤル(選抜チーム)	関東シニア選手権 O-50 優勝 toyopet-senior	2012
O-60 シニア健康フェスティバルのサッカー競技主管を開始	O-50 全国シニア 優勝 toyopet-senior O-70 シニアフェスティバル ブロック優勝 東京ロイヤル(選抜チーム)	関東シニア選手権 O-50 優勝 高麗SC50 O-60 優勝 四十雀クラブ東京60	2013
AED講習会実施	O-50 全国シニア 優勝 toyopet-senior O-60 全国シニア 優勝 東京都選抜(Lazos27) O-70 シニアフェスティバル ブロック優勝 東京ロイヤル(選抜チーム)	関東シニア選手権 O-50 優勝 toyopet-senior O-60 優勝 FCマジョール	2014
	O-40 全国シニア 優勝 FC青山オーバー・フォーティ	関東シニア選手権 O-50 優勝 toyopet-senior O-60 準優勝 セレクション・トキオ・ロホ	2015
O-60 KTFA関東サッカー大会を主管 この年をもって四十雀東京大会の共催を終了	O-60 全国シニア 優勝 東京都選抜(Lazos2011)	関東シニア選手権 O-60 準優勝 Lazos2011	2016
		関東シニア選手権 O-50 優勝 東京ベイフィットボールクラブ O-60 準優勝 Lazos2011	2017
	O-50 全日本大会 準優勝 MITAKA EAGLES O-70 オープン大会 ブロック優勝 東京ロイヤル(選抜チーム) ブロック優勝		2018
O-50 KTFA関東サッカー大会を主管	O-60 全日本大会 準優勝 PET60 O-70 オープン大会 ブロック優勝 東京ロイヤル(選抜チーム) ブロック優勝	KTFA関東サッカー大会 O-40 優勝 エリース東京シニア40 O-50 優勝 四十雀クラブ東京50 O-60 優勝 PET	2019
			2020
O-50 KTFA関東サッカー大会主管予定はコロナの影響で中止	O-50 全日本大会 優勝 四十雀クラブ東京50		2021
O-40 TCLオールスター戦を西が丘で実施 O-40 KTFA関東サッカー大会を主管	O-50 全日本大会 優勝 T・ドリームス50	KTFA関東サッカー大会 O-50 準優勝 T・ドリームス50	2022
O-70全日本大会関東予選会を主管 SUCCESS DAY開催	O-40 全日本大会 優勝 エリース東京シニア40	KTFA関東サッカー大会 O-50 優勝 T・ドリームス50 O-60 優勝 渋谷区FCミドル60 O-70 準優勝 WKU Over-70	2023
O-60全日本大会関東予選会を主管 フェアプレイデイズ開催 ワカサプリ DAY開催	O-50 全日本大会 優勝 T・ドリームス50 O-50 全日本大会 準優勝 FC武蔵ユナイテッド50 ・東京勢同士の決勝戦 O-60 全日本大会 優勝 T Dreams-60 ・TドリームスはO-50、O-60の2カテゴリーで全国制覇 O-70 全日本大会 準優勝 Super Infinito de Cero	KTFA関東サッカー大会 O-50 優勝 T・ドリームス50 O-60 優勝 T Dreams-60 O-70 優勝 墓東70	2024
O-50全日本大会関東予選会を主管 フェアプレイデイズ開催	O-40 全日本大会 優勝 エリース東京シニア40	KTFA関東サッカー大会 O-50 準優勝 FC青山オーバーフィフティ O-60 優勝 PET60	2025



日本のシニアサッカーを 導く東京モデル 理念と実践の25年

公益財団法人東京都サッカー協会 顧問
シニアサッカー連盟 顧問
東アジア大会担当名誉会長

チヨ ミョン
曹 明 氏

シニアサッカーの体制整備に向けて

シニアサッカー連盟は2000年に設立されました。その前段階として、1999年に都内でシニアサッカー活動をしていた下記6つの団体・チームが、当時の東京都サッカー協会会長の故安田一男氏のもとに召集されました。その目的は、2001年から「日本スポーツマスターズ大会」にサッカー種目を参入するにあたり、東京都シニアサッカーの体制を整備し、その各種大会を管理・運営するシニアサッカー組織を立ち上げ、将来的に本格的なシニアサッカー連盟組織を構築することにありました。

■召集された団体・チーム

- ① 東京SMSL（東京23区のサッカー協会
代表チームで構成されたリーグ）
- ② 四十雀クラブ東京（全国的なチーム活動をしていたチーム）
- ③ 江東五区リーグ（江東五区を主とする地域活動を実施）
- ④ 三多摩リーグ（三多摩地区で活動）
- ⑤ SOI（旧制高等学校のサッカーOB組織
で各種大会を運営）
- ⑥ 区都市サッカー連盟（東京都スポーツレクリエーション大会を運営）

3カ月に1回のペースでシニアサッカーに携わった関係者が集う会議が開催され、シニアサッカー連盟設立の検討が開始されました。2000年の3月には、私、曹明を委員長とし、各組織から選出の役員が決定し、本格的に東京都シニアサッカー連盟の設立へと動き出しました。

しかしながら、当時のシニア世代には「サッカーはお金をかけずに楽しむもの」という風潮が強く、「シニアになってからもJFA登録をする必要がない」という考えが圧倒的でした。その上地域では、登録しなくてもシニアサッカーを楽しめる環境ができつつありました。

そのため、いかにJFA選手登録をしてもらうかが委員会の大きな課題となっていました。

当然、この問題は委員会でも繰り返し議題として取り上げられました。その結果、「お金をかけても損を感じない運営」を目指す方針が導き出されました。

日本のサッカー界の最年長にあたるシニア連盟が、東京、そして、日本全国のサッカーの模範となるような大会運営を目指すこととしました。そのための基本原則として、以下の3事項を実践することを決定し、これが現在の東京都シニアサッカー連盟の発展につながっていったと思われます。

■3つの基本原則

1. 正式なグラウンドの提供

正規のピッチを準備できない校庭などは使用せず、競技場・サッカー場での開催を目指しました（当時、使用した施設：西が丘補助競技場・北区北運動場・世田谷区総合運動場・西が丘サッカーフィールド・読売ベルデイグランド・舎人公園陸上競技場など）。

2. 公式審判員の派遣

東京都審判委員会に公認資格2級を中心に審判員の派遣を依頼しました。副審はチームの帯同審判で行いましたが、原則3級以上の有資格者とし、審判服着用も義務付けました。

3. きっちとした管理を徹底

時間の管理、ベンチの管理、競技場の管理など、すべてにおいて、「きっちとした管理を徹底」し、参加選手や関係者が各地域に戻ってからも「きっちとした管理」の指導ができるように、模範となる運営を実施しました。当然ながらユニフォームの統一を徹底し、パンツ、ストッキングの色・線などを揃えるように徹底的な指導をしました。

シニアサッカー連盟の誕生

2001年からOver40全国大会「第一回日本マスターズサッカー大会」の東京都予選および「プレ全国シニアサッカー大会Over50」の東京都予選が始まり、これらシニアサッカーの大会を東京都サッカー協会シニアサッカー委員会として主管運営しました。

大きな課題であった登録に関しては、成績の上位チームにJFA登録をしてもらうこととし、初年度は優勝チームが登録を行いました。その後、ベスト16チームがJFA登録することとし、各リーグの成績上位チームから徐々に登録を行ってもらうこととしました。その見返りとしてより充実した運営、試合数の増加（秋季大会設立等）に努めました。

毎年登録チームが増加していき、2005年には53チームがJFA登録し、北海道、鹿児島を抜き全国一のチーム登録数となり、以降チーム登録数の全国1位は不動となりました。

そしてこの2005年に東京都サッカー協会内の

委員会から、東京都シニアサッカー連盟へと正式に昇格が決定することになりました。

国内、そして海外に広がるサッカーの輪

リーグ戦においては、シニアサッカー委員会立ち上げ後もSMSL、三多摩リーグは継続して開催されていましたが、その他のクラブチームは春の全国予選と秋期大会しかありませんでした。そこで、クラブ組織のリーグを2003年に、TML（東京都マスターズサッカーリーグ）として8チームで立ち上げました。2005年からのリーグ一本化改革に向けて、23区代表（SMSL）・クラブリーグ（TML）・三多摩リーグの統一リーグ結成を目指しました。

さらに、各連盟所属チームの試合数を増やすため、秋期大会（トーナメント）も初年度より開催しました。この大会は、リーグ戦の充実により試合数が増加したことで終了する2014年まで継続されました。

関東サッカー協会においては、2007年に関東

8都県のリーグチャンピオンを集めた関東シニアサッカー選手権（関東選手権）の開催を提唱し、この大会は、現在も継続開催されています。2015年のO-50の全国大会において、関東協会代表3チームが1位～3位を独占するという快挙を成し遂げましたが、この関東選手権の功績が大きいと思われます。

国外においては、リーグ戦覇者のさらなる交流を目的に、東京都とソウル市の日韓サッカーを2010年に開設しました。その後、当時のシニアサッカー連盟委員長だった私と、ソウル市サッカー協会崔会長と協議を重ねて、加盟チーム選手で議員秘書の篠田氏を通して、中国大使館を訪問。その結果、当时代中国で勢いのあった広州市の参加が決定し、2014年より、東アジアの3都市（東京、ソウル市、広州市）の各協会と共に「東アジアシニアサッカー大会」を立ち上げました。

3都市が持ち回り（2015年広州市、2016年ソウル市）で主管を行い、各国のO-40、O-50の代表が参戦しました。2017年第4回は東京都、2018年は広州、2019年は龍仁（豚コレラの影響で坡州から急遽変更）。その後は、コロナウイルスの影響で2020年から2022年まで休止。2023年から復活しましたが、広州市がスポンサー企業の経済不振により辞退し、兼ねてから興味を持っていた上海市が参加しました。2024年はソウル

市、2025年は「第9回東アジアシニアサッカー大会」を10月24日から26日まで上海市で開催しました。今後は、2026年東京、2027年ソウル市と続きます。

シニアサッカーの面白さとは

シニアサッカーの面白さは、10歳刻みの年代別カテゴリーをO-40、O-50、O-60、O-70とすることにより、例えば40代後半の体力に衰えが見えてきた選手が、50歳になると同時にO-50のチームで新戦力としてよみがえることができる点かもしれません。

また、サッカーを続けていくことにより、元代表クラスの選手と同じ土俵で戦える可能性もあります。これまでに、日本サッカー界で活躍された有名選手で東京都シニアサッカーに参加していただき貢献された方々には、私が知っている限り、大野毅選手（東洋工業）、細谷一郎選手（三菱重工）、松永章選手（日立製作所）、藤口光紀選手（三菱重工）、菅又哲男選手（日立製作所）、金田喜稔選手（日産）、田中孝司選手（日本鋼管）、大貫啓一選手（横浜フリューゲルス）、熊谷選手（日立製作所）、本田泰人選手（鹿島アントラーズ）など多くの方々がいました。他にもご協力の方々もいると思います。

この25年間においては、数々の優秀チームが生まれましたが、最も記憶に残るチームとしては、



2015年第2回東アジア広州大会 ソウルと東京

全国大会への出場決定戦で敗れ、がっくり。でも、来年も選手は開かれている—16日、宇都宮市の橋本町総合運動公園で



公式戦未出場「幻の日本一」
東京朝鮮高級学校サッカー部OBら

平均44歳初の晴れ舞台

惜敗に「来年もある」

朝日新聞にも高麗SCの特集が掲載された

O-40では高麗サッカーチームです。幻の高校代表と言われた朝鮮高校・朝鮮大学のOBチームで実力が抜きんでていました。

第1回（2001年）から第4回（2004年）までの「日本スポーツマスターズ大会（現JFA O-40）東京予選会4連覇、そして、東京代表として全国大会でも優勝1回、3位1回、2003年から始まった東京都秋期シニアサッカー選手権大会2連覇と春・秋を通して、6連覇という圧倒的な強さで偉業を達成しました。また、このチームはO-50に年代が上がった2010年にも全国制覇をしています。

その他にも、常に上位に絡む四十雀クラブ東京が挙げられ、O-40・O-50・O-60共に安定した実力を見せています。また、2015年初登録で予選を勝ち抜き東京代表となり、関東予選を無敗で突破、そして全国制覇という快挙を成し遂げたFC青山O-40が挙げられます。

O-50では、セレクション・トキオFCが2004年～2006年全国大会3連覇という偉業を成し遂げています。強豪がひしめき合うO-50ですが、中でもトヨペットクラブ（60ではペット60）が存在感を示しています。流れるようなパスサッカーで2013年、2014年と全国大会2連覇を果たし、関東地区では常に目標とされ続けていました。全国大会3連覇を目指した2015年の関東予選の代表決定戦では、惜しくもPK負けで全国大会出場はならなかったですが、このとき関東サッカー協会より出場した3チームが全国大会1位～3位を独占したことから、3連覇の実力はあったと思われます。

ここ近年では、伝統的な実力の帝京高OBを中心のTドリームス、社会人関東リーグからのエリースFC、O-60ではトキオFCの流れをくむラソスなどが挙げられます。

シニアサッカーのさらなる成長に向けて

東京都シニアサッカー連盟における登録数は2001年度から始まり、当初1チーム12人からスタートした登録数は、2024年度には221チーム、5914選手となりました。このように、全国一の登録組織となったのは、多くのご支援をいただいた団体・企業はもとより、東京都のシニアサッカーを愛する方々の積極的な運営へのご協力があつたことにほかならず、感謝に堪えません。

今後とも引き続き皆様のご支援・ご協力をいただきながら、ますます成長することを心より祈念いたします。



シニアサッカーの礎を築いて

——小倉功・元副委員長に聞く
創設の歩みと未来への提言

出会いから始まった 東京シニアサッカーの構想

——シニア連盟設立前後のお話を聞かせください。

小倉：もう30年ほど前になりますね。島根の松江で開かれた全国大会(全国スポーツ・レクリエーション祭)に東京代表として参加したとき、曹さん(初代委員長)と初めて出会いました。

5日間の滞在の中で、「このまま終わらせるのはもったいない。シニアの大会をつくろうじゃないか」という話になって、それが区代表によるリーグ、スーパーマスターズリーグ(SML)の立ち上げにつながりました。

最初は北区、新宿区、豊島区、大田区、目黒区、世田谷区の6区でオーバー40のリーグ戦を始めたんです。その後、東京都サッカー協会から声をかけてもらって、クラブチームや多摩地域のリーグも加わり、都全体の組織に発展していきました。

当時は「シニア世代がJFA登録料を払う必要があるのか」といった反発もありましてね。理解を得るのにずいぶん時間がかかりましたよ。

社会人サッカーから シニアカテゴリー創設へ

——シニア以前は、どのようにサッカーに取り組んでこられたのですか。

小倉：大学を出たころは就職難の時代で、たまたま日興証券のサッカー部に誘われて入部しました。東京都1部リーグでプレーした後、関東リーグ1部のチームに移り、28歳くらいまで本格的にやっていました。

ただ膝を痛めてしまって。それをきっかけに第一線を退き、地元の北区リーグで“遊びのサッカー”を楽しむようになりました。

40歳になったころ、北区でシニアチームを立ち上げました。60人ほどの仲間を集めてリーグをつくり、私は当時、北区サッカー協会の理事長でもあったので、その立場を活かしてシニアの環境整備を進めました。

きっかけの一つに、古河市で開かれていた古賀マスターズ大会があります。参加してみたら、初年度が準優勝、翌年は優勝。それで古河市長に「東京ではサッカーをやる場所がなくて困っている」と話したら、「市のグラウンドを使ってい

いですよ」と言ってくださった。

でも東京都サッカー協会の安田会長に相談したら、「いい話だけど、ちょっと遠いな」と(笑)。「それなら北区でリーグをつくろう」という流れになったんです。

イギヨラ杯創設に向けた尽力

——小倉さんといえば「イギヨラ杯」が思い浮かびます。創設の経緯やエピソードを教えてください。

小倉：あれはもう35年くらい前のことです。朝鮮高校の歴代監督から、「自分たちは強いのに、公式戦に出られない」という話を何度も聞いていました。

そんな中で、朝鮮高校OB会の強い要望と支援があり、「在日朝鮮人が出られる大会をつくりたい」という思いから始まりました。

「強豪チームをただ呼ぶのではなく、各地の高体連の委員長や副委員長が関わっている実力校を招こう」と考えて、鹿児島実業高校や、南宇和高校の顧問の先生を直接訪ねてお願いしました。

この取り組みは北区協会の枠を超えて、東京都全体のサッカー発展や多文化交流にもつながったと思っています。

それと、大会開催には審判の確保が必要でした。当時の東京都サッカー協会審判委員長のところへ、夜遅く山梨県上野原のご自宅まで一人で伺ったこともあります。道に迷いながら(笑)。でもその甲斐あって、2級以上の審判団を派遣してもらえることになったんです。

北区にサッカーの拠点をつくる

——「赤スポ」整備やシニアのグラウンド確保にも尽力されました。

小倉：サッカーを広めるには、やっぱり「グラウンド」というハード面の整備が欠かせません。東京は昔からグラウンド不足が深刻でしたが、都内各地域の行政が必ずしもサッカー やスポーツに関心が強くないところも多い中で、北区は比較的前向きでしたね。

その背景には、自民党の北区議会議員の存在が大きかったと思います。議員の支援で、文部事務次官や国交省事務次官に直接会うことができ、「スポーツ公園として整備すれば国の補助金が85%出る」という仕組みを教えてもらいました。

最終的には、植栽を40%取り入れる条件で、赤羽スポーツの森公園のグラウンド建設が実現しました。

その際には、福田電子アリーナや横浜国際競技場を区職員に視察してもらって、「こういう設備が必要なんだ」と理解してもらいました。口で説明するより、実際に見せた方が早い。やっぱり現場に足を運ぶことが大事なんです。今のようにパソコンでシミュレーションできる時代でも、現場で感じる説得力には敵いませんね。

シニア連盟の活動拠点も、北区では最初は北運動場を使っていました。そのほか、舍人公園陸上競技場や府中の森公園が中心でした。舍人公園の使用も、曹さんと一緒に東京都建設局へ直談判して実現したものです。

都議の猪爪さんにもご協力いただき、足立区サッカー協会と連携して、Over40の準決勝・決

勝を舎人公園の天然芝で開催できたのは大きな成果でした。

自分のサッカー人生を振り返ると、「イギョラ杯」「シニア連盟」「赤スポ」。この3つが大きな柱ですね。

「人とのつながり」の大切さ

——これまでの活動の中で、大切にしてきたことは何でしょうか。

小倉：やっぱり「人とのつながり」ですね。SMLの立ち上げも、人と人のつながりが鍵でした。曹さんと一緒に各区の代表をまとめ、何度も会議を重ねて、三多摩地域やクラブチームも巻き込んで東京都全体へと広げていきました。

立ち上げ当初は資金がなくてね。そんなときに支援してくださったのが「モルテン」と「ミズノ」でした。特にモルテンの民秋社長とは深いご縁があり、何度も自宅に伺ったほどです。

サッカーを通して本当に多くの人と出会い、仲間ができました。今でも毎週、赤spoの練習会に60人以上が集まってサッカーをしています。こんなに幸せなことはありません。

運営には苦労も多いですが、ゼロからつくり上げた時代を振り返ると、苦労を「苦痛」ではなく「楽しみ」として受け止めていたから続けられたんだと思います。

強豪校の顧問の先生を訪ねて地方へ出かけるのも、私にとっては“負担”ではなく“楽しみ”でした。

それにね、物事は100%うまくいくわけじゃない。50%できれば十分。そう考えることで、自分を楽にして、楽しみながら続けることができました。

挑戦し続けること、それが連盟の使命

——最後に、シニア連盟の今後に向けてアドバイスをお願いします。

小倉：これから先の30年、50年、そして100年と続していく中で、「健康寿命の延伸」という社会的意義をもっと打ち出していくことが大事だと思います。

サッカーを続けることで病院に行く回数が減り、医療費の削減にもつながる。これはもう国家レベルの貢献ですよ。

少子高齢化で、シニアの競技人口が大幅に増えることはないかもしれません、東京都シニアサッカー連盟は全国でも屈指の大きな組織です。その力を活かして、全国の仲間との交流をもっと深めていってほしいですね。

交流を続けている藤枝フットボールクラブさんに加えて、例えば北海道や福島、熊本、沖縄など、サッカーに熱心な地域と積極的に手を結ぶことで、活動の幅がぐんと広がると思います。

今、地方ではサッカー専用スタジアムの建設が進んでいます。「場所はあるけど人が少ない」地域と、「人は多いけど場所がない」東京。そこをつなぐ交流には大きな意味がありますよ。

若い世代には、新しいカテゴリーや事業をどんどん生み出してもらいたい。

30周年、50周年を見据えながら、「新しいことに挑戦し続ける」。それが連盟の使命だと思っています。

——貴重なお話と、アドバイスをありがとうございました。

*聞き手：末永 孝彦（東京都シニアサッカー連盟 委員長）
浅野 正樹（東京都シニアサッカー連盟 常任委員）



初代委員長の喜さん慰労会に集まる
中期中核メンバー

受け継がれた志と、 試練の時代を越えた成長

2018～2024 東京シニアサッカー連盟の歩み

シニアサッカーの大きな節目

2018年、東京のシニアサッカーは大きな節目を迎えていた。初代委員長のもとで築き上げられた連盟の礎。その志を受け継ぎ、連盟運営の実務を支えてきた中核メンバー（深澤、本間、嶺野、佐藤、倉田、大槻）が、次の時代を担う体制へと本格的に移行する時期であった。

当時の東京都登録チーム数は166。すでに全国有数の規模でありながら、その後も拡大の歩みは止まらず、2019年には184、2020年には205と年々増加を続けていく。この頃から、関係者の間では次第に共通の認識が生まれ始めていた。

「このまま増え続ければ、いずれグラウンドが足りなくなる」

「東京は、全国でも突出した“激戦区”になる」

この“予感”こそが、その後の苦難と挑戦の時代を方向づけていくことになる。

暑熱対策の始まりと、WBGTという現実

2019年、連盟運営に新たな判断基準が加わった。それが暑熱対策である。社会全体でもWBGT（暑さ指数）が徐々に注目され始め、スポーツ現場においても「熱中症は自己責任では済まされない」という認識が急速に広まっていった時

期であった。

連盟としても、試合中止基準の検討、給水や休憩のルール整備など、安全確保を最優先とする運営へと大きく舵を切った。

しかしこれは、「やる・やらない」ではなく、「止める決断」を突きつけられる取り組みでもあった。WBGTの数値が基準を超れば、たとえ選手が遠方から集まっていても試合は中止。その判断の先にある選手の落胆、チームの無念。それらを全て背負うのが、連盟の役割となつた。

この「暑さと命を天秤にかける判断」は、以後、連盟運営に常に重くのしかかる責任となっていく。

コロナ禍という未曾有の危機

2020年、新型コロナウイルスの感染拡大は、連盟の想定をはるかに超える試練をもたらした。

大会中止、活動停止、移動制限。特に高齢者が多くを占めるシニアスポーツにおいては、「活動継続そのものが危険視される」状況となつた。

このとき、連盟が選択したのは「止めないための運営」であった。参加者リストによる感染経路管理、手洗い・消毒の徹底、握手の中止、マスク携行、距離の確保、専用タオルの使用、飲み物の共有禁止、毎日の検温、フィールド上での唾吐きやうがいの禁止、更衣室での密回避。細部

に至るまでガイドラインを整え、できる限りの対策を積み重ねていった。

決して楽な対応ではなかった。選手やチーム代表者にも大きな負担を強いるものだった。しかし、多くの選手がこれを真剣に受け止め、連盟と一緒にとなって取り組んでくれた。

その結果、2020年の登録人数は4,354名。社会全体でスポーツ人口が落ち込む中にあっても、東京のシニアサッカーは「減らなかつた」のである。

異常高温とグラウンド不足という二重苦

2021年以降、暑熱対策はさらに厳しさを増す(2021年より末永、森本が中核メンバーに加わる)。記録的な猛暑が続き、WBGTが基準値を超える日が常態化。試合中止や延期の判断を迫られる場面は、年々増えていった。

さらに、台風や豪雨・落雷の影響も重なり、会場が使用不能となる事例も相次ぐ。都内で確保できない場合には千葉・埼玉・神奈川方面まで足を延ばしての代替開催も増え、時間的・経済的な負担は大きく膨らんだ。

「試合を成立させたい」

しかし、「選手の命を預かっている」という意識が、常にそれ以上に重くあった。この頃の連盟運営は、まさに苦渋の決断の連続であった。

拡大し続けた東京都シニアサッカー人口

こうした状況にあっても、東京のシニアサッカーは成長を止めなかった。

これは単なる「回復」ではなく、明確な拡大局面への突入を示す数字である。

逆境の只中にあっても人が集い続けたことは、シニアサッカーが「健康」「仲間」「生きがい」という価値を、社会の中で確かなものとして獲得していた証でもあった。

登録チーム・選手数の推移

年	チーム数	選手数
2018	166	3,972人
2019	184	4,354人
2020	205	4,429人
2021	219	4,730人
2022	231	5,048人
2023	252	5,547人
2024	267	5,899人
2025	286	6,000人超

全国2枠獲得への挑戦

チーム数の増加は、そのまま東京都予選の熾烈化を意味した。勝ち残ること自体が極めて難しい状況となる中で、連盟は「東京は数だけでなく、実力でも全国と戦える存在である」ことを示さなければならないと考えるようになる。

こうした背景のもと、補助金によるチーム支援、

現場に寄り添った運営サポートを積み重ね、競技環境の底上げを進めていった。

その成果として、2023年、東京都は全日本サッカー大会における出場枠「2枠」を獲得。さらにその東京代表が、全国の舞台で上位に進出する結果を残したことは、東京のシニアサッカーが「質」においても全国屈指であることを証明する出来事となつた。

東アジアサッカー大会 ～存続の危機と再出発～

東アジアサッカー大会においても、連盟は大きな試練に直面した。上海が新たに参戦した大会が一つの転換点となつた。

初参加となる上海との文化的・競技志向の違いは大きく、試合中には想定外の暴力事件も発生。その場に居合わせた大会運営者は必死の仲裁に入り、事態の収束に奔走した。

さらにこの大会は、コロナ禍により2大会連続で中止を余儀なくされてからの再開、存続そのものが危ぶまれる状況に追い込まれていた。

「ここでやめてしまえば、二度とこの大会は戻ってこない」

その思いが、連盟関係者の背中を押した。困難を承知の上で、「大会をつなぎ留め、ここから改めて国際的な友好関係を築き直していこう」という決意が生まれた。

この覚悟が、現在の東アジアサッカー大会の再出発につながっている。

2025年、そして未来へ

2025年現在、東京のシニアサッカーはチーム数286、登録人数約6,000名超という全国最大級の規模へと成長した。

この歩みは、誰か一人の功績によるものではない。初代委員長の志、それを受け継いだ中核メンバー、日々の運営を支えた常任委員、現場に立ち続けた加盟チームと選手達、すべての関係者の積み重ねによって、今日の東京が形づくられている。

2018年から2024年。この7年間は、東京のシニアサッカーが「継承」から「進化」へと大きく舵を切り、数と質の両面で全国トップクラスへと押し上げられた時代であった。

この歩みは、次の世代へと確かに引き継がれていく。

リーグ・トーナメント優勝チーム

1部リーグ優勝回数

Over-40

TCL-1

2005-2025 全21回開催

四十雀クラブ東京	4回	HTK Albiceleste	2回
T・ドリームス	3回	新宿マエストロス 40	1回
エリース東京シニア40	3回	ラ・セレクシオーネ世田谷40	1回
C.A.REAL TOKYO 40	3回	トヨペットクラブ	1回
北区シニアFC40	2回	足立マスターズ	1回

Over-50

TSL-1

2006-2025 全20回開催(初年度は2ブロック制?)

セレクション・トキオ	6回	四十雀クラブ東京50	2回
toyopet-senior	3回	FC武藏ユナイテッド50	1回
T・ドリームス 50	3回	大田区シニア50	1回
高麗SC 50	2回	FC青山オーバーフィフティ	1回
東京ベイFC O-50	2回		

東京都予選会優勝回数

Over-40

東京都予選会

2001-2025 全25回開催

高麗SC	6回	C.A.REAL TOKYO 40	2回
T・ドリームス	4回	東京ベイFC	2回
FC青山オーバー・フォーティ	3回	世田谷区四十雀	1回
エリース東京シニア40	3回	トヨペットクラブ	1回
新宿マエストロス	2回	四十雀クラブ東京	1回

Over-50

東京都予選会

2002-2025 全24回開催

toyopet-senior	5回	四十雀クラブ東京50	2回
高麗SC 50	4回	桑の根SC	1回
Tドリームス50	4回	東京シニア	1回
セレクション・トキオ	3回	MITAKA EAGLES	1回
東京ベイ50	2回	FC武藏ユナイテッド50	1回

全国大会優勝回数

Over-40

全国大会

2001-2025 全25回開催中4回

エリース東京シニア40	2回
高麗SC	1回
FC青山オーバー・フォーティ	1回

Over-50

全国大会

2002-2025 全24回開催中9回

セレクション・トキオ	3回	高麗SC50	1回
toyopet-senior	2回	四十雀クラブ東京50	1回
T・ドリームス50	2回		

全国大会進出回数 (2回は2チーム選出)

全13回開催中9回

エリース東京シニア40	3回 (優勝2回)
T・ドリームス	3回
C.A.REAL TOKYO 40	3回
高麗SC	2回 (優勝1回、ベスト4・1回)
FC青山オーバー・フォーティ	2回 (優勝1回)
(関東予選敗退)	14回

全国大会進出回数 (2回は2チーム選出)

全24回開催中20回

toyopet-senior	4回 (優勝2回、ベスト4・2回)
T・ドリームス50	4回 (優勝2回)
セレクション・トキオ	3回 (優勝3回)
高麗SC50	3回 (優勝1回、準優勝1回、ベスト4・1回)
四十雀クラブ東京50	2回 (優勝1回)
MITAKA EAGLES	1回 (準優勝1回)
FC武藏ユナイテッド50	1回 (準優勝1回)
東京シニア	1回 (ベスト4・1回)
東京ベイ60	1回 (ベスト4・1回)
(関東予選敗退)	6回

Over-60

CWL-1

2008-2025 全18回開催 (初年度は2回開催)

PET60	6回	東京シニアクラブ	1回
四十雀クラブ東京60	3回	墨東60	1回
Lazos	3回	渋谷区FCミドル60	1回
セレクション・トキオ・ロホ	2回	T Dreams-60	1回
FC OKINA	1回		

Over-65

CWL65-1

2014-2024 全11回開催

FC Cero	7回
墨東65	2回
WKU65	1回
ダンディーズ	1回

Over-70

SFL70-1

2012-2024 全13回開催

WKU70	3回
Super Infinito	3回
四十雀クラブ東京70	2回
墨東70	2回
駒沢70	1回
武蔵野70	1回
ダンディーズ	1回

Over-60

東京都予選会

2017-2025 全9回開催

PET60	5回
T Dreams-60	2回
Lazos 2011	1回
渋谷区FC60ミドル	1回

Over-70

東京都予選会

2023-2025 全3回開催

CeroO70 (Super Infinito)	3回
--------------------------	----

Over-60

春季大会+東京都予選会

2009-2025 全15回開催

PET60	5回
Lazos 2011	3回
T Dreams-60	2回
FCマジョール	2回
四十雀クラブ東京60	1回
御殿下シニア	1回
セレクション・トキオ・ロホ	1回
渋谷区FC60ミドル	1回

Over-60

全国大会

2010-2024 (決勝T導入以降) 全16回開催中3回

Lazos	2回
T Dreams-60	1回

Over-70

全国大会

2020-2025 (決勝T導入以降) 全6回開催中0回

該当なし

全国大会進出回数 (1回は2チーム選出)

全16回開催中13回

PET60	4回 (準優勝1回、中止2回)
Lazos	3回 (優勝2回、ベスト4・1回)
東京都シニア60選抜	2回 (ベスト4・1回)
東京シニアクラブ	1回 (ベスト4・1回)
セレクション・トキオ・ロホ	1回
渋谷区FC60ミドル	1回
T Dreams-60	1回 (優勝1回)
(関東予選敗退)	4回

全国大会進出回数

全6回開催中4回

CeroO70 (Super Infinito)	2回 (準優勝1回、ベスト4・1回)
墨東70	1回 (ベスト4・1回)
東京ロイヤル (SFL選抜)	1回 (中止 1回)
(関東予選敗退)	2回

東京都代表チームの主な戦績(全日本大会)

年	O-40				O-50			
	大会名	回数	結果	代表チーム	大会名	回数	結果	代表チーム
2000	日本マスターズ	プレ	関東予選敗退	東京選抜	全国シニア			
2001		1回	関東予選敗退	高麗SC		プレ	関東予選敗退	東京シニア
2002		2回	ベスト4	高麗SC		1回	関東予選敗退	桑の根SC
2003		3回	関東予選敗退	高麗SC		2回	ベスト4	東京シニア
2004		4回	優勝	高麗SC		3回	優勝	セレクション・トキオ
2005		5回	関東予選敗退	世田谷区四十雀		4回	優勝	セレクション・トキオ
2006		6回	関東予選敗退	新宿マエストロス		5回	優勝	セレクション・トキオ
2007		7回	関東予選敗退	トヨペットクラブ		6回	関東予選敗退	高麗SC50
2008		8回	関東予選敗退	新宿マエストロス		7回	ベスト4	高麗SC50
2009		9回	関東予選敗退	高麗SC		8回	準優勝	高麗SC50
2010		10回	関東予選敗退	高麗SC		9回	優勝	高麗SC50
2011		11回	関東予選敗退	東京ペイFC40		10回	ベスト4	toyopet-senior
2012		12回	関東予選敗退	東京ペイFC40		11回	ベスト4	toyopet-senior
2013	全国シニア	1回	関東予選敗退	四十雀クラブ東京	全日本大会	12回	優勝	toyopet-senior
2014		2回	1次ラウンド敗退	T・ドリームス		13回	優勝	toyopet-senior
2015		3回	優勝	FC青山オーバー・フォーティ		14回	関東予選敗退	toyopet-senior
2016		4回	1次ラウンド敗退	T・ドリームス		15回	ベスト4	東京ペイ50
2017		5回	1次ラウンド敗退	FC青山オーバー・フォーティ		16回	関東予選敗退	東京ペイ50
2018	全日本大会	6回	1次ラウンド敗退	T・ドリームス		17回	準優勝	MITAKA EAGLES
2019		7回	関東予選敗退	FC青山オーバー・フォーティ		18回	関東予選敗退	FC武蔵ユナイテッド50
2020		8回	本大会進出できず※1	エリース東京シニア40		19回	1次ラウンド敗退	四十雀クラブ東京50
2021		9回	1次ラウンド敗退	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta		20回	優勝	四十雀クラブ東京50
2022		10回	関東予選敗退	T・ドリームス		21回	優勝	T・ドリームス50
2023		11回	優勝	エリース東京シニア40		22回	1次ラウンド敗退	Tドリームス50
			1次ラウンド敗退	C.A.REAL TOKYO40			関東予選敗退	FC青山オーバー・フィフティ
2024		12回	1次ラウンド敗退	エリース東京シニア40		23回	優勝	T・ドリームス50
			1次ラウンド敗退	FC青山オーバー・フォーティ			準優勝	FC武蔵ユナイテッド50
2025		13回	優勝	エリース東京シニア40		24回	1次ラウンド敗退	Tドリームス50
2026		14回				25回		

※1：関東予選抽選にて

※2：全日本大会中止



O-60				O-70				年
大会名	回数	結果	代表チーム	大会名	回数	結果	代表チーム	
全国シニア	1回	不明	不明	シニアフェスティバル				2000
	2回	不明	不明					2001
	3回	不明	不明					2002
	4回	不明	不明					2003
	5回	不明	東京5チーム参加					2004
	6回	ブロック4位	青山キッカーズ					2005
	7回	関東予選敗退	東京シニア60		1回	2勝全勝	東京シニア	2006
	8回	関東予選敗退	東京シニア60		2回	2勝全勝	東京シニア	2007
	9回	関東予選敗退	東京シニア60		3回	2勝全勝	東京シニア	2008
	10回	ベスト4	東京ロイヤル		4回	ブロック優勝	東京ロイヤル	2009
	11回	1次ラウンド敗退	東京シニア60		5回	関東不参加	関東不参加	2010
	12回	ベスト4	東京シニアクラブ		6回	ブロック優勝	東京ロイヤル	2011
	13回	ベスト4	東京都選抜 (Lazos27)		7回	ブロック優勝	東京ロイヤル	2012
	14回	優勝	東京都選抜 (Lazos27)		8回	ブロック優勝	東京ロイヤル	2013
	15回	関東予選敗退	東京都選抜 (墨東60)		9回	ブロック2位	東京ロイヤル	2014
	16回	優勝	東京都選抜 (Lazos2011)		10回	関東予選敗退	東京ロイヤル	2015
	17回	1次ラウンド敗退	セレクション・トキオ・ロホ		11回	関東予選敗退	東京ロイヤル	2016
全日本大会	18回	関東予選敗退	Lazos2011	全日本大会	12回	ブロック優勝	東京ロイヤル	2017
	19回	準優勝	PET60		13回	ブロック優勝	東京ロイヤル	2018
	20回	関東予選突破*2	PET60		14回	関東予選敗退*2	東京ロイヤル	2019
	21回	関東予選突破*2	PET60		15回	関東予選突破*2	東京ロイヤル	2020
	22回	1次ラウンド敗退	渋谷区FC60ミドル		16回	関東予選敗退	墨東70(東京SFL)	2021
	23回	1次ラウンド敗退	PET60		17回	ベスト4	SFL墨東70	2022
	24回	優勝	T Dreams-60		18回	準優勝	Super Infinito de Cero	2023
	25回	関東予選敗退	PET60、トリプレッタ60		19回	ベスト4	CERO70	2024
	26回		T Dreams-60		20回		CERO70	2025



東京都代表チームの主な戦績(関東大会)

年	O-40					O-50				
	大会名	回数	開催地	結果	代表チーム	大会名	回数	開催地	結果	代表チーム
2005	プレ関東シニア大会			3位*	東京北区シニアFC40	プレ関東シニア大会			3位*	東京北区シニアFC50
2006	関東シニア選手権	プレ	東京	ブロック優勝	東京北区シニアFC40	関東シニア選手権	ブレ	埼玉	ブロック3位	高麗SC50
2007		1回	東京	3位	新宿マエストロス		1回	千葉	優勝	セレクション・トキオ
2008		2回	栃木	ブロック3位	四十雀クラブ東京		2回	郡馬	優勝	高麗SC50
2009		3回	山梨	ブロック2位	世田谷区シニア40FC		3回	埼玉	ブロック2位	セレクション・トキオ
2010		4回	千葉	2位	渋谷区FCミドル40		4回	神奈川	雪で中止	エドモンズ
2011		5回	郡馬	ブロック3位	ラ・セレクシオーネ世田谷40		5回	東京	優勝	セレクション・トキオ
2012		6回	埼玉	ブロック4位	四十雀クラブ東京		6回	茨城	優勝	toyopet-senior
2013		7回	神奈川	ブロック3位	足立マスターズ		7回	栃木	優勝	高麗SC50
2014		8回	東京	ブロック3位	四十雀クラブ東京		8回	山梨	優勝	toyopet-senior
2015		9回	茨城	ブロック3位	T・ドリームス		9回	千葉	優勝	toyopet-senior
2016		10回	栃木	3位	東京北区シニアFC・40		10回	郡馬	4位	セレクション・トキオ
2017		11回	山梨	3位	T・ドリームス		11回	埼玉	優勝	東京ベイFC50
2018		12回	千葉	3位	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta		12回	神奈川	3位	東京ベイFC50
2019	KTFA関東サッカー大会	13回	郡馬	優勝	エリース東京シニア40	KTFA関東サッカー大会	13回	東京	優勝	四十雀クラブ東京50
2020		14回	神奈川	中止			14回	埼玉	中止	
2021		15回	神奈川	中止			15回	東京	中止	
2022		16回	東京	3位	HTK Albiceleste		16回	茨城	準優勝	T・ドリームス50
2023		17回	茨城	5位	C.A.REALTOKYO 40		17回	神奈川	優勝	T・ドリームス50
2024		18回	栃木	3位	ジュール		18回	山梨	優勝	T・ドリームス50
2025		19回	山梨	4位	HTK Albiceleste		19回	千葉	準優勝	FC青山オーバーフィフティ

※：東京、神奈川、埼玉参加

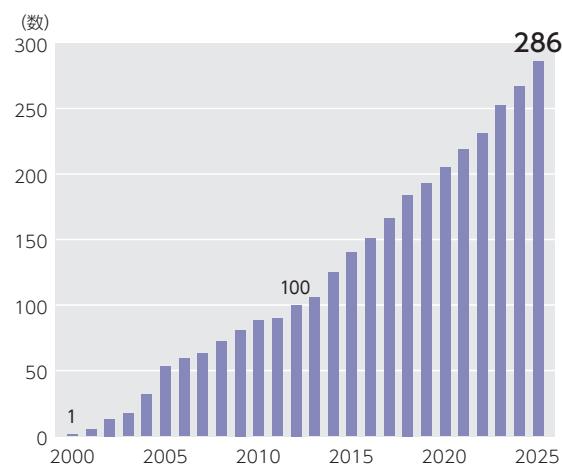


O-60					O-70					年
大会名	回数	開催地	結果	代表チーム	大会名	回数	開催地	結果	代表チーム	
										2005
関東シニア選手権(兼関東予選会)	1回	千葉	ブロック4位	東京シニア						2006
	2回	千葉	5位	東京シニア						2007
	3回	千葉	3位	東京シニア						2008
関東シニア選手権	4回	茨城	4位	四十雀クラブ東京60						2009
	5回	栃木	ブロック3位	四十雀クラブ東京60						2010
	6回	山梨	3位	渋谷1950						2011
	7回	千葉	ブロック3位	FC マジョール						2012
	8回	郡馬	優勝	四十雀クラブ東京60	関東シニア選手権(兼関東予選会)	1回	千葉	優勝	東京ロイヤル	2013
	9回	埼玉	優勝	FC マジョール		2回	千葉	優勝	東京ロイヤル	2014
	10回	神奈川	準優勝	セレクシオン・トキオ・ロホ		3回	千葉	5位	東京ロイヤル	2015
	11回	東京	準優勝	Lazos2011		4回	千葉	4位	東京ロイヤル	2016
	12回	茨城	準優勝	Lazos2011		5回	千葉	優勝	東京ロイヤル	2017
	13回	栃木	3位	PET		6回	郡馬	3位	東京ロイヤル	2018
KTFA関東サッカーハイレベル大会	14回	山梨	優勝	PET	KTFA関東サッカーハイレベル大会(兼関東予選会)	7回	栃木	4位	東京ロイヤル	2019
	15回	千葉	中止		KTFA関東サッカーハイレベル大会	8回	茨城	中止		2020
	16回	茨城	中止			9回	栃木	中止		2021
	17回	栃木	3位	PET60		10回	山梨	5位	四十雀クラブ東京70	2022
	18回	山梨	優勝	渋谷区FCミドル60		11回	千葉	準優勝	WKU Over-70	2023
	19回	千葉	優勝	T-DREAMS60		12回	郡馬	優勝	墨東70	2024
	20回	郡馬	優勝	PET60		13回	埼玉	6位	世田谷70	2025

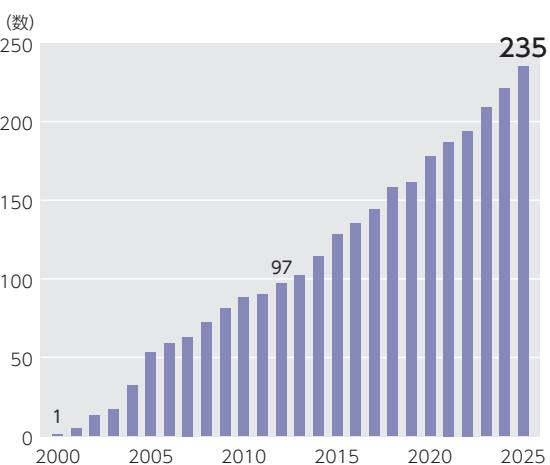


グラフで見るシニアサッカー連盟の推移

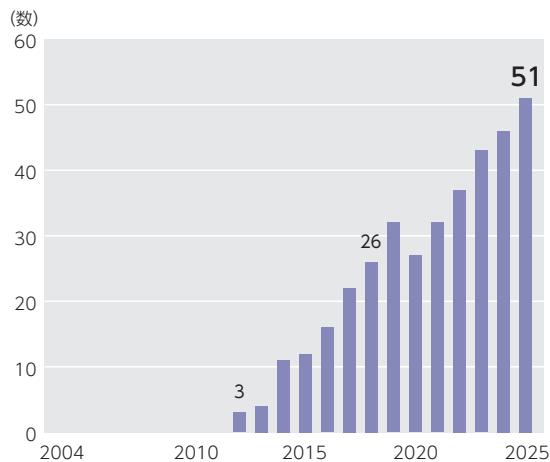
チーム数総合計



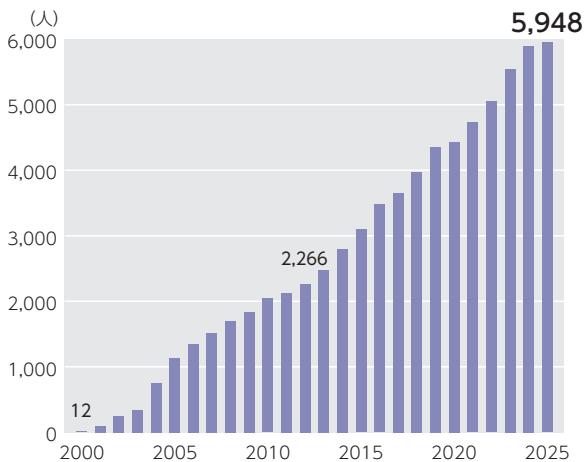
チーム数(JFA登録)



チーム数総合計(JFA登録外)



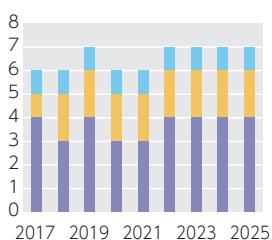
登録人数



リーグ構成



Over40



Over50

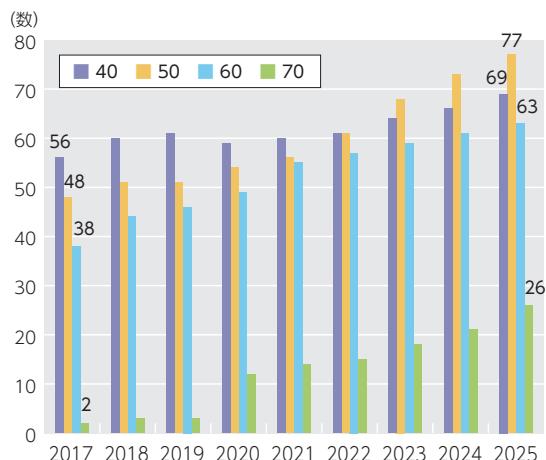
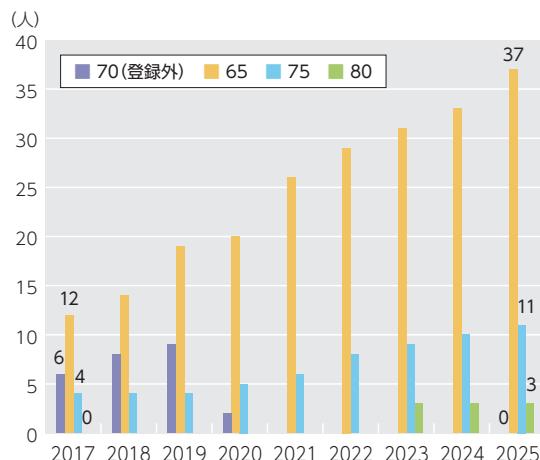
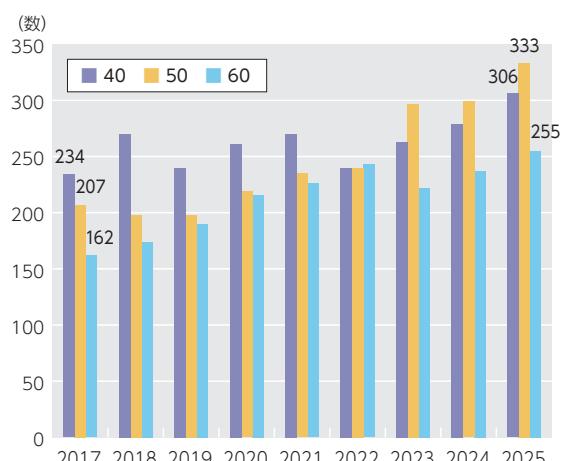
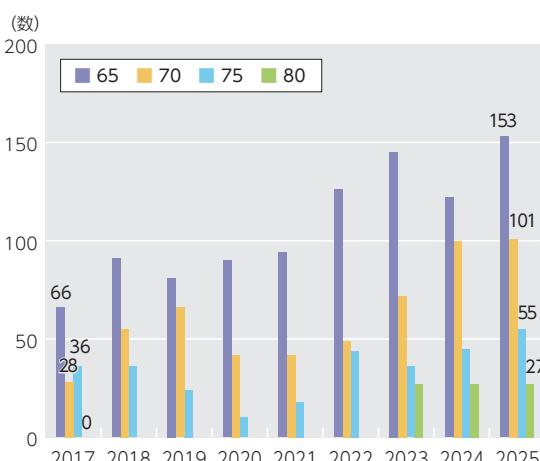
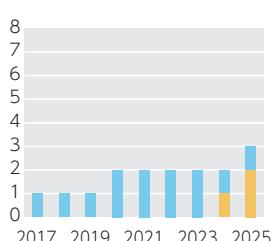


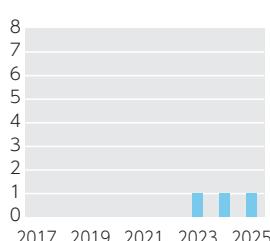
Over60



Over65



JFA登録チーム内訳(40/50/60/70)

JFA登録外チーム内訳(70(登録外)/65/75/80)

試合数(40/50/60)

試合数(65/70/75/80)

Over70

Over75

Over80




特別インタビュー

大人になっても 夢中になれる シニアサッカーが 持つ可能性

JFAシニアサッカーアンバサダー
金田 喜稔 氏

大人になってからでも上達し、仲間が増え、人生が豊かになる。シニアサッカーを真剣に楽しむその背中は、子どもたちに「大人になっても夢中になれる世界がある」という未来を示しています。

全国の大会に足を運び、各地のシニアシーンを見続けてきたJFAシニアサッカーアンバサダー・金田喜稔氏。その視点から、いま日本のシニアサッカーが持つ価値と可能性について語っていただきました。

広島、全日本O-70優勝の舞台裏

——今年の全日本O-70大会では、金田さんのご出身・広島代表が優勝しました。

金田：広島代表は、私にとって先輩方ばかりのチームで、個人的にも思い入れがあります。大会期間中には多くの連絡をいただきましたし、中学時代の同級生でキャプテンだった木村君のお兄さんが決勝ゴールを決め、大いに盛り上りました。

——広島は東京とも対戦しました。

金田：準決勝で東京は広島に敗れましたが、私は大会前から東京を「優勝候補」と見ていました。選手層も厚く、経験値も高かったからです。とはい�建島にも、オーバー60でも通用するほどの力を備えた選手がいて、非常に驚かされました。

“県協会会長が出場”という シニアサッカーならではの現象

——昨年の秋田県にかほ市でのJFA全日本O-70大会でも、東京は予選ラウンドで広島に敗れましたが、辛うじて抽選で決勝ラウンドに進出しました。

金田：秋田のにかほ市での大会といえば、「にかほのスタローン」と知られる佐藤さんが当時秋田県サッカー協会の会長でした。その佐藤さんが今年の全日本O-70大会でも選手として出場し、小学生の頃から一緒にプレーしてきた“秋田の60年コンビ”としてテレビのニュースにも取り上げられていました。

広島も前会長が、島根も会長が選手として大会に出場しています。他の競技ではなかなか見られない、シニアサッカーならではの光景だと思います。

日本のシニア文化が持つ“世界的強み”

—— 東京の各年代の代表チームは、10月上海での東アジアシニアサッカー大会に参加します。2023年の東京開催では金田さんにも出場していただきました。

金田：あのとき駒沢で対戦したソウル市の“ロイヤル”はナショナルチームOB中心で、レベルが非常に高く、サッカーを良く知っていました。相手の完成度に「これは勝てない」と感じたほどです。

—— 他国と比べた日本の強みはどこにあるのでしょうか？

金田：日本ほどグラスルーツとしてシニア世代が地域に根差し、“日常のサッカー文化”に組み込まれている国はありません。アジアの多くの国はプロOBの活動が中心ですが、日本は各地域で年代別リーグが網の目のように整備されています。この広がりこそ、日本が誇るべき強みです。

シニアアンバサダーとしての活動と課題

—— シニアアンバサダーとしての活動を長く続けられています。

金田：本来3年の任期でしたが、日本サッカー協会からの要望もあり延長して活動しています。名蹴会として行っていたシニアクリニックの延長線上にある役割で、高校サッカーOB交流会の普及や、全国のクリニック開催などを進めています。ただ、協会も人員の余裕がなく、シニア領域はまだ十分に手が届いていない印象があります。規模や予算の面でも、今後さらに広げていく余地は大きいと感じています。

“指導者が選手として戻る”理想の循環

—— 印象的なエピソードはありますか。

金田：私が大学時代に指導を受けた野村六彦

さん（殿堂入り）が、85歳でクリニックの“生徒”として参加されていたことです。こんな関係性は、そうあるものではありません。

これが一つのモデルだと思うんです。育成年代のクラブチームのコーチから指導を受けた教え子が、ときを経て社会人になり、そのクラブを支える立場となりシニアチームを立ち上げ、今度はかつてのコーチがシニアの選手として戻ってくる。地域の中で世代が循環する、そんな風景がもっと増えたらいいですね。

強度が増すシニア、求められる“丁寧なサッカー”

—— 競技レベルの向上についてはどう見ていますか。

金田：シニアの競技レベルは年々向上し、強度も増しています。70代でもショルダーチャージに耐えられる選手が増えています。一方で、強度に頼った“雑なプレー”には注意喚起が必要です。

全日本大会は3日間で5試合という過密日程のため、どうしてもフィジカル勝負に流れがちになりますが、私は中盤をつくり、相手を崩すような“サッカーラしさ”を大切にしてほしいと思っています。

—— 大会の在り方を見直す必要がありますか。

金田：伝統ある“トップの全国大会”はそのままでよいと思います。それとは別に、シニアの裾野を広げるような大会を、高校サッカーOB交流会を含めて取り組んでいくのがよいと思います。

裾野を広げる大会は“ピラミッド”ではなく“台形”型に広げるべきだと考えています。

頂点が細るピラミッドではなく、台形型に広く支える層を増やすことで、サッカーから離れない人を増やしていく。それが理想だと思います。



前列左から 金田さん、末永さん、後列左から 佐藤さん、片山さん

フェアプレーが生涯サッカーを支える

—— 安全確保について、どうお考えですか。

金田：怪我は最重要のテーマです。80代まで健康でいられるのに、50代でのルーズなプレーによって競技寿命が絶たれるのは本当に悲しいことです。だからこそ、47都道府県協会が声を合わせ、フェアプレーを強く発信する必要があります。

特に全日本大会に出場するトップ層は、フェアプレーのロールモデルであるべきです。また、裾野拡大を図る大会では、まず「怪我をしない・させない」を徹底すること。相手が危険な状況ならプレーを止めること。これは極端に聞こえるかもしれません、生涯スポーツの前提として必要だと考えます。

高校OB交流全国大会、そして“シニア日本代表”

—— 今後の発展について、どのように見ていますか。

金田：高校サッカーOB交流会が15都道府県に広がれば、全国大会を開催したいと考えています。同窓会の延長のようなこのコミュニティには、大きな可能性があります。

さらに、30代後半～40代の参加者にはよくこう話します。「東京には80代のカテゴリーもある。

ということは、あと40年はやれる。40年あれば上手くなれる」と。

その道筋を示すためにも、カテゴリー別の“日本代表”をつくりたい。子どもにはあるのに、大人にはありません。この点で、日本がリーダーシップをとれる領域だと思っています。

シニアサッカーは “子どものため”でもある

—— 最後に、シニアサッカーの意義についてお聞かせください。

金田：シニアの魅力は「やる・見る・語る」が一体となっていることです。午前に汗を流し、夜に語らう。その姿を見た子どもは「大人って楽しそう」と感じるはずです。

育成年代の強化はもちろん重要ですが、プロになり、さらに日の丸をつけられるのはほんの一握り。いったん離れた人が30代後半で戻ってこられる“受け皿”こそ、シニアの役割だと思います。

私の育った府中町でも、大人たちが夜にサッカーやバレー、卓球を楽しむ姿が、本当に格好よく見えました。

「シニアを一生懸命やることは、子どもたちの未来の受け皿をつくること」

これは強く伝えていきたいメッセージです。

最後に、私は選手にこう伝えています。「シニアのプレーヤーは、子どもたちから見て“かっこいい大人”であってほしい。フェアで、模範となるプレーを心がけてください」と。

—— 貴重なお話をありがとうございました。

※聞き手：末永 孝彦（東京都シニアサッカー連盟委員長）
佐藤也寸志（前委員長）
片山 康（常任委員）



2010年
全国シニア優勝

インタビュー

サッカーを純粋に愛し、生涯サッカーを目指す ——その原点

高麗サッカークラブ

朴 良一 氏／吳 泰栄 氏／成 炳茂 氏



高麗サッカークラブの礎を築かれた皆さんに、当時の環境やサッカーへの思いを伺いました。

高体連に加盟できなかった高校時代

——まず、高校時代の環境についてお聞かせください。当時は高体連に加盟できず、独自の環境でサッカーに取り組まれていたと伺っています。

成：サッカーは好きでやっていたので「苦労」という意識はあまりなかったのですが、私たちの高

校時代は高体連に加盟できず、いわば“存在をオミット(除外)されている”ような状況でした。

それでも、ひがみや被害者意識はありませんでした。朝鮮高校サッカー部には高いプライドがあり、とても強かったです。外部からの評価がなくても、純粋に技術を高め、良いサッカーを追求することに集中していました。

レギュラー争いには強い執着がありましたが、「外へ力を示したい」という意識は特になかったですね。ただ、高校選手権を見て「いや、この程度かよ」と思うことはありました(笑)。

公式戦はありませんでしたが、練習試合や定期戦は多く行われていました。

強豪校との対戦と支援者の存在

——公式戦が制限される中でも、全国の強豪校と多くの試合を重ねてこられました。特に印象に残る対戦や交流はどのようなものでしたか。

吳：青山学院、学習院、早稲田、成蹊など、多くの学校と試合をしました。

成：強豪校では習志野高校もあります。

吳：習志野高1970年に西堂監督（故人）が引率して北朝鮮に親善訪問した際、帰国後の記念試合で私たちと対戦し、3-1で勝ちました。

成：私たちが3年に上がる頃、日本テレビの高校選手権中継が始まり、当時の社長・小林さんが北朝鮮を訪問して…。

吳：日朝関係が大きく改善した時期でしたね。

成：そのころは習志野、浦和、堺崎高校などと定期戦・親善試合を行っていました。

特に印象深いのは、高1の頃の浦和南（“赤き血のイレブン”永井良和選手の代）です。3冠を取った彼らと対戦すれば実力が証明できるのではと松本暁司さん（故人）にお願いし、浦和南を中心の埼玉選抜との親善試合が実現しました。結果は2-1で勝利。

高校の地元グラウンドではなく県立の立派な会場を用意してくださり、今思えば多くの大人たちが私たちのために動いてくださっていたのだと思感します。

吳：松本さんは朝鮮学校との親善にとても理解があり、「政治とは関係なく、強いチーム同士が積極的に交流すべきだ」と言ってくれました。シニアになってからも、小倉さんや曹さんなど多くの方々が支えてくださいました。

高麗SCの誕生と全国大会への挑戦

——シニア年代に入り、高麗サッカークラブとしての新たな歩みが始まります。設立の経緯や全国大会への挑戦についてお聞かせください。

成：高麗サッカークラブが立ち上がったのは、小倉さんをはじめ北区サッカー協会、そして曹さん率いる東京都シニア連盟の皆さんの協力があってこそです。

吳：そのおかげで、シニアになって初めて“公の全国大会”に出場できました。「本当に通用するのか」という不安もありました。

以前、在日朝鮮蹴球団として8年間、各地の代表と試合をしていましたが、ほとんど勝っていません。金田喜稔選手、木村和司選手を擁する日産にも2-1で勝ったことがあります。

その流れで全国（JFL）に出たいと、蹴球団の団長がJFA幹部に相談したのですが、当時は国籍条項があり準加盟では全国に出られない。「出たいなら国籍を変えるしかない」と言われ、本当に悔しかったですね。

そしてシニアで初めて全国に出て負けたとき、「やっぱり通用しないのか」と強い悔しさを感じました。

2001～2004年 “東京無敗の絶対王者”の時代

——2001年から2004年まで、高麗SCは東京で無敗を誇り、春・秋の大会を合わせて6連

覇。2004年には全国制覇も達成されました。当時の強さの背景には何があったのでしょうか。

成：当時の40代は本当に強かったです。内容も非常に良かった。東京決勝でも四十雀東京に4-0で勝ったことがあります。

——翌2005年、準決勝で四十雀東京がPK戦で初めて高麗を破りました。

成：ちょうど私たちが40代を退いたタイミングでしたね。

先進的なアップと整ったチーム文化

——当時の高麗SCは、統一されたピステでのアップやクールダウンまで含め、非常に整ったチーム運営が印象的でした。

成：ピステをチームで揃えたのは、私たちが最初だったと思います。集団でのアップやクールダウンまで徹底していたチームは、当時ほとんどありませんでした。

各地で受けた温かい応援

——遠征先では各地で温かい応援を受けられたと伺っています。それはチームにどのような力を与えましたか。

吳：在日朝鮮蹴球団のころから、遠征では宿舎や食事を用意してくださる方々がいました。おばさんたちの手料理が本当に美味しいくて、行くのが楽しみでした。

高麗のサッカースタイル

——高麗SCといえば、ボールを大切にし、相手を動かしながら決定機で仕留める独自のスタイルが特徴です。このスタイルについてどのように考えておられますか。

成：そうですね。雑誌の記事で、四十雀の選手



2004年
マスターズ優勝

が「憎らしいほどボールを回される。ここでシュートだと思ったら、また回される。やられると本当に頭にくるが、追っても取れない」とコメントしていました。私は現在、60代ではLAZOS、70代ではCeroでプレーしていますが、目指しているのは当時の高麗と変わりません。基礎技術を大事にし、ヨーロッパ的なポゼッション。クラブのサッカーに近い攻撃的スタイルです。メンバーには「上手さより協調性」を求めてています。

朝鮮高校のトレーニング文化

——高麗の原点となる朝鮮高校でも、独自の育成文化があったと伺います。当時の練習や取り組みを教えてください。

成：中盤から前はポゼッションスタイルでした。

一方でディフェンスには1対1の強さが求められ、ヘディングやスライディングを徹底的にやりました。

1年生の頃は練習中はほぼボール拾いなので、夜は守衛さんの見回りが終わるのを待って練習し、朝は先輩より早く来て壁に向かって「止めて蹴る」を徹底。1年続けると、本当に上達します。

サッカーを続けられることへの思い

——年齢を重ねてもサッカーを続けてこられました。その継続の源となるものは何でしょ

うか。

成：サッカーを続けることで、本当に充実した日々を送ることができました。年齢を重ねるとサッカーを続けられない仲間も増えます。その中で続けられているだけで幸せです。テヨンは私よりずっとサッカーが好きで、本当はもっとやりたいと思っているはずです。

——テヨンさんは今でも高い意欲でトレーニングを続けておられると伺っています。

成：テヨンは本当にすごいですよ。ロシアW杯を観に行ったときも、工業地帯の煤煙の中をずっと走っていました。

朴：テヨンさんには何十年も続けているルーティンがあります。毎朝4時に起き、5時過ぎから走っていました。

私も仕事の関係で、十数年ブランクができてしましました。そうすると技術はカバーできても体力がついていかず、思うように走れない。高校時代はシュート力があって、2~3本打てば決まったのに、ボールの芯が蹴れない。今は応援にまわっています。

その中で一番記憶に残るベストの試合がOver50東京予選の高麗とトヨペットの西が丘での決勝戦。試合後、曹さん（委員長）がスピーチで、あまりに感激して「素晴らしい試合だ！」と涙声になっちゃって、それを聞いて私も目頭熱くなってしまいました。

成：あれ、私が左からセンタリング蹴ったら、それ

が流れて入っちゃったの、知ってる？（笑）

朴：あれ以上の試合は見たことがない。本当に感動したけど、私以上に曹さんが感激していたと思います。

吳：高麗サッカークラブの原点は、「サッカーを純粹に愛し、生涯サッカーを目指す」ことです。私は怪我や仕事で離れていますが、シゲル（ソンビヨン氏の愛称）はまさにそれを体現しています。

全世代制覇へ

——シゲルさんはO-40、O-50、O-60で全国制覇を遂げられました。残るO-70での優勝、“全力テgorie制覇”への意気込みをお聞かせください。

成：簡単ではないですが、何としても成し遂げたいですね。

——本日は貴重なお話をありがとうございました。



2004年マスターズ優勝

※聞き手：未永 孝彦（東京都シニアサッカー連盟 委員長）
佐藤也寸志（前 委員長）

2006年
全国三連覇

全国三連覇——チーム発足と『勝ち』に結束した3年間

セレクション・トキオFC

セレクション・トキオFC 代表 石田 治氏

セレクション・トキオFCのチーム史の起点には一つの試合があります。

東京都サッカー協会・シニア連盟の有志による『50歳以上の、関東大会を勝ち抜ける・全国大会で勝てる強いチームを結成する』という目標のもと、セレクションを経て選出されたメンバーで構成された東京シニアSC50が2003年全国大会に初めて出場し、ベスト4まで進出した準決勝の試合です。

終始ボールを支配しながらも結果は0-1で敗退。失点は、相手のシュートがGKの胸にあたってこぼれたボールを、DFがクリアしきれずオウンゴールとなってしまったものでした。試合後、オウンゴールを与えてしまった選手が一人トイレの洗面所の前で悔し涙を流していました。

その光景は、もう長く組織社会の中に身を置き、ともすると個人の部分は押し込め横に置こうとする習慣から、久しく遠ざかっていた感情の詰まった時間との遭遇で、胸に迫って「この人の中でのこの試合の記憶をここで終わらせたくない。」

と思い巡らすことになりました。

その試合に出場した選手は各々悔しさを残したでしょうし、ある特定のタイミングにのみ得ることの叶う結果を逃したときの記憶を上書きするには、より大きく上回る結果が必要になります。自身、終始ボールを支配していた試合であっただけに、決めきれず得点を逃したという悔しさも触発され、今感じている強い『勝ちたかった』は『全国優勝する』でなければ駄目だという目標として明確になりました。この思いをまず3名の選手で共有した、ここがセレクション・トキオSC(後セレクション・トキオFC改)結成の起点になります。

そしてまず直面したのは、目標との間に課題が山積みしているというチームの現状でした。東京シニアSC50は2003年の前々年は関東大会で敗退、前年は東京都大会決勝の時点で敗退、そして2003年に初めて全国大会に出場し準決勝まで進出したわけですが、その体感から歴然

とした「全国レベルからすると今のチーム戦力では勝てない。」という実状はチーム内で認識するものだったと思います。50代社会人が其々のサッカー観を持合い議論していく中、責任を付帯させた執行部のような裁量権者が存在しない枠組みの限界もあり、「全国優勝を目指すならチームをガラリと変えなければ不可能だ。」という論派と、「若干の補強をし、今のチームを母体にチーム力を高めていこう。」という論派との意見集約は困難で、チームは事実上解散となりました。

「ガラリと変えたい。」と望んでいた根幹的な論点は、チームの純粋な意義として『勝つことに拘る』を絶対基準としたチーム形成をしていきたいという点でした。やはりチャレンジをして結果を出すこと・勝つことは純粋に楽しいことですから。50代最中の時間をやりくしながらするからには、本気でやって喜びを共有できるチームに所属したい、この思いが強かったです。

ですから、週に何回も仕事後に3名で集まつては、理想とするチーム像を練り直し、『心：冷静さ・闘争心、技：決定力・パスの精度・ディフェンス力、体：体力・スピード・フィジカルコンタクトの強度』、この3つの水準を厳格にセレクション基準にすることに決め、この理念を共有してもらえる精銳の集まったチームを作りたい、とスペイン語で東京選抜を表した、「セレクシオン・トキオSC」をチーム名に新たなチームを立ち上げることになりました。

立ち上げメンバー3名は各々、新規加入選手への交渉やチーム登録の事務手続きや練習用グラウンドの確保に奔走することになりますが、旧日本リーグや日本代表を経験しているようなバックグラウンドの無い「いちサッカー好き」の3名によるものだったので、何とか2003年内にチーム結成の目途をつけるべくゼロからの作業でした。

戦力増強を目指し新規選手を獲得しようにも、まず、つてが無い。全国大会で戦える戦力人材を考えると、いわゆる強豪、旧日本リーグチームやそれらのチームとの対戦でも勝利実績のある大学OBを勧誘したかったわけですが、そういったセミプロコミュニティの完全アウターですから、自身達のネットワークから徐々に延伸してつてのルートをつける、と同時に公式戦があればとにかく観に行って声掛けをする、を続けます。

新規加入選手からの紹介等もあったりと縁にも恵まれ、数名の元日本代表経験者や旧日本リーグや大学監督経験者、また有経験者ではないがよく動く選手で構成されたチームが2003年中にも始動することとなりました。

幸いほぼ毎週末のグラウンド確保ができていたため、下は10代の高校生や大学生のチームから20代・30代の社会人チーム、40代のシニアチームとの練習試合も多く設けることのできる環境のもと、メンバーのもつ豊富な実戦経験や指導経験を、よりスピード感のある試合の中でフィジカルコンタクトに耐えその技術力を活かせるチーム作りに落とし込む時間を重ねながら、2004年登録手続きを完了し、東京都サッカー協会・シニア連盟に加盟するチームとして活動の時を迎えます。

東京都大会・関東大会を勝ち進み、技術の高い選手構成を擁して臨んだ全国大会は実力の拮抗した激戦の連続でした。大会期間の日程は過密なので、一瞬の集中力の途切れが敗戦を招くという厳しい連戦を、最後は恐らくちょっとした経験の差や全選手がチームとして集中してまとまれた結果、頂点を制し念願の全国優勝を掴み取ることが叶いました。

と同時にシーズン中の東京都大会終盤には、

質の高い選手を多く擁するチームであることの中で、チーム運営の課題の顕在化にも直面しました。

便宜上、チーム登録代表者がプレイングマネージャーを登録上も兼任し、実際の試合メンバー選定は合議で行う形でありましたが、選手は皆、自分がプレーしたくて所属しているわけであるので、専任的にチーム全体の選手のコンディションやパフォーマンスを俯瞰して采配を信任できる役割の不在は、残す課題となりました。

『2004年の全国優勝を単なるビギナーズラックではなくチームの質であると証明したい。その証明として連覇、更には三連覇を』

この目標を2005・2006年の推進力に「メンバー全員が、この人の決定には信任して従う。」と考えられる選手を選出、試合ごとの選手起用や戦術の決定を基本一任、補完的に代表達と必要に応じ合議する体制に変えて臨みました。

元日本代表でもあった豊かな選手経験からくる采配やハーフタイム時の鼓舞等はチームで有效地に機能し、この間一部メンバーの入れ替えといった新陳代謝も刺激となって、セレクションやスカウティングで獲得した選手の貢献と従来メンバー選手の優勝経験が相乗され、必ず前大会覇者として常にマークされる中でも、チームは着実に戦歴を重ね三連覇を達成しました。



2021年
O-50全国優勝

しじゅうから 我が四十雀クラブ東京の歴史と活動について

四十雀クラブ東京

四十雀クラブ東京
会長 柳谷 俊郎氏



シニアサッカーと共に歩んだ70年

東京都サッカー協会シニア連盟の皆様、25周年誠におめでとうございます。

2000年のシニアリーグスタートの準備段階から、さまざまな形でお世話になってまいりました。何



浜松遠征

事もゼロからの立ち上げには本当にご苦労が多かったことと思います。

皆様のお力のお陰をもちまして、今や日本のシニアサッカーの中でも最大のクラブが参加している東京都のシニアサッカーは、これからも人生100年時代の日本のシニアサッカーを牽引していくことと思います。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

我が四十雀クラブ東京は、1952年（昭和27年）に創立されました。2022年には70周年を迎え、これまで日本サッカー協会関係者を含めて数多くの諸先輩方が築いてこられました。

現会員は40代から90代までの約300名があります。各年代での活動と共に、全世代による交流戦やクラブイベントを通して、シニアサッカーの発展に少しでもお役に立てたならば幸いに存じます。

最古参クラブとして各世代が活躍

第二次世界大戦後、日本のサッカー界が再び動き始めたころ、サッカー協会の方々を中心に『40歳を過ぎてもサッカーを続けよう』という思いが、四十雀クラブ東京の創設となりました。そしてここから全国に四十雀のシニアサッカーの流れが展開していったのです。従って我々は最古参クラブとして、これからもサステナブル（持続可能）なクラブの姿を示していくことが大切な役割なの



2025年東アジア選手権優勝

です。

昭和から現在の令和まで、日本のサッカー界も大きく変化してまいりました。1968年（昭和43年）のメキシコ五輪の銅メダル獲得という輝かしい歴史があります。このときの長沼健監督、岡野俊一郎コーチ、八重樫茂生キャプテン（全員故人）も我がクラブのメンバーでした。そして1993年にスタートしたJリーグから1998年のフランスW杯出場、そして2022年カタールW杯でのドイツ、スペイン戦の勝利など、若い選手たちは世界に羽ばたいています。

一方、我がクラブでは、2000年から始まった東京都シニア連盟のリーグ開始時より、40代から始まり50代、60代、70代、80代のチームが参加してきました。各年代のリーグ優勝に加えて、2021年には50代が全国大会で初優勝を飾るなど、各メンバーが力を発揮しております。

クラブ全体では新年の蹴り初めから始まり、年末の蹴り納めまで年代を超えた交流を重ねています。2020年からの未曾有の出来事となった新型コロナウイルスにより控えられていたサロンフットボール（交流会・飲み会）もようやく復活しています。



生涯にわたる活動を実現するために

このような時間こそが、クラブ運営を継続していく力となると思っております。すなわち、『クラブとは、メンバーの一人一人がフォア・ザ・クラブを考えることで成り立つのだ』ということを、日本における生涯のクラブ活動という場で具現化したいと思っております。

サッカーは戦いであり、勝ちを追求することは大切です。そのために自己の鍛錬に努め、チームメイトとの連携を高める準備が必要となります。そして、試合に臨んだら最後まで戦い続けることを忘れてはいけません。同時に、相手を、レフエリーをリスペクトし、運営をしていただく関係者にも感謝を忘れてはいけないのです(加えて、サッ

カーを続けるために家族の協力なしには成り立たないことも忘れずに!)。

四十雀クラブ東京は、2022年に70周年を迎えるクラブとして銀パンツを履くことができました。次は80周年の金パンツを目指します。さらに90周年には紫パンツが待っています。これから時代の変化にも適応したクラブでありたいと考えます。我々は、サッカーを通じて世代を繋いでいく責任あるクラブだと考えております。

最後に、長年に渡り、ご指導・ご支援くださいました関係各位には改めて御礼申し上げますと共に、これからも、皆様と共にサッカーを通じてのご交流の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



地域リーグから支えるシニアサッカー

東京都北区サッカー協会

一般社団法人 東京都北区サッカー協会 会長 山田 和範 氏

北区シニアFCの選手として

東京都シニアサッカー連盟発足25周年誠におめでとうございます。

現在では、286チーム6,000名近くの選手が参加され、Over40～Over80まで全国大会を目指して予選会・リーグ戦を行っていると聞き及び

ます。日頃より運営管理にご尽力いただきている役員・スタッフの皆様に改めて敬意と感謝の意を表します。

私は、発足当初からOver40～Over50リーグに北区シニアFCの選手として参加させていただきました。この度の記念誌寄稿を機に、2000年からのダイアリーノートをめくり記憶を呼び起こしてみようと思います。

秋季シニアサッカー選手権大会で優勝

2000年には、第3回北区シニアリーグが開催されています。東京都リーグでは、新宿区の夏山さんと弊協会現顧問の小倉功が中心となってリーグ戦を始めたと記憶しております。夏山さんのお店で定例会議を開きご散財をおかけしました。新宿区・世田谷区・品川区などが参加され、高麗SCや四十雀クラブ東京はまだ参加していなかつたと記憶します。

全国大会の関東予選を合同チームで臨み、私はそのチームの一員となりました。千葉県チームとのPK戦となり、20人目ぐらいの私が最後に外して敗れてしまいました。苦い思い出です。

リーグ戦に高麗SCが参加してからは高い壁となり、北区は万年2位～3位でした。高麗SCには幻の日本一のとしての誇りと覚悟を強く感じました。そのようなチームと競い合ったことは良き経験と思い出であります。

2006年～2008年と思いますが、TCL初年度は高麗SCの代替わりの時期と重なり、我が北区

シニアFCがリーグ戦(Over40)を連覇し、東京都秋季シニアサッカー選手権大会(Over 50)で優勝しました。弊協会の事務所に唯一掲げている賞状がそれです。

元気な中高年を増やすために尽力

2011年に北区赤羽スポーツの森公園競技場が開場いたしました。2019年、弊協会は一般社団法人となりました(現在、少年少女からシニアまで正会員186名・構成員6,282名の団体となっております)。

近年では、グラスルーツ活動として女子サッカークリニック、障がい者(知的・精神)サッカー教室を定期的に開催しております。

2024年には北区赤羽スポーツの森公園競技場の人工芝を張り替え、加えて酷暑対策として「Viu(びう)システム[※]」を導入しました。

2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、医療・介護・保険がますます重要なテーマになります。そのような高齢化社会において、弊協会は皆様のような健康寿命高齢者(まだまだ遊びたい盛りの元気な中高年)を増やすことが肝要と考えます。これからも皆様がより良い環境でライフスポーツを楽しめる施設整備に微力ながら努めてまいります。

結びに、貴連盟のますますのご発展と東京都シニアリーガーの皆様のご健勝ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

※グラウンドの96ヵ所から微細な水を散布し暑さを和らげる散水システム。



2011年全国
シニアサッカー大会
初出場



2014年全国
シニアサッカー大会
2連覇

シニアに「PET」あり——世代をつなぎ、勝利を刻む

PET
ペット

新たな挑戦から始まった「PET」

PETの歩みは、社会人時代から共にサッカーに打ち込んできた仲間たちが、シニア世代を迎えたことをきっかけに新たな挑戦を始めたところから始まりました。

「年齢を重ねても、真剣に、そして高いレベルでサッカーを続けたい」

そんな強い想いのもと、2000年12月、Over 40全国大会東京予選会への参加を目的としてチームは創立されました。

チーム立ち上げの中心となったのは代表の中野でした。中野は関東大学サッカー連盟時代の人脈や高校時代の友人たちに声をかけ、志を同じくする選手を集めました。その求心力は大きく、集まった選手たちは自然と一つにまとまり、チーム力の礎が築かれていきました。

現在も、中央大学・明治大学・法政大学といった大学サッカー部OB、そして浦和南高校OBを中心とした当時のつながりは脈々と受け継がれ、「PET」のDNAとしてチームを支え続けています。

名称を受け継ぎながら挑戦を続ける

2002年4月、東京都シニアサッカー連盟に加盟し、本格的にシニアカテゴリーでの活動を開始。

全国大会予選や連盟リーグ戦に参戦し、シニアの舞台においても着実に存在感を示してきました。

2009年にはOver50カテゴリーに進出し「PET50」を、2015年には「PET60」を立ち上げ、さらに2025年には「PET70」へと活動の場を拡大。年代が変わってもチームを立ち上げ、名称を受け継ぎながら挑戦を続ける姿勢は、「PET」の大きな特徴と言えます。

その実績も輝かしいものがあります。Over40ではリーグ戦優勝を果たし、全国大会関東予選会に出場。Over 50ではリーグ戦秋期大会で複数回の優勝を重ね、2011年・2012年には全国シニア大会ベスト4進出。さらに2013年・2014年には全国シニア大会連覇という偉業を成し遂げました。Over60においてもリーグ戦優勝、2019年全国シニア大会準優勝と結果を残し、「シニアに『PET』あり」と広く知られる存在となっています。

なお、2020年・2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により全国シニア60大会は中止となりましたが、その間もチームの結束は揺らぐことはありませんでした。



優勝祝勝会

挑戦し続ける姿勢こそが「PET」の誇り

「PET」はこれからも各年代での活動を通じ、生涯スポーツとしてのサッカーの魅力を伝えると共に、仲間の輪を広げ続けていきます。年齢を

重ねても挑戦し続ける姿勢こそが、「PET」の誇りであり、未来へつないでいくべき財産と言えるでしょう。



全国大会出場を目指すSuper Infinito

目指すはO-70全国大会への出場・優勝

Super Infinito
スープル インフィニト

Super Infinitoとは

「Super Infinito」は2021年8月に発足。2022年よりSFL70(70リーグ)で戦っています。65リーグの「FC Cero」および「Infinito」に所属するO-70メンバーより構成されています。

2025年度は65リーグから繰り上がったメンバーが多く、各メンバーの試合出場機会を減らさない

ため2チーム体制を取ることとしました。これに伴いチーム名を「Cero 70」、新規チームを「Cero Familia 70」としました。

Ceroはスペイン語でゼロを意味します。還暦を迎えたにゼロからの再出発です。チーム内にFCバルセロナのファンが多くスペイン語になりました。



2024年 O-70
全国大会準優勝



2023年のO-70関東予選会で優勝

「Cero 70」、「Cero Familia 70」に65リーグで名前を変更した2チーム（「FC Cero」から「Cero 65」、「Infinito」から「Cero Infinito 65」へ名称変更）を加えた4チームを「クラブセロ」と呼び、一緒に活動しています。

「年齢に負けず、新たな夢や希望をどこまでも、いつまでも追い求めていく」。そんなシニアメンバーのサッカーを通じた集まりです。

全国大会でリベンジを目指す

チーム活動としてはリーグ戦、全国大会東京都予選会、月2~3回のチーム練習会に加え参加可能な地域大会に出場させていただいている。

O-70リーグでは加盟より3年連続優勝を果たしていますが、前年度までののようなライバルチームとの力の差は少なく、楽に勝てる試合は多くありません。拮抗した試合に油断せず、緊張感を持ちミスを減らすことで勝利してきました。

チームの目的の一つとして「O-70全国大会への出場・優勝を目指す」を掲げています。サッカーをすることは楽しいし試合に勝てるとなお嬉しい。これが全国大会ならばひとしおでしょう。

昨年は全国大会へ出場することができましたが、兵庫代表との決勝ではスコアレスドローでのPK戦に敗れ優勝を逃してしまいました。試合内容は押していたかと思われますが、サッカーは何が起こるか分かりません。一番の幸運をつか

み取る努力がどこか欠けていたのかも知れません。

今年度は昨年11月に開催された関東予選会を突破し、5月の全国大会への出場をすでに決めています。1試合ずつ大事に戦い、昨年のリベンジを目指します。昨年12月の東アジアシニア大会で強豪のソウルロイヤルを破り優勝できたことは、チームの自信を深めることにつながりました。

さらなる成長は課題を乗り越えてこそ

シニア選手にとって1年の歳の差は大きく、1年ごとに体力が落ちていきます。これを補うために各選手は努力を惜しませんが、現実はそれほど甘く有りません。他チームには若く技術の優れたO-70選手が入ってきます。O-70とは言えチームの若返りは必須です。

さらに今年度の2チーム体制への移行による戦力の分散もあります。どのように若手を融合させチーム力を向上させていくかが問われます。

チームが所属するクラブセロにはO-65のチームがあります。練習会、遠征試合等を通して早い時期から一緒にプレーする体制はできつつあります。しかし、来年度以降同様に機能できるほどのメンバーは揃っていません。

このように、一見順調に進んできているチームのようではありますが、取り組むべき課題はたくさんあります。

それでも、今日に至るまで、多くの方々のご協力をいただいています。チーム立ち上げ時にご賛同・ご助言をいただきました皆様、70リーグを組織いただいた諸先輩並びにシニア連盟をはじめ、運用に関わっていただいている全ての皆様に厚く御礼申し上げます。



2024年O-70全国大会
東京都予選準優勝

「東大ライトブルー」の伝統と絆を守り続ける LB御殿下FC

シニア年代になって再結集

東京都シニアサッカー連盟創立25周年おめでとうございます。「LB御殿下FC/LBクラブ」について、その歴史を交えて紹介をさせていただきます。

LB(Light Blue)は東大のスクールカラーを意味しています。我々の母体は東大ア式蹴球部(1918年創部)のOB会(一般社団法人東大LB会)です。本郷にある御殿下グラウンドは東大ア式蹴球部のホームグラウンドで過去何回も全国大会が開催されました。

東京都シニアサッカー連盟加盟チームの中で唯一単独の大学サッカー部由来のチームです。4年間のクラブ活動のあと、各々の道を進んだ後、シニア年代になってから東大サッカーの旗のもと再結集する形となりました。

日本サッカーのフロントランナーとして

2018年に創部100周年を祝った東大ア式蹴球部は長いこと日本サッカーのフロントランナーの役割を果たしてきました。日本サッカー協会創設メンバーの新田純興先輩が、部誌「闘魂」創刊号に

巻頭言を残しています。

**遠い先を見る目 微な音を聞く耳
茨の道を拓く魂 加えるに己を責めるの努力**

東大蹴球部の人達は、いつも、全身に全霊を打ち込んで正しい道、新しい道を切り開いてきた。“一人集めるのがやっと”という時代に思い切って四校リーグの形を確立し、それを実行した。自分の学校にグラウンドも無いのに全国に呼び掛けて、高等学校選手権大会を決行した。

コレッジリーグ、大学連盟と歴史は変遷しても東大六年連続優勝の輝かしい偉業は、いまだ誰にも破られていない。東大第2軍であるLBチームによって全日本選手権を獲得し、天皇杯の前身であるFA杯を手に入れている写真を仰ぐのも痛快だ。

毎年正月、霜を分け、氷を踏んで高校大会を運営した事は、満天下の青年を感激させ、幾多の名選手を輩出し、日本蹴球界に寄与した事正に計り知るべからずといって過言ではない。

(以下省略)

昭和38年12月18日
新田 純興

この新田さんの言葉に刺激されたのか、1963年(昭和38年)の年末に、若手OBを集めて「御殿下クラブ」が組織され、まず東京都クラブリーグに参加しました。

2013年第1回藤枝商工会議所会頭杯優勝



クラブリーグで3年連続優勝したことが評価され、昭和42年発足の東京都社会人リーグ1部に編入、第1回関東社会人選手権で準優勝、入れ替え戦に勝ち、関東リーグに昇格となりましたが、昭和43年の1年だけで降格となり、昭和44年からは東京都リーグに参加しました。

1985年（昭和60年）頃までその活動は続けられましたが、若手OBチーム「御殿下クラブ」の活動はここでいったん終えることとなりました（本格サッカーを目指す若手OBの動きはその後1994年のチームDiegoの設立、そして「東大LB」「LB/BRB」Jリーグ入りを目指す「東京ユナイテッドFC」へとつながっていきます）。

東大LB会の歩みとこれから

一方、東大ア式蹴球部の同窓会は長らく任意団体として現役支援やOB親善試合、地域交流等の活動をしてきましたが、1990年代後半に正式名称を「東大LB会」と命名、組織化の方向へ歩を進めてきました。

昭和40年卒の先輩（もちろん現在も元気にプレーされています）が中心となって1999年50回記念を迎えた京都大学蹴球部との定期戦や、1989年にスタートした東大・早稲田・慶應の3大学OB対抗戦へのメンバー確保を目的に1999年、チームとしての「LB50」がスタートしました。これが実質的な我がシニアチームの「創設」と考えられます。

さらに昭和47年卒の個性豊かな同期数名が心を一つにして、東大LB会の法人化・リーグ加盟に向けて動き出しました。母校の大学法人化も背景に、2006年から2008年にかけて苦労を重ねた結果、法人格を取得。一般社団法人東大LB会となりました。

法人の活動として、生涯サッカー（各年代、特にシニアサッカー）の推進、国際交流促進、女子サッカーの育成、地域交流（少年サッカー指導）等を掲げています。また東大LB会にも元気なシニア層が増えてきたことからリーグ参戦への機運が高まり、2012年「友好と真剣勝負の両立～勝利と絆を求めて～」を標榜し、クラウンリーグ（CWL O-60）に参加しました。CWL創設5年目の春でした。

2012年、登録は32名あったのに初戦参加者は11名に満たなかった苦い思い出も、今では昔話です。

ちなみに参加初年度の戦績はCWL15チーム中11位で2部格付でした。翌2013年前年の苦戦を糧に躍進し、2部8チーム中で準優勝し1部復帰。春季大会では優勝し、第1回藤枝商工会議所会頭杯（藤枝草サッカー大会）東京代表で出場し、初代チャンピオンに輝きました。

SFL70にも70リーグスタートの2012年から、CWL65にも初年度の2013年から参加しています。SFL75は2017年からリーグが始まりましたが、単独チームが認められた2020年から参加しました。またSFL80にも多くの選手が登録・参加



2019年東大・早稲田・慶應OB対抗戦
(検見川グラウンド)

しています。

サッカー全日本代表のチームカラーの基となった

と言われている「東大ライトブルー」の伝統と絆を
我々はこれからも守っていきます。



早稲田カラーのユニフォーム



慶應カラーのユニフォーム

今、この瞬間を大切に、サッカーライフを楽しむ

WKU 65/70/75(早稲田大学OB・慶應大学OBのクラブチーム)
ダブリューケュー

WKU 坂本 正夫氏

早慶両校のOBチームが合体

東京都シニアサッカー連盟設立25周年、おめでとうございます。

私はWKU創設時の発起人の一人として名を連ねておりましたので、当時を振り返りつつ、チーム紹介と現況、そして将来への思いを述べさせていただきます。

WKUは現在、門戸を広げていますが、創設当初は早稲田大学ア式蹴球部OBと慶應義塾大学サッカー部OB出身者で構成されるチームでした。

1990年代から2000年初頭にかけては大学・高校のOBチーム同士の交流試合が盛んに行われており、特に早慶両校OBは年間10試合を超える対戦を行っていました。

連盟主催の50歳以上のトーナメント大会が開催された2005年、両校OBから「真剣勝負で力を

試したい」との声が上がりましたが、単独ではチームが組めず、両チームの有志が合体してできたのがWKUでした。

※サッカーの別称。アソシエーション式フットボール」に由来。

年齢を重ね、互いを尊重するように

設立当初は日本リーグ経験者も何人か在籍し、プレーの要求水準が非常に高く、並みのプレイヤーであった私は試合中に厳しい指導、指示を受けることがしばしばありました。当時の日記には「もっと気楽にのびのびとサッカーがしたい」と幾度となく記しています。

それでも、大会では第一次予選で敗退することが多く、殆ど先に進めなかったという記憶があります。私にとってはサッカーを楽しむという心境ではありませんでした。

そのような時代を経て、私自身O-60、65、70、

75歳カテゴリーを移りながらプレーを続けてきました。選手たちは年齢を重ね、性格が丸くなつたのか、諦めからなのか、試合中に文句を言い合う場面は減り、お互いの個性やプレーを尊重する姿勢が目立つようになってきました。

昨年は私が在籍するWKUとしては初めてO-75リーグで優勝を果たしました。選手一人ひとりが自分のできる範囲で全力を尽くし、足りないところはまわりがカバーするという意識が浸透し、うまく噛み合った結果だったと感じています。

超高齢社会でもボールを追い続けたい

今、WKUとして登録しているチームの最も若い世代はO-65です。65歳未満は早慶双方が単

独で活動しているため、WKUというチームとしては年齢が上に伸びていくしかありません。

現時点では都シニアリーグの最高齢リーグはO-80ですが、近い将来O-85、O-90リーグが誕生することは間違いないでしょう。10年後、20年後もWKUの一員として超高齢リーグで元気にボールを追っている姿を思い描きながら、今、この瞬間を大切に、サッカーライフを楽しんでいきたいと考えています。

東京都シニアサッカー連盟には、競技の場を提供するだけでなく、健康寿命の延伸への貢献や生きがいの創出など、超高齢社会全般を支え、リードする組織としてますます発展されることを心より祈念いたします。



生涯フットボーラーの軌跡 深澤 光賢・元委員長が語る挑戦の道のり

深澤 光賢氏

1952年7月3日生（73歳）

SML 40：北区

T S L 50：セレクション・トキオ

CWL 60：LAZOS 27

CWL 65：FC Cero

SFL 70：Cero 70

サッカー人生転機の「水元」へ

—— 今日はよろしくお願いします。深澤さんはシニア連盟の元委員長というお立場でもあります、今回は“生涯フットボーラー”としての歩みを中心にお話を伺いたいと思います。

—— まずは、シニア以前のサッカー経歴からお聞かせください。

深澤：はい。中学時代は野球部でしたが、高校進学を機に野球をやめ、友人に誘われてサッカー部に入りました。ところが、その友人は結局入部せず、気づけば自分ひとりで（笑）。当時はサッカーハンターが高まり始めた頃でしたが、私はサッカー経験が全くなく最初の一蹴りは空振り大転倒でした。1年目の夏を過ぎてやっとサッカーラしくなったのですが同期のほとんどが辞めてしまい、卒業までメンバー集めに悩まされました。

大学入学直前に高校OBチームの試合に参加し骨折してしまいました。ギプス姿でオリエンテーションに出ていたところをサッカー部員に声をかけられたのがきっかけで、大学でもサッカーを続けることになりました。所属していたのは東京都学連3部リーグでした。

高校でのサッカー経験者が少なく強いチームではありませんでしたが、それなりに一生懸命打ち込んでいました。関東理工系リーグではチームとしてまとまり、優勝こそ逃しましたが準優勝

できたことが懐かしく思い出されます。

卒業後は大学OBチーム「FCテック」でサッカーを続けていました。28歳のとき、六郷土手のグラウンドで3人の高校生がボールを蹴っていましたので仲間に入れてもらいました。その高校生に誘われ、大田区勤労福祉会館のミニサッカー教室に参加するようになりました。そこには東京都社会人1部リーグで活動していた「水元サッカークラブ」のメンバー他多くの上手な選手が参加しておりとても勉強になりました。

そこでサッカーが自分のサッカー人生の転機になったように思えます。彼らとプレーすることでサッカーの幅が一気に広がりました。「水元」に入会したときはすでに32歳でしたが、それから約10年楽しいサッカーを続けさせてもらいました。

40代に入り体力的に厳しくなってきたため、水元を退き、活動拠点が世田谷から北区へと移っていた「FCテック」に戻りました。

—— まだシニア連盟ができる前ですね。

深澤：そうです。その頃は北区の仲間とチームをつくり、さまざまな大会に出場しました。「古河マスターズ」にも参加して優勝したことがあります。そのうちスーパーマスターズリーグ（SML）が始まり、北区代表として出場しました。

当時、北区リーグで対戦していた朝鮮高校OBチーム「高麗」は本当に強くて、まったく歯が立ち

ませんでした。そのとき対戦した選手が、今はチームメイトの成田茂さんです。

曹さん（初代東京都シニアサッカー連盟委員長）のつながりでソウルのチームとの交流が始まり、北区代表として遠征にも参加しました。そのときは成田さんと同じチームでプレーしました。

「高麗」の遠征に助っ人として呼ばれることもあり、対戦相手でありながら次第に仲間としての絆が深まっていきました。

全国で勝てるチームをつくろう

——その後、シニア連盟の設立をきっかけに全国大会への挑戦が始まっていくのですね。

深澤： そうです。2000年前後には日本マスターズ大会のプレ大会が企画され、東京代表の選抜メンバーに選ばれて関東予選に臨みました。代表メンバーには「四十雀」、「新宿」、「高麗」等の仲間たちが揃っており、みんなで全国を目指しましたが、千葉とのPK戦で敗れ、惜しくも全国出場を逃しました。

2001年以降は東京都予選会の仕組みが整備され、毎年東京代表として挑戦する体制ができました。ただ、しばらくは「高麗」が東京予選を制し、自分自身は40代では全国の舞台に立てませんでした。

50歳を迎える頃、50歳以上の全国大会が始まりました。東京選抜の一員として兵庫県淡路市で開催された大会に出場しましたが、準決勝で敗退。当時は即席の選抜チームで、普段から一緒に練習していない分、連携が難しかったですね。

一方、兵庫代表は年間を通して全国を見据えて活動していると聞きました。元代表クラスの選手も多く、正直、まったく歯が立ちませんでした。

そのとき、全国レベルとの差と、日常的なチームづくりの大切さを痛感しました。

—— その敗戦の経験が「セレクション・トキオ」誕生と全国三連覇の原点になったのですね。

深澤： はい。淡路での敗戦が大きなきっかけでした。東京選抜の仲間だった石田さん、植村さんと「全国で勝てるチームを自分たちでつくろう」と話し合い、「セレクション・トキオ」が誕生しました。

チームづくりは決して簡単ではありませんでしたが、メンバーには元日本代表の松永章さん、細谷さん、大野さんをはじめ経験豊富なメンバーが集まりました。元代表選手はとにかく全員が負けず嫌いで、練習は本当に厳しかったですね。

パスの出し方ひとつにも徹底的にこだわり、勝つために何が必要かを全員で追求していました。月2回ほど「東電」や「三菱養和」のグラウンドで練習を行い、40代チームとも試合をして鍛えられました。チームも個人も大きく成長したと感じています。

やがて成田茂さん、「日立」の熊谷さんらも加わり、チームがさらに強化されました。

全国三連覇を達成した後、翌年の東京都予選決勝で「高麗」に敗れ全国大会出場の道は閉ざされました。その試合で松永さんのハンドでPKを取られた場面が今でも忘れられません（笑）。戦術的、技術的そしてチーム運営においても大変勉強になりました。

「LAZOS」、そして「Cero」での挑戦

—— 60代では「LAZOS」を立ち上げられました。

深澤： はい。「トキオ」の仲間とつくりたかったのですが、「トキオ」には年齢基準を満たしているメンバーが少なかったため、「先に60代チームを

つくっておこう」と考えました。

同年代の「豊島クラブ」の前田さんとは「60歳になつたら全国を目指そう」と前々から約束していました。登録の関係で出場まで1年ブランクがありました、仲間と力を合わせてチームを結成し、全国大会に挑戦することができました。

最初の年は準決勝のPK戦で敗れましたが、翌年には優勝。次の年は調子を落とし東京代表を逃しましたが、1年空けて新しい仲間も加わり、2回目の優勝とチームとして成長を続けました。苦しい時期を共に乗り越えた経験が、「LAZOS」の大きな力になりました。

—— そして70代では「Cero」での挑戦が始まりました。

深澤：そうです。「Cero」は65歳リーグでの活動を土台にしており、自然な流れでした。ただ、年齢的に選手層が限られている分、メンバー集めには苦労しました。

全国初挑戦の年は決勝でのPK戦で敗れ、今年は準決勝で広島に負けました。攻め続けてはいたのですが得点できないうちに、逆にカウンターを決められてしまいました。

「Cero」はパスサッカーを志向していて、ボールはつながるけれど、最後の決定力がもう一つ足りなかった。やはり強い個の力も必要だと感じます。強いチームをつくるには「上手い人」だけではなく、「走れる人」「考えて動ける人」が欠かせません。チームワークと役割分担があつてこそ、真に強いチームになると思っています。

全国を目指すためには早い時期から70代を見据えて準備しておくことが大切です。「Cero」では平日でも練習を重ね、同じ志を持つ仲間と意識を合わせています。もちろん技術だけでなく、チーム方針に共感し、協調できるかどうかも大切



左から曹元委員長、李会澤元大韓サッカー協会副会長、深澤氏

です。そこが合わないと難しい。実際、その違いで仲間と別れることもありました。

今の「Cero」は、「上手い選手」ばかりではなく、「一生懸命走れる人」「仲間を生かせる人」が集まったチームです。65リーグから同じチームで活動し70代に向けて時間をかけて溶け込んでもらう工夫もしています。

全国を目指す姿勢を持つ以上、多少の犠牲は避けられません。年齢とともに出場機会が減ることもありますが、仲間意識とコミュニケーションを大切にしながら運営しています。

—— 今後の目標は、やはり「70代での全国制覇」ですよね。

深澤：はい。まだ取れていませんからね。70代で全国優勝、それが今の大目標です。東京都予選会から始まり、関東予選、そして全国大会と勝ち抜きチームが強くなっていく、そのワクワク感は何物にも代えられません。

全国大会を目指すことで練習にも真摯に取り組めますし、そしてもっと上手くなりたい上手くなるのだという強い気持ちを持ち続けられます。来年の全国大会出場は何か決められましたが、他チームの実力も上がってきています。簡単には勝たせてもらえないでしょう。

シニアのための「生涯スポーツ」へ

—— 最後に、シニアサッカーへの期待をお聞かせください。

深澤：「純粹にボールを蹴っているのが楽しい」「サッカーが大好き」「70歳を過ぎても金田さんの『大人のサッカークリニック』に参加してサッカーを上手くなりたい」「さらにサッカーを知りたい」という仲間が周りにたくさんいます。若い頃は教えてくれるコーチがいなかったシニアにサッカーを学べる時代がやってきました。素晴らしいことです。

最近、女子サッカーの放映も多くされるようになってきました。「男子サッカーは凄すぎて参考にならないけれど、女子サッカーは分かりやすいし手本にもなる」とも言われています。

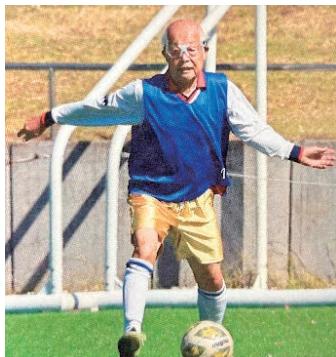
最近はシニア女子選手も増えてきています。

駒沢の練習会にも女性の参加が定着していますが、これからはもっと増えていくといいですね。プレーするだけでなく、シニアが女子サッカーを応援したり、支えたりする機会を増やして、みんなでサッカーを楽しむ文化を広げていけたらと思います。

シニアサッカーが「生涯スポーツ」として、より多くの人にとっての生きがいになることを願っています。

—— 本日は貴重なお話をありがとうございました。

※聞き手：佐藤也寸志（東京都シニアサッカー連盟前委員長）
末永 孝彦（東京都シニアサッカー連盟委員長）



現在、SFL80リーグのブルーハワイチームに所属



活躍してきた選手・2 最高年齢カテゴリーの開拓者



猪鼻 孝之氏

1939年10月2日生(86歳)
SFL70:四十雀クラブ東京70
SFL75:ハッピーB
SFL80:ブルーハワイ

シニアサッカー連盟との関わり

私は2009年からシニアサッカー連盟に携わりました。創立以来のメンバーが活躍していた頃です。たまたま懇意の小林久志委員からお誘いを受けたのです。

年長の委員では小野津博好氏がいらっしゃいました。小野津氏は「SOI(Soccer OB Inter-high)」という旧制高校のサッカー連合の事務局長として活躍されていました。

旧制一高、現在の東大卒の畔柳信雄氏が三菱UFG銀行頭取か会長のときに、在学中サッカー部にも所属していましたので、その協力を得て、国立競技場で「ロイヤル(O-70)東西対抗戦」を企画、実施しました。競技場が改修されるというので、中止されましたが、毎冬継続され、全国サッカ一年長プレイヤーには憧れの行事でした。

私も2回参加することができました。一度野村六彦（殿堂入り、日本リーグ初代得点王）さんとご

「東京都ロイヤル」全国シニアサッカー大会O-70「2012～2014年三連覇」



2012年 全国シニアサッカー大会O-70優勝



2013年 全国シニアサッカー大会O-70優勝



2014年 全国シニアサッカー大会O-70優勝

一緒にすることになりました。競技場のロッカールームは使用するのに100円玉が要ります。100円玉を持ち合わせていなかった野村さんにお貸しましたところ、その日の夕方、自宅に返却にいらっしゃったのには驚きました。

当時Jリーグの規律委員長をなさっていたとのことです。職務にいささかの誤解を挟ませないという、几帳面さに感心させられました。

毎週水曜日の練習会が現在の盛況に

さて小野津さんに話を戻しますが、ほかの委員との世代ギャップもあり、委員会では若い委員たちと意見が合わず、日頃対立する場面が多くありました。特に東西対抗戦には自分なしでは実現しなかったという自負心が全面に出て、対立が決定的になりました。

解任ではなく、名前だけでも参与にして残るする案もあったようですが、解任、新任に猪鼻ということになりました。

40代選手が多数だったシニア連盟も、高齢者について考えるようになってきて、健康促進・体力増強をしようと呼びかけ、2009年4月から定年退職者を中心に60代以上が毎週水曜日に駒

沢オリンピック公園で練習会を持つことになりました。2009年9月9日からこの会の世話を川崎勝氏と私がなりました。

赤羽水曜練習会も同時に開催され、どちらかの曜日を変更しようとの提案もありましたが、赤羽、駒沢両方今日の盛況ぶりになりました。

三連覇という嬉しい思い出

現在は他の練習会との絡みで毎週使える状態ではありませんが、練習日には9時から11時までが女子部、11時から13時までは75歳以上、13時から60歳以上と使い分けています。

東京の70代チームは強豪として全国的に有名です。私が監督兼選手として参加していた頃は日本一の決定ではなく、参加チームをブロックに分け、その優勝を決めるものでした。まだ代表チームを結成できない県がありましたから、もっともなことでした。

「東京都ロイヤル」との名称で参加していました。関東大会での優勝、全国地区大会での優勝は日常茶飯事、2012年から2014年まで三連覇（上部写真参照）が嬉しい思い出になっています。

**日本スポーツ協会（JSPO）
「2025年度日本スポーツグランプリ」受賞**
長年に渡りスポーツを実践すると共に、広く国民に感動や勇気を与え、顕著な功績を挙げた中高年齢の個人に授与されます。

【連盟から一言】17歳から56年に渡って蹴り続け、現在は80リーグでボールを蹴っています。常にシニアサッカーの最高齢カテゴリーの創設を働きかけ運営と選手の両輪をこなしてきました。ピッチを走る姿は生涯スポーツを実践する模範として、常に後輩達に感動や勇気を与え続けています。



現在、80歳シニアリーグ



活躍してきた選手・3 我がサッカー人生

1960年日本代表選手・2014年日本サッカーダンジョン掲額



野村 六彦氏

1940年2月10日生(85歳)
 S F L 70:武蔵野70
 S F L 75:武蔵野75
 S F L 80:レッドスター

1952年 広島市立国泰寺中学校に入学

当時は野球が盛んで、小学校の6年生までずっと野球をやっていました。国泰寺中学校に入学したとき、仲の良い友達とサッカーは男らしいスポーツだからやろうか? ということでサッカー部に入部しました。

当時の国泰寺中学はサッカーが強く、練習もきつく、30人くらい新入生が入部しましたが、1年生はボール拾いや走らされてばかりですぐやめてしまい、7~8人しか残りませんでした。実は、私もやめようと思ったのですが、残って頑張っている人を見るとそこから逃げて負けたような気持になり、結果、サッカーを続けることにしました。それが私のサッカー人生の始まりでした。

1955年 広島市立舟入高等学校に入学

高校は舟入高校に入学しましたが、サッカー部は前年の1954年第33回全国高校サッカー選手権大会に初出場した強豪高校でした。私は3年生のときに主将になり、1957年度第36回全国高校サッカー選手権大会に出場し、1回戦で仙台育英高校と対戦し2-1で勝利しました。第33回の初出場のときにも仙台育英高校と1回戦で対戦し負けているので先輩たちが非常に喜んでくれたのを覚えています。2回戦では、この大会で優勝した秋田商業と対戦し、0-1で負けてしまいましたが、

この大会で優秀選手(ベストイレブン)に選ばれました。楽しく、熱中した高校サッカー生活でした。

1959年 中央大学に入学

大学は、1年浪人して中央大学に入学しました。当時の広島の実家は電気店でしたが倒産してしまい、父から「授業料が払えないから、広島に帰ってこい!」と連絡があり、監督に相談したら、奨学金の手配をすぐしてくれて、そのままサッカーを続けることができました。しかし、奨学金に全てを頼る生活はいやなので、大学の寮の食堂で食事の用意や皿洗いをして生活を立てていました。

1959年第8回、1960年第9回全日本大学サッカー選手権大会を連覇し、大学2年生のときに、日本代表に選出されました。1962年、4年生のときに主将になり、第41回全日本サッカーワールドカップ優勝、第11回全日本大学サッカー選手権大会優勝、第36回関東大学リーグ1部優勝とともに日本代表の主将にも選出されました。

私は中学・高校と主将をやりましたが、負けず嫌いな性格なので、「サッカーも生活も全て負けられない!」「同級生にも負けられない!」「試合も負けられない!」「チームを勝たせたい!」といつも意識し、主将として“がつがつ”と勝つための練習をやりました。みんなも付いてくれたの

で良い成績を残すことができたと思います。

主将というリーダーをやったおかげで、「どうやったら勝てるか?」を勉強させてもらい、人としても成長することができました。私の負けず嫌いな性格と素晴らしい仲間たちのおかげで楽しい学生時代を過ごすことができ、本当に幸運でした。

1963年 (株)日立製作所に入社し 社会人リーグに参加

実家が電気店であり、電気関係の大企業に入りたいと思っていたので日立製作所に入社しました。当時の日本サッカーのトップリーグは、アマチュアの社会人リーグであり、古河電工や東洋工業、日立製作所などの企業が活躍しており、私も社会人リーグでサッカーをすることになりました。

その頃、日本代表は、1964年の東京オリンピックに向けて、合宿や遠征が多かったのですが、合宿中の練習で膝の靭帯を大きく損傷し、東京オリンピックは欠場することになってしまいました。このときの悔しさ、残念さは今でも思い出します。

1965年 日本サッカーリーグ誕生

翌年の1965年に第1回日本サッカーリーグが誕生する訳ですが、前年のオリンピック欠場の悔しさをこの日本リーグにぶつけた結果、日本リーグ初代得点王になることができました。14試合で15点を入れて、岡野俊一郎さんも褒めてくれたことを思い出します。

私のポジションは、攻撃的な中盤 (MF) でしたが、体が小さかったので大きな選手の当たりを交わし走り込むという形で点を取ることができました。この初代得点王は、当時の新聞記事で、“忍者のように点をとる”ということで、「忍者の

1972年サッカーの王様ペレと JFL現役プレーヤー時代



野村!」と大きな見出しで書かれたのを覚えています。

8万人の大企業の社員から名前と顔を覚えてもらえ、仕事のお客さんからも「あつ! あの忍者の野村さん?」と言われたりしました。おかげで名刺の交換時には、話題となり大いに仕事上でプラスになりました。

その後、1972年32歳、第8回日本サッカーリーグ優勝 (年間最優秀選手MVP受賞)、第52回全日本サッカーハイランクリーグ優勝と二冠のタイトルを取り、1979年39歳、日立サッカー部の主将、コーチを経て監督となり、3年勤めました。その後、職場に戻り、サッカーは後輩に譲りました。

1993年 Jリーグ開幕 新たなサッカー人生が始まる

その後、日本サッカーリーグの低迷が続き、サッカー界でプロリーグ化の声が強まりました。JFA川渕元会長を中心にプロリーグ創設の検討が進められ、Jリーグ開幕の前年の1992年 (52歳のとき)、マッチコミッショナーに指名され、1993年にJリーグが開幕となりました。

マッチコミッショナーは、「選手やチームはルールを守ってプレーしているか?」「審判員は適切に笛を吹いているか?」「サポーターは満足しているか?」など、試合会場に赴き、そこで起きた全ての出来事に関して検収し、その状況をレ



サッカー歴

1940	広島市生まれ(2月10日)
1954	広島市立舟入高等学校 入学
1957	高校3年生主将で全国大会出場、優秀選手に選出
1959	中央大学入学、全日本大学選手権大会出場
1960	大学2年生 日本代表
1962	大学4年生 天皇杯・関東大学リーグ両タイトル獲得
1963	(株)日立製作所入社
1965	第1回日本サッカーリーグ初代得点王(日本サッカーリーグ開幕)
1972	日本リーグ・天皇杯両タイトル獲得、年間最優秀選手(MVP)受賞
1979	日立サッカー部監督 就任、調布サッカー協会副会長
1990	日立マクセル(株)転属
1992	Jリーグマッチコミッショナー就任
1995	Jリーグ審判委員会委員長 就任
2006	Jリーグ規律委員会委員長 就任
2013	第46回内閣総理大臣杯 日本プロスポーツ大賞 受賞
2014	第11回日本サッカーディレクター賞 受賞
2024	東京都シニアサッカー連盟SFL80リーグが開幕、参加

ポートに作成し報告するという仕事です。

そして、その後も1995年55歳、Jリーグ審判委員会委員長、2006年66歳、Jリーグ規律委員会委員長にも就任し、Jリーグの試合を安全、確実に、そして楽しく進行させるための影の調整役として、約20年間に渡って勤めました。

Jリーグおよび日本サッカー界の品位と地位を高め、その発展に尽力したとして、2013年73歳、第46回内閣総理大臣杯日本プロスポーツ大賞功劳賞を受賞。2014年74歳、第11回日本サッカーディレクター賞(掲額)を果たしました。長年サッカーをやってきて、選んでいただいたことは、大変、名誉で嬉しいことでした。

振り替えると、人生とは全て競い合いをしていると思います。その競い合いの勉強をサッカーによって学ぶことができました。いかにして公平なルールのもとで良い結果を出すか? そういう

仕事をしてきたので、種々の課題が頭の中で整理ができるようになったと思っています。長くサッカーをやってきて本当に良かったと思っています。



座右の銘は、「おのれに徹して、人のために生きよう!」で、これは舟入高校の校訓です。自分の持っている天から与えられた才能を最大限に生かすように努力し、自分との戦いに耐えて勝つこと、それが実を結べば、必ず人の役に立つという意味です。

2024年84歳 現在から今後のサッカー人生は?

現在、住まいが調布市なので、調布にある「武蔵野FC」に入り、東京都シニアサッカー連盟主催の年間リーグ戦のO-75とO-80リーグに出場し、大いにサッカーを楽しんでいます。常に明るく、健康で、楽しくサッカーをして、たくさんの仲間と飲食、懇談をして、充実した生活を送っています。

現在、84歳ですが、米寿(88歳)まではサッカーを続けたいと思っています。

現在のサッカー界に望むこと

日本サッカー協会は、2050年にワールドカップを日本に再誘致しワールドチャンピオンになるというDREAM(夢)を掲げています。

現在の日本サッカーがさらに強くなるためには、あの小さな体の世界一プレーヤーであるメッシのような選手の発掘と育成が必要と思っています。私も子どもの試合をよく見るし、メッシのような得点を取れる素晴らしい選手を育成したいと思っています。

私も日本サッカーのサポーターの一人です。これからも応援を続けていきます。



2014年「日本サッカーディレクター賞」



2022年 全日本O-50サッカー大会優勝



活躍してきた選手・4

もう一度、夢を追う場所 私のシニアサッカー人生



前田 治氏

1965年9月5日生(60歳)
T C L 40:T-ドリームス40
T S L 50:T-ドリームス50

蘇った「プレーを続けたい」という情熱

この度、東京都シニアサッカー連盟が25周年を迎えること、心よりお祝い申し上げます。節目の年にあたり、微力ながら私自身の歩みや思いを振り返りつつ、寄稿させていただきます。

現役選手としてのサッカー人生を終えた後も、私の生活からサッカーが消えることはありませんでした。引退直後はコーチとして、子どもたちや若い世代に指導する立場でグラウンドに立ち続けました。教える立場に立つことで、現役時代とは異なる視点からサッカーを見るようになり、また選手としての自分を振り返る機会にもなりました。そのうちに「まだ自分自身が成長できる部分があるのではないか」という思いが芽生え、再び自らボールを蹴りたい、プレーを続けたいという情熱が蘇ってきたのです。

36歳、37歳の頃には東京都の社会人チームで、選手兼指導者として活動を始めました。プレーをしながら選手たちをまとめることは決して

容易ではありませんでしたが、指導者としての視点を持ちながら自分自身も鍛えられるという、充実した時間もありました。

「憧れの存在」とプレーする喜び

そして41歳の頃、転機が訪れます。帝京高校サッカー部の先輩から声をかけていただき、「T-ドリームス40」に参加することになったのです。チームは帝京高校サッカー部OBを中心に編成されており、当時は川添さんをはじめ、木梨憲武さんや清水圭さん、俳優の椎名桔平さんなど、今振り返っても豪華な顔ぶれがグラウンドに立っていました。

高校時代には一緒にプレーすることが叶わなかった先輩や、プロの舞台で活躍していた同世代の仲間たちと肩を並べてボールを追えることは、まさに夢のような体験でした。

さらに嬉しかったのは、世代や立場を越えた「憧れの存在」と共に同じチームでプレーできたことです。日本代表で一緒に戦った名取さん、ライバルとして激しくぶつかり合った鹿島アントラーズの本田泰人君、ガンバ大阪の磯貝君、グランパスで活躍していた森山君など、現役時代には敵として相まみえた選手たちと、今度は同じチームの仲間として肩を並べて戦えることは、何物にも



2022年 全日本O-50サッカー大会優勝





代えがたいものでした。

こうした経験は、東京都シニアサッカー連盟の活動だからこそ味わえる特権だと感じています。

いつもチーム監督の本田君と、「プロ生活で日本一はいくつも取ったが、このシニアサッカーで取るのが一番難しい」と話していただけに、2022年のJFA第21回全日本O-50サッカー大会での初タイトルは、これまでのサッカー人生の中でも特に思い出に残る出来事でした。

第二の青春としてのシニアサッカー

東京都シニアサッカー連盟では年齢ごとにカテゴリーが設けられており、自分と同じ世代の仲間と競い合うことで、再び目標を掲げることができます。年齢を重ねてもなお成長できる、挑戦できるという実感は、私にとって大きな励みになりました。

東京都リーグをはじめ、関東、そして全国へと舞台を広げる中で、若い頃には届かなかった夢を追いかけることができる。叶えられなかつた目標に再び挑み、実現するチャンスを得られることは、人生における第二の青春と言っても過言ではありません。

また、東京都シニアサッカー連盟でプレーを続けることは、生涯スポーツとしての意義も大きいと感じます。試合で全力を出し切るためには、日々の体調管理やトレーニングが欠かせません。年齢を重ねても体を動かし続けることで、健康を維持し、

心身共に充実した生活を送ることができます。加えて、世代を超えた仲間との交流やコミュニケーションの場が広がり、サッカーを通じて新たな人間関係が築かれていくことも大きな魅力です。

世代を越えて新たな夢を追いかける場

この25年間で、東京都シニアサッカー連盟をはじめとする多くの方々の尽力によって、環境面も大きく改善されてきました。

私がO-40に参加した当初は、まだ土のグラウンドで試合することが一般的でした。しかし今では人工芝や天然芝のピッチが整備され、都の決勝戦では「味の素フィールド西が丘」という、高校サッカー選手にとって憧れの聖地でプレーすることもできるようになりました。現役時代には手が届かなかった舞台に、東京都シニアサッカー連盟を通じて立てることは、本当にありがたいことです。

また、レフリーのレベルも格段に向上しました。以前は判定に不満を口にすることも少なくありませんでしたが、今では安心してプレーできるようになり、試合そのものに集中することができます。レフリーの成長に刺激を受けて、自分自身も選手として成長してきたと感じています。

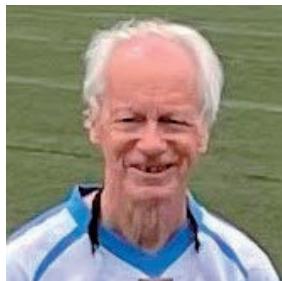
チーム数も年々増加し、リーグ全体が発展を続けていることは、東京都シニアサッカー連盟に関わる一人として大きな誇りです。

25周年という節目を迎えるにあたり、これまで支えてくださった連盟はもちろん、それぞれ会社や環境などが違っても、チームのコンセプトである「エンジョイ・謙虚・リスペクト」のもと、生涯スポーツとして愛するサッカーを続ける仲間に感謝します。また、休日の試合や遠征が多い中で、理解を示し支えてくれた家族にも深く感謝しています。

家族の協力があったからこそ、これまでピッチに立ち続けることができました。東京都シニアサッカー連盟は、ただサッカーを続けるだけでなく、人生を豊かにし、仲間との絆を深め、世代を越えて新たな夢を追いかける場でもあります。これからも一人の選手として、ピッチに立ち続けたいと思います。

最後になりますが、改めて東京都シニアサッカー連盟25周年を心からお祝い申し上げます。この

長い歴史を築き上げてこられた先達の功績に敬意を表しつつ、今後さらなる発展と飛躍を遂げられることを祈念しております。



活躍してきた選手・5

得意のトーキックと快速の点取り屋

トーマス・エイドリアン氏 (Thomas Adrian)

1946年10月23日生(79歳) 国籍: イギリス(ウェールズ)

T S L 60: 墨東60 S F L 70: 墨東7KS

CWL 65: 墨東65 S F L 75: 墨東75

子どもの頃のサッカー

私は、ウェールズとイングランドの国境にある、モンマス (Monmouth) という町の近くの小さな村で生まれました。幼少の頃は、よく友達とサッカーをしていましたが、学校では、サッカークラブではなく、ラグビーしか有りませんでした。

この学校には、私が18歳まで通うことになるのですが、13歳のときに、村でジュニアサッカーチームをつくることになり、そのチームに参加して、15歳以下の地元リーグで2年間プレーしました。

私の村からチームに参加していたのは、たった3人だけで、残りは国境を越えたイギリスのサッカースクールに通っていた友人たちでした。これが私のサッカー人生の始まりです。

大学時代のサッカー

その後、イングランド北部のヨークにある大学に

進学し、再びサッカーを始めました。大学では、他の大学のクラブとリーグ戦で対戦し、勝敗を争いサッカーを楽しみました。大学卒業後、私はロンドンに移り住み、働き、23歳から31歳までロンドン生活が続き、この間、サッカーからは離れていました。しかし、この間の生活において、日本人女性と付き合うようになります。

日本でのサッカー

そして、1978年1月に、31歳で日本に来て、その後、日本で、その女性と結婚をして、幸せな生活が続きました。

3年後のある日、私が働いていた語学学校の同僚が、「自チームの選手が足りない!」と私に頼んできました。約10年振りのサッカーで多少不安でしたが、プレーを始めました。

このチームは「ブリティッシュ・フットボール・クラブ

「ブリティッシュ・フットボール・クラブ(BFC)」



(BFC)」と呼ばれ、私は30年以上そのクラブでプレーすることになりました。私たち

は、東京ウイークエンダーリーグ（雑誌の名前）という海外チームのリーグでプレーしました。横田の米軍基地で開催する横田カップという大会にも参加し、1980年代に3回も優勝することができました。

この約30年間の日本生活は、仕事・家庭・子育て・サッカーと仲間たちなど、私を取り巻く素晴らしい環境のおかげで、充実したサッカー人生を送ることができました。

サッカーで種々の体験

40歳代に、サッカーで悪いことや良いことのいくつかの出来事がありました。まず、コンタクトレンズを着用し始め、眼鏡をかけていたときのプレー中の煩わしさがなくなりました。次に1992年に足を骨折し、2年間サッカーをプレーできませんでした。三つ目は、ボールを蹴る新しい方法を学びました。

私は四谷中学校で室内サッカーもしていたのですが、あるアメリカ人がいつもボールをつま先で蹴っていました。つま先では蹴っていけないと教えられていきましたが、試してみると、ある秘密のテクニックを使ってたくさんのゴールを決めることができました（SFL65～75のリーグ戦の得点

力ではNo.1の選手であり、ハットトリックを何度も達成しています）。



2022年リーグ戦「墨東70」優勝

64歳から本格的にシニアサッカーを始める

2004年、東京メトロポリスリーグという新外国人リーグ（30チーム）が始まりました。この頃、「BFC」は、「Vagabonds」という別のチームをつくっていたので、私はこのチームでプレーしました。

リーグ2部でしたが、2006年に1部に昇格し、1シーズンしか続かなかったのですが、私は最年長得点者（64歳時にゴール）でした。そして、65歳で東京シニアリーグ（TSL）の「墨東60」でプレーを始めました。「墨東60」、「墨東65」、「墨東70」（2回）、「墨東75」（2回+「ボーズFC」で1回）でTSLチャンピオンシップに優勝できたのは、とても幸運でした。

この成果はチームメートに感謝しなければなりません。私は2022年の関東選手権で東京代表チームの一員として優勝し、2023年に宮崎で開催された全日本選手権で3位に輝きました。

これからのサッカー人生

私の健康上の最大の心配は、目が非常に弱いことです。今まで、サッカーボールが目に3回も当たり、全て右目です。最後の怪我では、網膜剥離になってしまいました。順天堂病院の非常に熟練した医師によるレーザー手術のおかげで私の視力は救われました。

今後も怪我や体調に気を付けながら、できる限り、長くサッカーを続けたいと思っていますし、近い将来の80歳のリーグでプレーすることを楽しみにしています。

ふるさとのウェールズの野原でボールを蹴り始めて、さらに最後のSFL80リーグを楽しみ、私の生涯サッカーを皆さんとともに完成させたいと思っています。よろしくお願いします。



2014年 第14回全国シニアサッカー大会



活躍してきた選手・6 2,300試合出場の男！ 1,600ゴール、840アシスト達成！



吉川 誠氏

1948年7月5日生(77歳)
CWL 65:墨東65M
SFL 70:墨東7KS
SFL 75:墨東75

私のサッカー人生の始まり

私の小学生時代は、第2回全国中等学校野球大会で優勝した慶應普通部でキャッチャーをしていた伯父の影響を受けた父からの手ほどきを受けて、野球大好き少年でした。

私がサッカーを知ったのは、小学校2年生のとき。病気の担任に代わって教頭先生から体育の授業でサッカーをやったのがきっかけでした。団子状態の外にいて、こぼれたボールを大きく蹴つたことを褒めてもらった記憶がずっと残っています。

1961年4月 学習院中等科に入学

2年生の9月にサッカー部に入部しました。その年の4月、高等科に鈴木勇作先生（後に高体連サッカー部長）が赴任され、高等科サッカー部だけでなく中等科も指導してくださいました。

鈴木先生の熱い指導と、同じグラウンドで高等科や大学生の練習を見ることができたこと、「上手くなりたい」という一心で良い仲間と練習に励んだことにより、幸運なことに、東京都中学校サッカー秋季選手権大会で優秀選手賞をいただくことができました。



学習院中学時代



学習院高校時代

1964年4月 学習院高等科に進学

学習院高等科サッカー部は鈴木先生の指導のもと、関東大会や国体の東京都予選で、あと一歩で代表になれるほどレベルが上がっていました。

3年生となった1966年には関東大会都予選は決勝で敗退しましたが、インターハイ都予選に勝ち抜き東京代表になることができました。インターハイでは、1回戦延岡工業に1-0で勝ち、2回戦豊田西に3-0で勝ち、3回戦水戸商業に0-0の抽選負けが残念でした。

1967年4月 学習院大学に進学

学習院大学サッカー部に入部しました。当時は関東大学リーグの3部でしたが、翌年から3部以下は地域のリーグに分割され東京都1部リーグとなりました。2年生のときは、関東2部の上智大学と入れ替え戦で敗退、3年生のときは入れ替え戦を決める関東大会で敗退、と2部昇格はできませんでした。

1・2年生では捻挫や膝のケガが多く、サブレギュ

ラーでした。3・4年生ではリーグ戦フル出場でした。1970年の8月の関西遠征合宿では7日間で11試合フル出場するほどケガもなく体力も充実していました。

身長164cm、体重48kgと中学生並みの体格でしたが小柄を生かした技術とスタミナで4年間楽しくプレーできました。

1971年4月 埼玉銀行(現りそな銀行)入行

埼玉銀行サッカー部に入部。大宮にサッカー専用の広大な天然芝グラウンドがあり、インターバンクリーグではどの銀行のグラウンドも芝生で、泥まみれの学生時代からは天国のようでした。並行して学習院大学OBチームで東京都社会人リーグにも約10年間出場しました。また銀行の関連会社であるサイギンコンピューターサービスに出向した際は、同社のサッカー部で浦和市民リーグにも出場しました。インターバンクリーグは45歳まで出場しました。

1991年から長男の所属した「開一小フトボルクラブ」のコーチとなり現在までコーチを継続しています。

2001年から現在まで シニアサッカーリーグに参加

学習院大学の先輩の内田義男さん(「墨東クラブ」代表)からシニアサッカーのお誘いを受け、土日に私学事業団などのグラウンドでの練習会に参加するようになりました。その後、葛飾区シニアサッカーリーグO-40、O-50、北

区シニアサッカーリーグO-50、東京都シニアサッカーリーグO-40、O-50、O-60、O-65、O-70、O-75と年齢に応じたレベルでリーグ戦などの試合を楽しんでいます。

2008年10月にシニアサッカー連盟の役員の小倉功さんからピックアップしていただきO-60の東京代表チームに参加するようになりました。初めての都代表の参加はねんりんピック鹿児島で、早稲田大学で釜本さんと同期で、その後東洋工業で活躍された大野剛さんとプレーさせていただきました。

大会最終日の最後の試合に静岡対大阪が組まれ、報道陣多数の中、杉山・釜本対決が話題になりました。大野さんは3試合で7得点され驚かされました。今も赤羽水曜練習会(小倉さんが会長)で超人プレーをされています。

ねんりんピック以降、多くの大会に参加

その後、ねんりんピックには計4回出場したほか、全国大会関東予選に7回、全国大会に5回(優勝1回、3位3回)、その他の大会に多数参加しました。

O-70東京代表チームでは、全国大会関東予選に6回、全国大会に3回(オープン大会優勝2回、3位1回)、その他多くの大会に参加しています。



2014年 第14回全国シニアサッカー大会



サッカー人生は人とのつながり

2002年からゴール、アシストを記録開始。2024年12月末までに23年間で2,299試合（年平均100試合）1,600ゴール、840アシストを達成しました。

2021年5月にテレビ東京の『FOOT×BRAIN』に出演し、記録することがサッカー継続のモチベーションとなっていて当面の目標が1,500ゴールであること、自宅での筋トレやストレッチ、体幹トレーニングの継続、公式戦や練習試合を多く重ねることが自然にトレーニングとなっていること、試合後にバナナ、牛乳、カニカマを摂取することなどを話しました。

60年以上、サッカーを楽しんできました。学習院でのサッカー仲間とはまだ長い付き合いが続いている。現在のチームメートや相手チームには学生時代に対戦した方も大勢います。SFLリーグの御厨雅宏委員長は学習院大学のライバル校の成蹊大学の2年先輩であり、現在「墨東75」で一緒にさせてもらっています。

試合後の懇親会など、さまざまな場面でいろいろ

サッカー歴

1962～1964	学習院中等科 東京都優秀選手
1964～1967	学習院高等科 青森インターハイベスト16
1967～1971	学習院大学（関東大学リーグ・東京都大学リーグ）
1971～1993	埼玉銀行・あさひ銀行（インターパンクリーグ）
1971～1981	「桜蹴会」（東京都社会人リーグ）
1984～1989	「FCS」（浦和市民リーグ）
1995	4級審判
1996	3級審判
2001～2011	「BOF」「墨東40」（葛飾区O-40シニアリーグ）
2003～2011	「葛飾40」（東京都O-40シニアリーグ）
2003～2017	「葛飾50」「Reborn」（東京都O-50シニアリーグ）
2008～2021	「墨東60」（東京都O-60シニアリーグ）
2012～2017	「2001豊島」（北区O-50シニアリーグ）
2014～現在	「墨東65」（東京都O-65シニアリーグ）
2018～現在	「墨東70」（東京都O-70シニアリーグ）
2023～現在	「墨東75」（東京都O-75シニアリーグ）

いろいろと話していると、いろいろなつながりができる面白く、楽しくなります。東京だけではなく関東大会などで埼玉、神奈川、千葉のチームや定期戦で交流のある甲南大学の方々、樋口暢彦SFL前委員長が尽力されている福岡交流戦での福岡の方々、ほぼ毎年参加の大坂、静岡の大会の方々、サッカーを続ける限り多くの方とのつながりが広がっていきます。私のサッカー人生は人とのつながりと言えます。

続けることができたのは家族のおかげ

私がこんなに長くサッカーを続けられたのは、東京都シニアサッカーリーグや区のリーグがあったこと、練習試合の場所とチーム仲間、対戦相手があったことであり、他のスポーツでは難しかったと思っています。

昨年からSFL80リーグが始まり年代別リーグが増えて7つのカテゴリーとなっています。80歳を超えた方々は、各カテゴリーの先陣をきってリーグを立ち上げてこられ、シニアサッカーの発展・拡大に寄与されてこられました。その後、サッカーができる環境を維持・拡大してこられた関係各位には深く感謝いたします。

いつまでサッカーができるか分かりません。60歳以降、肋骨骨折5回（10ヵ所）、眼窩底骨折、頭部打撲（得点後ゴールポストに頭をぶつけても天国に行けず）、肩鎖関節脱臼、橈骨骨折、小指骨折、鼠径ヘルニア、変形性膝関節症（通院中）などサッカーでのケガは多数あり、その度に家族（特に家内）には心配をかけてきました。

サッカーを続けることができたのは家族あってのおかげであり感謝しております。これからも、健康管理に充分留意しサッカーを楽しみたいと思います。



活躍されてきた選手・7 ずっとサッカーボールと遊んできた!



齋藤 由理子氏

1959年7月12日生(66歳)
SFL 70・75 : LBクラブ

「LBクラブ」入部のきっかけ

60歳を前にしたある日、上妻さんから電話がかかってきた。そして、女子は60歳になれば、男子の70歳以上のリーグの試合に出場できるので、「LBクラブ」に入部するように言われた。

その頃、私はまだフルタイムで働いていたため、シニアリーグが開催されるウィークデイの試合には出られないとお答えしたが、ご自身は試合のある日は仕事を休んでいるとおっしゃったため、断れなくなり、今日に至っている。

また、私が65歳になるのを控えて、リーグのO-75の規約を女子は65歳以上で参加できると変更していただき、O-75の試合にも出していただいている。フルタイム勤務のときには試合のある日は有給休暇をとっていたが、現在は週2日の非常勤の仕事のため、O-70とO-75の試合がある月、金を避け、火、木を基本的な出勤日としている。

心が弾むライトブルーのユニフォーム

「LBクラブ」では、先輩の皆様によくしていただいていて、試合後の懇親会も含めて、サッカーライフを楽しんでいる。皆様優しく、楽しい方たちで居心地が良いのはもちろんだが、特に気に入っているのが、ライトブルーのユニフォームだ。

これまで所属していたチームのユニフォームは、

やまぶき、青、えんじ、緑などで、こんなかわいい色のユニフォームを着たことがなかった。このライトブルーのユニフォームを着ると心が弾む。

「LBクラブ」は、一つの大学の運動会のサッカー部のOBが中心のチームであり、70歳以上のカテゴリーでは数少ない存在だ。若い頃同じチームで同じユニフォームでプレーし、中高年になってからも、年代によってカテゴリーを変えながら、プレースタイルを含めてよく理解しあっている者同士でサッカーを楽しみ続けることができるのもとても素晴らしいことだと思う。

いつもサッカーをする仲間がいた

一方、私は、いろいろなチームでサッカーを続けてきた。小学校高学年のとき放課後は校庭でサッカーをして遊んでいた私は、中学校ではサッカー部に入ろうと思い、それまで男子のみが参加していたサッカー部に、他の3人の女子生徒と一緒に入部した。

練習は男子と一緒に行っていたが、対外試合に出ることはできなかった。「実力的には試合に出せるが、中体連の規則によって男女混合の試合はできない」と顧問の先生が言っていたように覚えている。

そして、高校でも同じようにサッカー部に入るものと思い入部説明会に顔を出したが、3年生

のごつい男子の先輩たちをみて「一緒にやるのは無理」と思い、結局、陸上部で選手、サッカー部ではマネージャーになり、校外で、誰でも入れる女子チームに入った。

その後、大学、社会人と、もっぱら女性のサッカーチームで活動してきた。私が高校生、大学生の期間は、サッカーをしている女子はごく少数であり、その間に、初めて東京の女子のサッカーリーグができ、初めて女子の全国選手権が開催され、初めての女子の日本代表が編成されて国際大会（香港で開催されたアジアカップ）に参加した。私の所属したチームは全国選手権で優勝を目指すチームだったが、練習が週3～4日しかなかったため、大学では昼休みを挟んだ前後のどちらかの授業はとらず、その時間にはグラウンドで一人ボールを蹴るようにし、昼休みには大学の職員たちのゲームに入れてもらい、また、検見川の合宿所も毎月チームで利用していた。大学（特にグラウンドと合宿所）には恵まれていたと思う。

大学卒業後、2年間サッカーから離れた後、約10年間、東京都1部リーグのチームに所属したが、第2子を出産した後、仕事と育児の大変さから、サッカーを続けることを断念した。そして子どもたちが大きくなったときに、友人から誘われて、千葉県の35歳以上の11人制のリーグや40歳以上の8人制のリーグに参加するチームに所属した。ただ、60歳を前に、35歳以上や40歳以上のリーグでの活動は難しくなって、サッカーから離れていたときに、上妻さんから「LBクラブ」への参加というお誘いを受けたのだ。

広がる、「サッカーを続けられる」環境

女子の場合には、どの県にも60歳以上のリーグ

ではなく、60歳以上で編成された11人制サッカーをするチームもない。そうした中で、2024年から神戸市サッカー協会が、年1回、60歳以上の女子の11人制のサッカー大会「GO TO SMILE大会」を開催している。

2回目の2025年は全国から100人以上の女子選手（55歳以上25人を含む）が集まり、静岡、千葉、東京など県中心にチームを編成して、フルコートで20分の試合を各チーム4試合ずつ行った。2024年、2025年と私も参加したが、11人制のサッカーの試合をしたいという全国の女子サッカー選手の熱い気持ちが一つになった楽しい時間だった。

今、私は膝の調子が悪く、ダッシュは片足スクワットが10回×3セットがスムーズにできるまでリハビリの先生から止められているので、東京都シニアリーグの試合を休み続け、ご迷惑をおかけしている。整形外科のリハビリに通って、家や家の近くでもリハビリのメニュー やジョギング、キックの練習をしているが、なかなか回復しないのが歯痒い。

一方、走ってはいけない「ウォーキングフットボール」はすることができる。2025年10月にスペインで開催されたウォーキングフットボールの世界大会に東京（八丈島を含む）、千葉、神奈川、兵庫から集まったメンバーと女子60歳以上のカテゴリーの日本代表チームの選手兼監督として参加し、イングランド、ウェールズ、オーストラリアと日本の4チーム中3位で銅メダルを獲得した。

女子がサッカーをすることに若干の壁があるのも、また年齢を重ねてキック力が弱くなり、なかなか走れなくなっても、中学でサッカー部に入って以来、サッカーボールを蹴ることができる環境に身を置き続けられているのは、大変ラッキーだ

と思う。

東京都にシニアサッカー連盟があり、シニアリーグがあって、審判や運営の皆様のご努力のおかげで、80歳を超えて定期的にサッカーをす

る機会があるのは、シニアになってもサッカーを続けたい選手にとって、とても恵まれた環境である。

私もそこに参加させていただいていることは、感謝しかない。



2020年2月SFL70「ダンディーズ」優勝

活躍してきた選手・8 サッカーと私



川口 さきえ氏

1957年7月29日生（68歳）
CWL 65: ダンディーズ2019
SFL 70: ダンディーズTOKYO
SFL 75: ダンディーズ75

サッカーとの出会い

私がサッカーを始めたきっかけは、長男が北区の小学校でサッカーを始めたからです。Jリーグが発足した年で、子どもたちは選手のプレーを真似ながら練習に励んでいました。

校庭で当番をしていたとき、顧問の先生の勧めでママチームを結成しました。長男、長女とも卒業と一緒にサッカーからは離れていきましたが、私はいまだママチームに在籍しています。

今はその小学校のチームで娘と孫と一緒に大会に参加してサッカーを楽しんでいます。

東京都シニアリーグに加入

60歳になった頃、サッカーをやめようか悩んでいたとき、知人から北区シニアリーグに誘われて喜んで参加しました。対戦相手は全て男性です。最初は体格の違いから怖さも感じましたが、試合をしていくうちにだんだんと慣れてきました。

62歳のとき、同じチームの小林久士さんから

東京都シニアリーグに誘われました。サッカーに対する意気込みはありましたが、技術のない私がやつていけるのか不安でした。でも、興味のほうが勝って「ダンディーズ」に加入了しました。

70リーグでは女性参加が初めてということで、対戦相手の皆さんにも戸惑いが感じられ、強い接触もなく過ごせました。チームの先輩方からはいろいろフォローしてもらい、初年度（2019年）は、リーグ戦優勝という最高の結果でした。あのときの喜びと嬉しさは今でも忘れません。

苦労したこと

2020年に入るとコロナが流行して試合が延期になったり、外出もままならなかったりして練習もできない時期がありました。いつこの状態から抜け出せるのか不安でしたが、シニアサッカー協会や運営の方々の努力と、自分たちで健康状態を把握し記録していくことで少しづつ練習や試合もできるようになりました。

そして2023年5月ようやく感染症分類の5類になり日常が戻ってきました。同じ頃、「ダンディーズ」に女子が二人増えていろいろな点で心強く感じました。日常生活やサッカーを楽しめることがいかに幸せなことか、改めて気づかされた出来事でした。

悲しかったこと

シニアリーグに加入して6年ですが、一番悲しかったのはチームのメンバーが練習試合中に体調を崩し、その後亡くなってしまったことです。70歳と若く直前まで元気だったのに、あまりに急なことで呆然としてしまいました。サッカーに対する真摯な取り組みと温厚な人柄はこれから先も忘れることはないと思います。

未来に向けて

シニアリーグに参加して思ったのは、皆さん実年齢よりも体力、気力共にとてもお若いということです。真剣に楽しく、たまには熱くなってプレーされている姿が印象的です。

80リーグの方たちと静岡フェスティバルに参加したとき、正確なパスやトラップの技術はもちろん

ですが、とてもスピードのある方もいて、驚きと尊敬を持って一緒にピッチに立ちました。

私もこれから先80リーグでプレーすることが夢です。それには「サッカーが好きだ」という気持ちを失わず、体調管理を怠らず、仲間を尊重し、ときには練習を休む選択肢を持つなど心がけたいと思います。

今は福岡や静岡などへの遠征に参加するようになり、ますますサッカーをする時間が増えてきました。練習量も増え、結果ひざの故障へとつながってしまいましたが、いろいろな方との出会いもあり大いにサッカー生活を楽しんでいます。

近年、女子サッカーが盛んになっているので、これからシニアリーグに参加する女子も増えると思います。いつかは女子シニアリーグの設立へとつながることを夢見ています。

東京都シニアサッカー連盟が25周年を迎えたことをお祝い申し上げます。今まで携わってこられた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから先も50年、100年と続き、ますます発展されることを祈念しています。最後に、今まで支えてくださった皆様とチームの仲間に感謝しています。これからもよろしくお願ひいたします。



2024年5月静岡フェスティバル(O-80)



2025年4月SFL70開幕戦
「ダンディーズTOKYO」

2024年度JFA第23回全日本Over50サッカー大会 関東予選会で、全国大会出場を決めた後の集合写真



活躍してきた選手・9
**第二の青春は
シニアサッカーから
始まった**



平山 勲氏

1966年7月17日生(59歳)
T C L : YKT
T S L : FC武蔵ユナイテッド Over 50

経歴・エピソード

私は現在、東京都シニアサッカー連盟に所属する「FC武蔵ユナイテッド Over 50」の代表を務めています。

サッカーとの出会いは小学2年生の頃であり、高校・大学では全国大会に出場する強豪校で研鑽を積み、高校時代にはアンダーカテゴリー日本代表にも選出されました。社会人では日本リーグ加盟チームに所属し、27歳まで企業選手としてプレーを続けてまいりました。

現役引退後はジュニアユースチームの監督を務めましたが、45歳を目前に友人の誘いを受け、シニアプレーヤーとして「YKT」(現「FC武蔵ユナイテッド Over 40」)に加入。その後2017年に、諸先輩方と共に「FC武蔵ユナイテッド Over 50」を立ち上げました。

チームの生い立ち

チームは2018年度に東京都シニアサッカー連盟

へ加盟し、2019年度の全日本O-50サッカー大 会 東京予選で初優勝を果たしました。実はこの年、チーム創設に関わった諸先輩方がチームを去ることになり、2020年度の選手登録締め切りの2カ月前に部員が6名となってしまいました。

しかし、同じ志を持つ仲間の参加により乗り越え、2020年度にはTSL-1(東京都シニアサッカーリーグO-50カテゴリー1) で初優勝を飾りました。以降も安定して上位を維持し、2024年度には全日本O-50サッカー大会に初出場、準優勝という快挙を達成することができました。

チーム運営・リーグ運営で印象に残っていること

チーム創設から8年を迎える現在、私自身は代表兼監督として、選手登録や練習試合の調整などを担っています。設立当初は、練習試合のマッチメイクや試合への参加体制の構築など多くの課題に直面しましたが、今では35名を超える部

員が主体的に協力してくれており、非常に心強く感じております。

また、私は2023年度からTSL-1 東京都シニアサッカーリーグ（O-50）カテゴリー1のリーグ運営を担う幹事長を務めております。運営においては、試合日程の調整、リーグ統括・副幹事長・会計担当・各チームの代表者との連携および円滑なコミュニケーションの維持など多岐にわたる業務を取り組んでおります。

リーグ運営において、特に苦労するのは、限られた会場と時間の中で、リーグ所属チームが公平に本部業務や本部運営キッドの保管および持参を実施することです。そして、安全に試合を行える環境を整えることです。夏場のゲリラ豪雨など予期せぬ事態にも対応する必要があり、リーグ運営側の調整力が試される場面があります。

印象に残っている出来事の一つは、2024年度のリーグ最終節で、複数のチームにリーグ降格がかかった試合が行われた際のことです。選手達の真剣な表情、ベンチで熱い声援を送る仲間、そして試合後に互いを称えあう握手姿を見て、「このTSL-1 東京都シニアサッカーリーグ（O-50）カテゴリー1は日本最高峰のリーグである」ことを実感。このリーグの幹事長を務めていることを改めて誇りに思いました。

日本最高峰のシニアリーグを目指して

私は、TSL-1 東京都シニアサッカーリーグ（O-50）カテゴリー1に所属するチームの代表兼監督およびリーグ幹事長として、単なる地域リーグにとどまらず、日本最高峰のシニアリーグとして確立されることを目指しています。そのためには、競技レ

ベルのさらなる向上はもちろんのこと、フェアプレーの精神を徹底し、全ての選手が安心してプレーできる環境づくりが不可欠と考えています。

近年、元プロ選手がOver40およびOver50に登録し、競技力は向上しているものの、相手選手への尊敬と礼節を欠いたチームが散見されることが残念できません。フェアプレー推進に関しては、リーグ開幕前および試合前のマナー啓発や違反行為への厳格な対応を通じて、選手一人一人の意識改革を促すべきだと考えています。

今後に向けたシニアサッカーへの提言

一つは、TSL-1 東京都シニアサッカーリーグ（O-50）カテゴリー1の最終節について、味の素フィールド西ヶ丘等の天然芝グラウンドでの実施および同日に優勝チームの表彰を行うこと。

もう一つは、審判団のスキルや判断力のさらなる向上です。各チームの競技力が着実に向上しており、試合の質も年々高まってきております。選手達は技術・戦術ともに洗練され、シニア世代とは思えないほどのスピード感と緊張感のあるゲームが展開されています。

近年、リーグ全体の競技力は年々向上しており、選手たちは年齢を超えて高い意識と技術を持ってプレーしています。この進化に合わせて、審判団のスキルや判断力も、さらなるステップアップが期待される段階に入ってきたと感じています。

これは課題というより、リーグが次のフェーズに進むための大きな可能性であり、「選手・審判・運営が同じ方向を向き、共に成長していくリーグ」への進化のチャンスだと捉えています。





Over 40座談会@暫亭いりおり

40代企画として、TCLを代表する皆様が集まり、これまでのTCLについて熱く語り合いました。80代で現役ゴールキーパーとして活躍中の先輩も参加し、大いに盛り上がった座談会をご紹介します。

左から「HTK」40川北さん、連盟兒島さん、「リアル」40河合さん、「エリース40」石川さん

サッカーを続けていける環境があることへの感謝

座談会参加者
川北 武志氏
河合 崇泰氏
石川 清司氏
兒島 林平氏
松田 篤徳氏
聞き手
店主

川北 武志氏

2022年TCL-1優勝 HTK Albiceleste ※HTKは、平日体育会サッカー部の略
2015年「FC青山オーバー・フォーティ」で全国シニア40優勝、2019年「HTK Albiceleste」を設立し、現在は「HTK Albiceleste」(O-40) 代表兼監督、「HTK50/50」(O-50) では選手として活躍。

河合 崇泰氏

2023年TCL-1優勝 C.A.REALTOKYO 40
「ベルマーレ平塚」(1年「インデペンディエンテ」留学) > 「セレッソ大阪」> 「ジャトコ」> 「佐川急便東京SC」を経て「C.A.REALTOKYO 40」。

石川 清司氏

2024年TCL-1優勝 エリース東京シニア40
「横河武蔵野」(JFL) > 「SGシステム」> 「エリース東京」を経て「エリース東京シニア40」。
2023年「エリース東京40」で全国優勝、2024年TCL-1右SBで6得点。

兒島 林平氏

2023～2024年、東京都シニアサッカー連盟40統括、アフリカ寄付担当他。

松田 篤徳氏

暫亭いりおり店主（84歳）。「四十雀東京」で今もGKとして活躍。

TCLを代表するライバルチームが集結

兒島：今日は、お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます!

河合：俺、こいつ(石川氏)と職場一緒なんですよ。

川北：えー、そうなの？でも「リアル」には入らなかつた？(笑)

河合：そうなんですよ。会社のサッカー部で一緒に社会人関東リーグまで行って、その後、俺は「リアル」に行って、清司は「エリース」(社会人)に行って今に至るって経緯です。

川北：それにしてもこの面子は凄いね。サッカーでは敵同士だから飲むことはなかったね。「リアル」は来年どうなの？新しいの結構入るの？



河合さんと石川さん(職場同僚ショット)

河合：「リアル」は4～5人に入る予定やけど、主力で抜けるのもいて…。

川北：「エリース」は？

50人以上いて、社会人からも上がってくるから大きいよね。今年から「HTK50」つくったけど、今後を見据えて一般（「HTK」社会人）もつくったよ。

河合：俺「HTK」のユニフォーム好きなんですよ。アルゼンチンだから。1996年、「ベルマーレ平塚」時代に2002年W杯強化目的でアルゼンチンの古豪「インデペンディエンテ」に1年留学してたから、マドーナが大好きなんですよ。

川北：アルゼンチンは荒かったでしょ？でも凄いなあアルゼンチンでサッカーって。

兒島：個性派集団の「HTK」を取り纏めている川北さんも凄いですよ！2022年のTCL-1優勝を経て、今は名実ともにTCL-1を代表するチームです！

石川：豆乳鍋できましたよ（一番年下のため、黙々と鍋奉行をしていました）。

川北：思い出した！「エリース」のサイドバック？「HTK」戦でゴール決めた？

石川：右SBです。決めました！

川北：お前か!! でもあのシュートは凄かったね。
ニア狙ったの?

石川：アウトで振り抜こうと思ったら、たまたまニアに行って。

川北：あのシュートまでは勝てると思ってたのに…。あれはいいシュートだったね。

石川：ちなみに昨シーズン6得点で得点王(チーム内)です!

川北：SBで得点王って凄くない!?

河合：凄いけど、生意気!!

80歳過ぎてもサッカー続けられるかな?!

※店主の松田さんが豆乳鍋の食べ方指導も兼ねて参戦

兒島：松田さんは現役のGKなんですよ。シュートを横っ飛びで止めて凄いんですよ。

松田：よたよたGKだよ。もう84歳だからね。

川北：豆乳鍋、美味しいです!! 84歳!? 84歳までサッカーやってられるかな? 凄いよね。

兒島：「四十雀」には90代の選手がいますし、連盟の80リーグはTV取材殺到ですよ。

松田：TVと言ったら、松本育夫とか岡野俊一郎はうちの店来たことがあるよ。

川北：松本育夫といえば「ダイヤモンド・サッカー」!
海外のサッカー唯一の情報源。

兒島：違いますよ! 「ダイヤモンド・サッカー」は岡野さんです。

石川：なんですかそれ? 聞いたことないです。

川北：41歳だと知らないのか。そのあとスカパーができる中田英寿とかと放送して。

河合：中田英寿は、「ベルマーレ」で同期入団。
今度連れて来たいね。

一同：凄えー、日本酒の仕事で忙しそうだけど会ってみたい。

ライバルがいるから盛り上がる

兒島：これからシニアサッカー(40代TCL)の未来についてご意見ありますか?

石川：若いときからガチンコでサッカーやってきて、この年代になってもシニアサッカーという環境が整っていて、これからもサッカー続けていけるのが嬉しい。



川北：そうだね。そういう環境を今後も用意してもらっていることに感謝だね。

兒島：ありがとうございます! TCLは楽しいってことですかね。励みになります。

河合：僕からもいいですか? 「エリース」、「HTK」、「レアル」、「Tドリ」、「青山」この5チームはTCL-1の中心として10年後も残っていてほしい。「Tドリ」は1年で戻って來たし、「青山」も降格しちゃったけど1年で戻って來てほしい。

川北：古豪の「四十雀」、「大田区」、「世田谷」の復活、新参者チームとかの刺激は大歓迎だけど、核となる5チームがTCL-1を支えていけたらいいね。

兒島：石川さんは、「エリース」10連覇、10年連続得点王とか宣言しておきますか?(笑)

石川：ふふ(不敵な笑み)

川北&河合：うちらが阻止しますよ!

兒島：本日は座談会参加ありがとうございました! 松田さんご馳走様でした! 豆乳 Over40座談会メンバーと松田店主夫婦と最後に記念写真。2025年4月末、暫亭いろりは閉鍋最高でした!



東京シニアサッカー連盟運営リーグの特徴

東京都では、各区の選抜リーグや三多摩のシニアリーグなど、さまざまなリーグ活動が行われてきました。40代でそれらリーグの統合を行い、上位チームで構成される「東京都チャンピオンズリーグ（TCL）」を設立、その後50代「東京都シニアリーグ（TSL）」、60代「クラウンリーグ（CWL）」の立ち上げと続き、活動を広げました。さらに、65歳以上を対象とした「CWL65」、70以上が対象の「SFL（サッカーフォーライフ）」も精力的な活動を続けています。

ここでは、TCL/TSL/CWL、CWL65、SFLについて、各リーグの特徴をご紹介します。

TCL Over40～60世代の 運営について TSL CWL

発足と理念

東京都シニアサッカー連盟のO-40～O-60世代の運営は、2001年に開催されたO-40日本マスターズ大会東京都予選会の主管から始まりました。その後、各年代の状況に応じてリーグ戦や各種大会を立ち上げ、年を追うごとに年代を広げながら参加チーム数は拡大。さらに、関東予選会や関東サッカー大会（旧関東シニアサッカー選手権大会）、東アジアシニアサッカー大会の主管運営も持ち回りで担当し、全国大会を含め代表チームや選手団の派遣を行ってきました。

創設当初は、東京都予選会運営、関東予選、全国大会への派遣、さらには地域に根差した草の根リーグの最上位に位置づけられるチャンピオンズリーグの立ち上げなど、日本の頂点を目指す競技志向のチームを念頭にした取り組みに軸があり、その運営にあたっては、「最高年代のシニアサッカーが日本サッカーの模範となる組織・運営を目指す」という高い目標を掲げ、次の3つの事項を推進しました。これらは今日まで受け継

がれ、現在の発展の基盤となっています。

推進すべき3つの事項

- 1 環境の確保(正式なグラウンドの確保)
- 2 公式審判員の確保に基づく規律ある運営
- 3 しっかりとした運営(正規ユニフォーム、本部運営、ベンチ管理、競技場管理)

その後、より多くの方が気軽にシニアサッカーに参加できる環境を整えることも視野に入れ、リーグ戦参加チームの裾野は徐々に広がりました。10歳刻みの年齢カテゴリーの中で、トップチームでの出場機会が限られてきた年代後半のメンバーを中心とするセカンドチームのエントリーも増え、各年代3部リーグが4ブロック、5ブロック構成へと裾野が広がり、多様な競技レベルや志向に応じた環境を整えました。

普及の面では、オープン参加での平日練習会の開催や、東京都スポーツ協会（旧東京都体育協会）主催のスポーツフェスティバル東京（旧都民生涯スポーツ大会：O-40／O-50）、シニア健康ス

ポーツフェスティバル（O-60）の主管運営も担当しました。

シニア連盟では、競技志向とエンジョイ志向の双方に目を向け、年代に関わらず「生涯スポーツ」としてのサッカーを最重視しています。健康を維持し、仲間と共に生涯にわたりサッカーを真剣に楽しむために、「ケガをしない、させない」をスローガンに掲げ、フェアプレーとリスペクト精神を大切に、運営を続けています。

年齢を重ねても長くサッカーを楽しめる環境整備に向き合い、時代と共にO-60からさらにO-65、O-70以上の取り組みが伸展。今日のO-40からO-80までの体制に至りました。

運営体制

東京都予選会は、シニア連盟がグラウンド確保、試合組、派遣審判手配、本部運営、会計管理など運営全般を担当します。

一方でリーグ戦はリーグの参加チームから選出された幹事三役（幹事長、副幹事長、会計）を中心としたリーグ自主運営体制をとっています。シニア連盟から日程と審判派遣の割り振りを行い、その後の試合組、現地での会場管理、本部運営、会計管理等をリーグ内で行っています。

関東予選会、東京都スポーツ協会関連大会も、シニア連盟が主管対応する中で、当日の本部運営には加盟チームから多くの協力者を派遣してもらい対応しています。

グラウンド確保

シニア連盟は、現在、年間1,000試合を超える公式戦を運営する大きな組織へと成長しました。シニア世代の仲間が日々サッカーを通じて健康を維持し、友情を深め、社会とのつながりを持ち

続けられる場として、多くの方々の支えにより活動を続けています。

その一方で、グラウンドの確保は連盟運営における最も大きな課題の一つです。現在、連盟として確保できているグラウンドは年間試合の4割程度にとどまり、残りの多くは加盟チームの皆様のご厚意によるグラウンド提供に支えられています。この協力なくしては、現在の規模での試合運営は実現できません。改めて深く感謝申し上げます。

今後は、引き続き加盟チームとの連携を軸しながら、学校や地域団体と協働し、シニア世代が持つ豊富な社会経験や人脈を活かして社会貢献につなげつつ、学校施設の開放や地域との共同利用など、新たな形でのグラウンド確保の可能性を探ってまいります。

年代別ヒストリー

O-40

2000年のシニア連盟設立後、全国大会向けの東京都予選会と秋季大会（予選会上位チームによるトーナメント戦）を連盟主管で運営しつつ、連盟設立前から行われてきた東京都23区のサッカー協会の代表チームで構成されたSML（スーパーマスターズリーグ（O-40））と、三多摩地区で開催されてきたSSL（三多摩シニアリーグ（O-40））は継続してそれぞれの運営主管にて開催されました。なお秋季大会は、チーム拡大に伴いリーグ戦の日程消化を優先するために2014年度をもって終了しました。

予選会は、限られた日程との兼ね合いの中で、日本の頂点を目指す東京のトップを決めるに相応しい舞台設定を追求してきました。

以前は参加希望全チームを対象とした1次予

選ブロックリーグ、そこを勝ち上がったチームとシード枠を加えた12チームでの2次予選を経て、4チームによるトーナメント形式の決勝大会で代表を決めるフォーマットを基本形としていました。2次予選や決勝大会ではダブルヘッダーが組まれることも多くありました。

その後リーグの日程消化との兼ね合いで、2020年以降はトーナメント形式への一本化、2023年以降は参加資格を2部以上とする変更が行われました。決勝大会はかつて5月に舍人競

2004年度	SML	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	北区シニア	25	8	1	1	21	2	19
2	新宿マエストロス	23	7	1	2	21	5	16
3	目黒区シニア	18	5	2	3	11	8	3
4	渋谷区四十雀	17	5	3	2	12	6	6
5	品川区シニア	14	4	4	2	11	12	▲1
6	足立区マスターズ	13	3	3	4	9	7	2
7	世田谷区四十雀	12	3	4	3	10	10	0
8	葛飾区壮年部40	11	3	5	2	9	18	▲9
9	大田区シニア	9	2	5	3	10	16	▲6
10	豊島区シニア	7	2	7	1	6	23	▲17
11	荒川区シニア	4	1	8	1	6	19	▲13

2004年度	SSL (三多摩シニアリーグ)	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	三鷹蹴球団	9	3	1	0	8	3	5
2	立川オールスター	6	2	2	0	8	7	1
3	国分寺選抜	6	2	2	0	8	8	0
4	HFCウイングス	4	1	2	1	5	7	▲2
5	桑の根SC Over40	4	1	2	1	6	10	▲4

翌2005年にはSML、TML、SSLの上位に位置するリーグとして、TCL(東京都チャンピオンズリーグ)を立ち上げ、2004年の各リーグの上位戦績のチームがTCLに参戦しました。この年は上位5チームが勝ち点差4で並ぶ中、「北区」が

2005年度	TCL	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	北区シニア	19	6	2	1	20	9	11
2	四十雀クラブ東京	17	5	2	2	12	5	7
3	高麗SC	16	5	3	1	20	10	10
4	アリアンサ	16	5	3	1	8	8	0
5	新宿マエストロス	15	4	2	3	12	9	3
6	三鷹蹴球団	12	3	3	3	10	11	▲1
7	渋谷区四十雀	11	3	4	2	15	9	6
8	トヨペットクラブ	11	3	4	2	13	9	4
9	立川オールスター	8	2	5	2	4	12	▲8
10	目黒区シニア	1	0	8	1	2	34	▲32

技場で行われていましたが、近年は他の年代と併せて3月に西が丘サッカー場で開催されています。

リーグ戦に関しては、シニア連盟創設時に既存のリーグに属していなかった「四十雀クラブ東京」、「高麗サッカークラブ」、「トヨペットクラブ」、「Tドリームス」など、クラブ組織向けのリーグ戦としてTML(東京都マスターズリーグ(O-40))を2003年にシニア連盟主管で立ち上げました。2004年の各リーグのチーム構成と戦績は以下の通りです。

2004年度	TML-1	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	高麗SC	17	5	0	2	13	5	8
2	四十雀東京	16	5	1	1	8	3	5
3	トヨペットクラブ	12	4	3	0	13	9	4
4	アリアンサ	11	3	2	2	5	3	2
5	Tドリームス	10	3	3	1	12	13	▲1
6	FC本郷	9	3	4	0	5	7	▲2
7	むさしのFCワインズ	4	1	5	1	3	8	▲5
8	桐一族	1	0	6	1	4	15	▲11

2004年度	TML-2	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	マンモス	11	3	0	2	7	2	5
2	ウルトラマン	10	3	1	1	8	4	4
3	法政クラブ	8	2	1	2	5	6	▲1
4	クラブフォアローゼス	7	2	2	1	5	3	2
5	YKT	3	1	4	0	5	7	▲2
6	ルーズ・ユナイテッド	2	0	3	2	4	12	▲8

TCL初代王者の栄冠を勝ち取りました。その後TCLの勢力図は時代と共に大きく変遷してきましたが、「北区」は直近もTCL-1の中堅に位置し大いに健闘しています。

2004年度	TCL-1	勝点	勝	負	引	敗戦	得点	失点	得失点
1	エリース東京シニア40	22	7	1	1	18	5	13	
2	ジュール	18	5	3	1	12	9	3	
3	HTK Albiceleste	16	5	1	3	18	11	7	
4	FC・フエンテ東久留米O-40	13	3	4	2	11	12	▲1	
5	C.A.REAL TOKYO 40	12	3	3	3	9	8	1	
6	東京北区シニアFC・40	12	3	3	3	9	10	▲1	
7	Tokyo Beer Old Boys	10	2	4	3	8	9	▲1	
8	大田区シニア40	8	2	2	5	8	13	▲5	
9	FC青山オーバー・フォーティ	7	1	4	4	6	7	▲1	
10	四十雀クラブ東京	3	0	3	6	6	21	▲15	

以降、SSLはほどなくTCLの下位リーグとしての位置付けは解消。しばらくTCLの下にSMLとTMLが併存する構成が続きました。

2014年にはリーグ体系を一本化し、TCL-1をトップリーグ、SMLとTMLを統合して2部の

TCL-2(1ブロック)、3部のTCL-3(3ブロック)に再編しました。その後TCL-2が2ブロックに拡大、TCL-3が4ブロックに拡大し、2004年に30チームだった規模は2025年には69チームまで拡大しました。

O-50

2001年に、JFA主催のプレ全国シニアO-50大会に向けた東京都予選会を主管し、2003年から秋季大会も開始（2014年で終了）。予選会の形式はO-40とほぼ同様でしたが、O-40の2次予選がリーグ形式だったのに対して、O-50は日程の都合からトーナメント形式でした。関東予選が早ければ4月中に開催されることと、3月下旬であれば西が丘サッカー場を確保可能なことから、決勝大会を3月末頃に開催するのが恒例となりました。2024年以降はO-40からO-60までの決勝を西が丘サッカー場で開催する形式となっています。

リーグは2002年にSMLのO-50カテゴリーとして始まり、2006年にはSML50所属の23区サッカー協会代表チームとクラブチームを統合して、TSL（東京都シニアリーグ）が誕生しました。初年度は2ブロック構成、翌年には2部制、2007年には3部制へと拡がりました。

2024年度TSL-1の順位は右下です。チーム数

は2006年度が17チームでしたが2025年度は77チームまで拡大しました。

2006 年度	TSL-A	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	大田区シニア50	20	6	0	2	16	2	14
2	むさしのFC	18	6	2	0	10	2	8
3	エドモンズ	16	5	2	1	14	9	5
4	北区シニア50	15	5	3	0	13	9	4
5	新宿区マエストロス50	13	4	3	1	13	6	7
6	品川区シニア50	12	4	4	0	10	14	▲4
7	葛飾区壮年部50	6	2	6	0	10	11	▲1
8	YKT	4	1	6	1	2	12	▲10
9	足立区マスターズ50	1	0	7	1	5	28	▲23

2006 年度	TSL-B	勝点	勝	負	引	得点	失点	得失点
1	セレクシオントキオ	18	6	1	0	29	2	27
2	高麗SC50	16	5	1	1	17	1	16
3	豊島区シニア50	10	3	3	1	13	11	2
4	シニア03	9	2	2	3	7	9	▲2
5	世田谷区シニア50	8	2	3	2	3	10	▲7
6	渋谷区シニア50	7	2	4	1	4	15	▲11
7	ブレインズ	6	1	3	3	8	18	▲10
8	国分寺シニア	3	0	4	3	3	18	▲15

2024 年度	TSL-1	勝 点	勝 利	引 分	敗 戦	得 点	失 点	得失差
1	T-ドリームス50	23	7	2	0	14	0	14
2	四十雀クラブ東京50	19	5	4	0	12	4	8
3	FC青山オーバー・フィフティ	13	2	7	0	11	6	5
4	FC武蔵ユナイテッド50	13	3	4	2	8	6	2
5	エリース東京シニア50	12	4	0	5	9	9	0
6	東京北区シニアFC・50	12	3	3	3	11	12	▲1
7	FC BONOS50	12	3	3	3	7	8	▲1
8	三鷹蹴球団EAGLES	9	2	3	4	9	13	▲4
9	PET50	6	1	3	5	8	13	▲5
10	FC町田50	1	0	1	8	3	21	▲18

O-60

O-60の全国シニア大会は2001年に始まり、当初はグループリーグのみでしたが、2010年以降に決勝トーナメントが導入されました。

O-60は全国大会が年度初の早い時期に開催されることから、関東予選が前年度秋から冬に

かけて実施され、東京都代表の選出もその日程に併せて全国大会の1年前の秋までに決めることが求められました。

当初スタート時は選抜チームを派遣、その後前年度リーグ優勝チームを派遣する時期を経て、2018年度本大会に向けて2017年より東京都予

選会で代表チームを決定する形となりました。予選会を開催していなかった時期も2009年より春の大会としてトーナメント形式の春季大会を開催。優勝チームには関東選手権への出場権を付与し、これを2016年まで継続しました。

予選会は、当初は夏から秋にかけて開催していましたが、秋に過密日程となることや熱中症のリスクがあることから、2024年以降はO-40/O-50と同様に春開催に変更し、西が丘サッカー

2008 年度	CWL 第1回	勝 点	勝 利	引 分	敗 戦	得 点	失 点	得失差
1	四十雀クラブ東京	12	4	0	0	16	4	12
2	FC OKINA	9	3	0	1	24	6	18
3	青山キッカーズ	4	1	1	2	7	10	▲3
4	墨東60	4	1	1	2	5	8	▲3
5	YKT	0	0	0	4	2	26	▲24

2008 年度	CWL 第2回	勝 点	勝 利	引 分	敗 戦	得 点	失 点	得失差
1	FC OKINA	12	4	0	1	20	4	16
2	四十雀クラブ東京	10	3	1	1	14	2	12
3	墨東60	10	3	1	1	15	5	10
4	青山キッカーズ	6	2	0	3	6	10	▲4
5	四十雀クラブ東京B	6	2	0	3	5	12	▲7
6	YKT	0	0	0	5	0	27	▲27

これから

東京都シニアサッカー連盟は、設立当初より「環境の確保」「公式審判員の確保に基づく規律ある運営」「しっかりと運営」を三本柱として活動を重ねてきました。これらの基盤のもと、現在では年間1,000試合を超える大会を運営し、シニア世代の生きがいと健康の維持に貢献しています。

今後は、まず「安定的なグラウンド確保」を引き続きの重要な課題として掲げ、持続的な事業運営を可能とする環境整備に取り組んでいきます。学校や地域団体との連携、加盟チームの協力を得ながら、より柔軟で安定したグラウンド運営体制の確立を目指します。

また、公正な審判の割り当てに加え、プレースピードや競技レベルの向上に対応できるよう、審判の技術力と判断力のレベルアップを図ります。

場で決勝を行うようになりました。

リーグは2008年にCWL(クラウンリーグ)として発足、初年度は6チームで年に2回開催されました。2回目優勝の「FC OKINA」は現「FCマジョール」です。O-40、O-50が23区地域協会代表主導でスタートしたのは対照的に、O-60はクラブ組織のチーム主導で立ち上がった点が特徴です。

2008年の6チームから、2025年には63チームに拡大しました。

2024 年度	CWL-1	勝 点	勝 利	引 分	敗 戦	得 点	失 点	得失差
1	PET60	21	6	3	0	18	1	17
2	T DREAMS-60	19	6	1	2	23	6	17
3	渋谷区FCミドル60	17	5	2	2	17	9	8
4	FCトリプレッタ60	13	4	1	4	16	10	6
5	東京北区シニアFC60	13	4	1	4	7	12	▲5
6	FC町田 60	13	4	1	4	6	11	▲5
7	エリース東京シニア60	11	3	2	4	10	18	▲8
8	墨東BOF	8	2	2	5	5	6	▲1
9	大田区シニア60	6	1	3	5	4	13	▲9
10	セレクション・トキオ・ロボ FC	5	1	2	6	2	22	▲20

同時に、選手・審判・連盟が互いを尊重し合う「リスペクトの精神」を一層醸成し、競技者・審判・運営側が一体となって成熟したサッカー文化を築いていくことを目指します。

加盟チームの増加に伴い、サッカーへの思いや志向もますます多様化しています。連盟としては、限られたトップチームに機会を集中させるのではなく、全てのカテゴリーのチームがそれぞれの目的やレベルに応じてサッカーを楽しめるよう、公平で多様性のある運営を推進してまいります。

超高齢社会を迎える中で、サッカーは単なる競技を超え、誰もが健康的に、そして人生に張り合いをもって生きるための大切な手段となり得ます。私たち東京都シニアサッカー連盟は、こうした理念のもと、次世代に引き継がれる持続的な組織づくりを進めてまいります。

CWL グラスルーツのシニアサッカーリーグ

理想モデルを模索するCWL65リーグ

CWL65の特徴

シニアサッカーと言えば、昔は「四十雀クラブ」が代名詞で、最年長が40歳代だった時代がありました。しかし今では80歳リーグが創設されるまでに発展しています。

年代ごとに常に新しいリーグを自主的につくり上げ発展してきたのが、東京都シニアサッカーの歴史だと言えます。

CWL65リーグも2013年に創設されてから、すでに10年以上の歴史を積み重ねています。CWL65リーグは、他の年代のリーグ運営とは異なる以下のような特徴を持っています。

- ◆リーグ全体の運営は参加チーム選出の幹事を中心による自主運営の伝統
- ◆各試合の運営は参加チームによるマッチコミッショナー任命、本部運営、審判担当
- ◆その結果としての安価なリーグ戦の参加費の設定が可能
- ◆O-60あるいはO-70リーグとの二重登録が可能
- ◆65歳以上が参加条件（全国大会進出を考慮したUnderなし）
- ◆平日開催（40～60歳リーグは週末・祭日開催）と年間日程の早期確定

CWL65の構成

CWL65リーグはO-60、O-70リーグと異なり、全国大会の開催はないので東京都だけで完結します。

CWL65リーグは、CWL60リーグのチーム数

CWL65リーグ幹事長

張 寿山氏



が12となった2011年にSFL70リーグの創設とセットで構想されました。SFL70リーグが2012年度から4チームで、CWL65リーグは2013年度から7チームでスタートしました。

シニア層プレーヤーが増加する一方で、JFAや東京都サッカー協会の関心は主に青少年、一般の部に向けられており、シニアサッカーは当事者が自主的に制度をつくり、運営していくことが当然の流れでした。

当時、リーグ立ち上げの中心になった方々は、「何よりもシニアサッカーの仲間を増やすことが重要」と考え、「生涯スポーツとしてのサッカーを楽しく続ける」という目的をリーグ理念として掲げました。O-70リーグは「Soccer for Life」の頭文字を取り、SFLリーグという名前が付けられています。この目的はO-65リーグも共有しています。

参加チームの増加と体制整備の苦労

7チームで始まったCWL65リーグも2023年度には31チームとなり、さらなるチーム数の増加が予想されています。リーグ戦規模の拡大により、手弁当による自主運営の修正が必要となり、2020年度からは本部担当チームからマッチコミッショナーを出す制度を開始しました。

それまで各チームから本部要員と審判を出してもらい、リーグ幹事がマッチコミッショナーとしてトラブル対応等の全体調整を行っていましたが、試合数の増加に伴いリーグ幹事への負担が増大。一方で本部運営未経験者による不安定な運営も散見されたため、本部担当チームから運営経験が豊富なメンバーを出してもらいマッチコミッショナーとして任命することで、本部運営の質の向上と各チームにおける本部要員の育成を図りました。

また、マッチコミッショナーによる担当審判の評価とそのフィードバックを通じて、審判担当者にも緊張感を与え、審判レベルとレフェリングの安定性が向上することも期待されました。導入当初はチグハグな例もありましたが、5年の試行錯誤を経てCWL65リーグの自主運営を象徴する運営方式として定着したと自負しています。

主審については、2024年度よりCWL60リーグ同様、シニアサッカー連盟からの派遣を受け入れる方式に変更しました。2013年当時、平日(水曜日)開催における派遣審判の確保に難しさがあったことが背景にありました。

10年間続けた自主審判方式は十分機能していたものの、審判資格者が少ないチームにおける特定メンバーへの負荷の集中や、自主審判に対するリスクを欠く事例がありました。また、審判員の高齢化に伴い、シニア審判に審判機会を提供したいというニーズが発生。さらに、各チームから費用負担の増加に賛同をいただいたことから大きく舵を切りました。

CWL65リーグにはシニアプレーヤーとシニア審判、双方に活躍できる場を提供するという特徴が加わったと言えます。

さらなるリーグの発展を目指して

CWL65リーグは全国大会とつながっていないため、CWL60およびSFL70との二重登録も可能となります。これにより、CWL60で出場機会が減少する60代後半層に機会を提供すると共に、SFL70でもより多くの試合参加を望む層にも機会を創出。結果的にCWL65登録チーム数の増加につながっています。

日本社会の高齢化に伴い、定年延長あるいは定年後も働き続ける方が増え、65歳以上でも平日開催の場合に仕事の調整を必要とする方が増えてきています。

幸い、CWL65リーグは年初に年間日程を確定できており、仕事を持つ方々も計画的な休暇の取得により無理なくリーグ戦に参加できます。それぞれの職場でシニア層がサッカーの試合を理由に休暇を取ることは、日本社会・企業の働き過ぎの文化を変えていくことに良い影響を与えているのではないでしょうか。

なお、CWL65のカテゴリーも徐々に広がりを見せており、福岡、群馬、千葉等との交流が行われるようになってきました。特に福岡については2013年以来、毎年お声がけいただき、リーグ選抜チームが参加し、九州各県チームとのフレンドリーマッチを行っています。

グラスルーツ宣言の実現に向けて

JFAは2014年にグラスルーツ宣言を出しました。そこでは6つのテーマが示されています。「ずっとEnjoy♪ 引退なし」「みんなPlay! 補欠ゼロ」「だれでもJoin♪ 障がい者サッカー」「だれでもJoin♪ 女子サッカー」「どこにもHome♪ 施設の確保」「社会をSupport! 社会課題への取り組み」が、その6つです。

シニアサッカーはまさにこれらのテーマを実現する場です。もちろん、各カテゴリーで勝利を目指すところにスポーツの醍醐味はあるわけですが、CWL65の5年間は競技中心からグラスルーツスポーツとしてのサッカーへのシフトチェンジを、各人

がスムーズに行うための準備期間と言えます。

各人が生涯スポーツとしてどうサッカーと関わり続けていくのかを考える場、そして時間として、CWL65リーグが機能し続けることを願っています。



SFLリーグ(70・75・80)の発展と大会の運営 Soccer For Life:SFLリーグが導くシニアスポーツの新時代

SFLリーグ統括部長
御厨 雅宏氏



SFLリーグ事務局長
青山 哲司氏



SFL70リーグの創設

2000年の東京都シニアサッカー連盟設立に伴い、2006年に50歳以上のTSL50リーグ、2005年に40歳以上のTCL40リーグ、2008年に60歳以上のCWL60リーグが開幕し、シニアサッカー界は発展を続けました。

そして、2012年に最高齢である70歳以上の

SFL70リーグが開幕しました。SFLは「Soccer For Life」の頭文字で生涯サッカーの意味です。シニアサッカーが高齢者の「健康と生きがいの生涯スポーツ」として発展を遂げたことになります。

最高齢70歳を迎えた選手達が集まり、4つのチームを創り、リーグ戦が始まりました。サッカーの名門大学である東京大学OBの「LBクラブ」、

早稲田・慶應OBの「WKU70」、名門俱楽部の「四十雀クラブ東京」、そして北区で活動を続けてきた「AKB70(赤羽)」です。

出場した選手たちは、日頃の練習試合とは違う公式のリーグ戦という緊張感もあって、真剣なプレーを楽しみました。選手たちは皆同年代であり、かつて高校や大学でボールを蹴り合った旧友も多いため、試合後の懇親会も楽しみの一つとなりました。

その後もSFL70 の参加チームは増加し、2016年に8チームとなりました。TCL40、TSL50、CWL60も含めると、2012年の97チーム（2,266人）から2016年には135チーム（3,475人）へと、急速な発展を続けました。

CWL65リーグとSFL75リーグの創設

60歳を過ぎると年齢による体力差（10歳差）によってチーム力に差が出過ぎるという問題が顕著になってきました。そこで、2013年に中間年齢である65歳以上を対象としたCWL65リーグが創設されました。

70歳以上では体力差がさらに大きいということで、2017年にSFL75リーグが創設されました。10歳刻みから5歳刻みとなり、より少ない体力差の中でプレーをすることで、シニアサッカーをより楽しめることになりました。また、体力差による怪我等の減少にもつながり、安全なシニアサッカーとして発展を続けることになります。

ただし、SFL75の創設にも課題がありました。75歳以上の同年代の選手を約15～20人集めてチームをつくることは同じ大学や地域の中でも困難であり、個人で参加したいという選手も多く、「いかにしてチームをつくるか？」が問題となつたのです。

その問題を解決するため協議した結果、「我々は最高齢プレーヤーであり、シニアサッカーをさらに楽しむためには、過去の学校や職場や友人とのしがらみに頼らず、生涯スポーツとしてのシニアサッカーを通して、新しい仲間づくりに努力し、さらに豊かな人生を送ろう!」という意見がまとまりました。この意見に基づき、参加選手約80名をアッカーズ、ドリーム、ボーイズ、ハッピーの4チームにSFL運営本部で組分けし、リーグ戦を戦うことにしました。これにより、仲間づくりの楽しさを維持しつつ、一人でも自由にチームに加入することが可能となりました。

4チームで始まったSFL75リーグも当初の組分け混成4チームに加えて、大学やクラブの単独チームが増え、現在では10チームまで拡大しています。

SFL80リーグの創設

この流れは加速し、2023年、遂に最高齢選手が約60人集まり、3チームの80リーグ戦の創設が決定しました。海外でもシニアサッカーを楽しむ選手はいますが、東京都シニアサッカー連盟主管の公式の80歳リーグ戦の開催は世界初の試みでした。

そこで連盟（SFL）として、「安全、安心の環境づくり」を基軸として、周到な準備を進めるために、2022年度はプレ・リーグ戦大会として開催し、2023年度の本大会開催に向け準備を進めることにしました。この準備を受け、2023年度から世界初の80歳公式リーグ戦を始めることができました。

2024年度時点で東京都シニアサッカー連盟に登録されている40～80リーグのチームと選手数は、合計267チーム、約6,000人となりました。連

盟には、シニア以外に、大学・高校・ジュニア・社会人・クラブ・女子等のチームと選手が登録されていますが、これらと比べるとシニアサッカーが最大の伸び率を誇っています。

シニアサッカーの発展には、適切な選手やチームの登録管理と大会の運営管理、そして確実な実行力が必要です。

2000年の連盟創設期に苦労された曹明委員長（現顧問）、小倉功氏（現顧問）が掲げた「1. 正式なグラウンドの提供」「2. 公式審判員の派遣」「3. きっちりした管理」に基づいて、継続的かつ組織的に運営管理を行っていくことが今後も重要です。

安全安心の環境づくりと 堅実な運営体制

チームや選手の増加により試合数が増加し、それぞれの試合の競技や運営レベルも上がってきています。連盟の運営本部も「安全安心の環境づくり」を基軸として、堅実な運営を推進するために、各運営の役割担当を決めて、組織化して、さらなるレベルアップに努めています。

審判体制の整備とフェアプレー

審判体制の整備として、運営本部内に審判部を創設しました。試合では、公式審判資格者を主副審判員にしてレベルアップに努めています。審判部の審判員は、各チームの審判有資格者から選定され、勉強会や研修会を開催し、常に質の高い試合の内容を目指し努力を続けています。

また、高齢者のシニアサッカーは、マナーやスポーツマンシップ、リスペクト面のプレーや行動において、お手本となる試合をしなければなりません。審判部、運営本部、選手が三者一体となっ

て、常にマナーとリスペクトの精神を發揮して、安全安心に留意し堅実に運営をしています。

試合の運営や準備は全員参加

試合を開催するにあたっては、さまざま運搬作業等（ゴール/ベンチ/椅子/本部席机・椅子運び、ネット/テント張り、審判、本部記録、担架・救急用具等）が伴います。そのため、各選手、本部員などによる全員参画の精神で円滑な試合運営を心がけています。

特に、80リーグの試合準備は、70リーグと同日に開催し、これらの作業は70リーグの選手が中心になって支援と協力をしています。

確実な情報連絡網

チームと選手数が多い中、気象情報の伝達などを迅速に行うため、緊急連絡網の整備が重要となります。SFLリーグは高齢者が多いことから、感染症や熱中症等の健康面の対応や台風、雷雨、強雨等の対応については、試合開催の可否の早期判断も含めて、試合前日までに確実に情報が伝わるよう、各チームとの連絡網を確立しています。

緊急時の怪我や体調変化に対応

運営スタッフは定期的にCPR、AEDの講習を受け、緊急対応できる体制を整えています。また、プレー中に体調が悪化したときのために、必要な医学情報（緊急連絡TEL、血液型、持病や常用薬、緊急連絡先等）が記載された緊急連絡カードを全選手が保持することを義務付けています。

医師免許を持っている選手には、緊急医療班のリーダーとして、プレー時の怪我の応急措置や救急車到着までの医学的な応急指導を担当して

もらっています。

女子選手に対する対応

現在、シニアサッカーの登録条件に性別要件はありません。男子の年齢制限からマイナス10歳(SFL70リーグの場合は60歳以上)であれば、女子選手は参加可能です。

2024年度では11名の女子選手が登録し活躍しています。今後も、増加が予測されますが、サッカー場における設備(着替室、シャワー室等)の問題や体力差による怪我の心配もあり、改善に向け、さまざまな対策が検討されています。

85歳リーグ発足の可能性

今後、シニアサッカー人口は男女含めて増加していきます。そこで、現在のサッカー競技形式や規則等で良いのか、シニアサッカー競技の内容についても検討が必要になってきています。

近い将来、85歳リーグの発足や女子選手のみのチームの参加等を予測すると、8人制やハーフコート形式、フットサルやウォーキングサッカーの導入なども考えられます。東京都サッカー協会や他のサッカー連盟とも連携し、東京都のシニアサッ

カーチの普及と発展をさらに推進していきたいと思います。

明るく元気に生涯サッカーを！

高齢者の“元気な健康対策”として「スポーツに親しむ！」が掲げられています。SFLリーグ登録選手は、「生涯スポーツ」としてサッカーを日常の健康スポーツとして取り入れており、その数はますます増加しています。

世界初の80歳リーグでは、海外も含めてマスコミが多数取材に訪れました。その中で、イギリスのBBCが次のように放送しています。

「イギリスやヨーロッパは、これから高齢化社会を迎える。高齢化が進む日本では、世界のスポーツであるサッカーの『公式80歳リーグ戦』が始まり、生涯サッカーを楽しんでいる。素晴らしい！我々も今後の高齢化社会に向けて、生涯スポーツをさらに進展させなくてはならない」

このように海外で放送されるのは、我々シニアサッカー選手にとって、実に誇らしいことです。東京都シニアサッカー連盟として、今後も「生涯サッカー」、明るく楽しい、健康シニアサッカーの発展と普及にさらなる努力を重ねていきます。

SFL80リーグ戦の運営

SFL80

SFL80リーグ幹事長

伊藤 優氏



本部運営委員左から 波頭 次郎氏、中山 登氏、伊藤 優氏、有田 稔氏、中山 誠氏

SFL80リーグの発足

SFL80リーグは、2022年の1年間の準備期間（プレ大会開催）を経て、2023年4月12日、東京都サッカー協会の林元会長、東京都シニアサッカー連盟の佐藤也寸志元委員長をお迎えして正式に開幕しました。

当初、参加人数は何人集まるか心配されましたが、総勢63名（3チーム）の参加をいただき、スタートすることができました。これもひとえにシニアサッカーに携わってこられた皆様方の努力とご支援の賜物と、改めてお礼申し上げます。お陰様で試合が始まると、「これが本当に80歳以上のサッカーか？」と思われるほど、白熱したゲーム運びで75リーグにも負けない試合内容を展開しています。

90歳リーグの誕生も夢ではない！

世界で初の80歳以上のリーグ戦は、現在も日本含めて各国のマスメディアが多数取材に訪れています。選手の皆さんも取材や撮影のおかげで、いつも以上

に張り切ってプレーをしています。

参加された選手は、ほとんど60～70リーグの経験者であり、当初、この80リーグが人生最後のリーグ戦と思われて参加していましたが、それがどうでしょう！「生涯スポーツとしてのサッカー」を楽しむという想いが生活になってきました。

もしかすると85、90歳リーグの誕生も夢ではなくなってくるかもしれません。後に続く70、75リーグの選手たちの良きお手本、憧れとなるよう、どうか80リーグの皆様！元気で生涯サッカーを続けられることを心から願っております。

«SFL80リーグの参加人数と出席率、成績»

	2022年度プレ大会	2023年度開幕	2024年度
選手登録数	64名	60名	61名
平均出席率	60.24%	63.33%	60.78%
優勝	ブルーハワイ	レッドスター	ブルーハワイ
準優勝	ホワイトペア	ホワイトペア	レッドスター
第3位	レッドスター	ブルーハワイ	ホワイトペア

SFL75リーグ戦の運営

SFL75

SFL75リーグ幹事長

角皆 茂樹氏



本部運営委員左から 山辺 福二郎氏、中山 登氏、英 不二男氏

SFL75とは？

SFL75は、“過去の学校や地域のしがらみに頼らず、生涯スポーツとしてのサッカーを楽しむために新しい仲間づくり”を目的に2017年に設立されました。混成チームのアタッカーズ、ドリーム、ボーイズ、ハッピーのチームに参加選手を組分けし創設されました

が、その後、登録チームが増加し、単独の仲間チームも加わり、2024年度は、従来の混成4チームと単独チーム6チームの合計10チームとなりました。

2025年度は、単独チームがさらに3チーム増えました。その一方で、混成チームのメンバーが単独チームに多く移動したため、混成チームはアタッカーズと

ドリーム、ボーズとハッピーがそれぞれ統合され2チームとなり、合計で11チーム（混成2+単独8）となりました。

SFL75の課題とこれから

“新しい仲間づくり”として始まった混成チームですが、SFL70の単独チームのメンバーが年を重ね、75歳となると自然な成り行きでO-75のチームをつくるため、単独チームの増加はやむを得ないのが現状です。

しかし、7年間の混成チームの活動は、“新しい仲

間づくり”の面では成功し、SFL75リーグ全体での友好と親睦に役立っています。さまざまな面で生涯サッカーの楽しみをより大きくすることができ、リーグ戦の活性化にもつながっています。

SFL75の選手たちには、SFL80のリーグ戦を楽しんでいる80歳以上の選手を見ながら生涯サッカーを続けることを願っています。

この要望と発展を継続するためにも、“安全、安心の環境づくり”と堅実な運営を今後も心がけていきたいと思います。

SFL70・75・80リーグ戦の大会要領

SFLリーグ戦はカテゴリー別に、出場チーム総当たり1回戦で1年間を通して、優勝・準優勝をかけて戦います。リーグ戦の大会要領は下記となります。

① 目的：生涯スポーツとしてサッカーを楽しむ！

*会員の健康維持と親睦を図り、豊かなスポーツ人生を楽しむと共にシニアサッカーの発展と普及に寄与する。

② 参加資格

*70リーグ：男性 リーグ開催年度内に70歳以上、女性 同 60歳以上

*75リーグ：男性 リーグ開催年度内に75歳以上、女性 同 65歳以上

*80リーグ：男性 リーグ開催年度内に80歳以上、女性 同 70歳以上

③ 選手／チーム登録

*70・75リーグ：JFAおよび東京都シニアサッカー連盟に選手およびチーム登録が必要

*80リーグ：上記の登録がない者でも当面出場可能

④ リーグ戦の勝点及び順位決定

*勝利3点、引き分け1点、負け0点

*順位決定は、勝点・得失点差・総得点・直接対決勝負・抽選の順に決定

*70リーグ：1部リーグ下位2チームは2部A・Bグループに降格、2部Aおよび2部Bの1位チームは、1部に昇格。

⑤ 競技方法・最低出場選手数

*70・75リーグ：試合時間20分ハーフ（40分）

・出場選手7人／チーム以上で試合成立、不戦敗は0-3の負け

*80リーグ：試合時間12.5分ハーフ（25分）

・出場選手9人／チーム以上で試合成立、不戦敗は0-3の負け

⑥ 競技ルール、特別ルール

*JFA競技規則に準じる。退場者は次節出場禁止、警告累積2枚で次節出場禁止

*80リーグ特別ルール：過度のショルダーチャージ、スライディングタックル反則とし、直接フリーキックとする。また、試合ユニフォームのパンツは、80歳以上は金色、85歳以上は紫色が望ましい。

*試合本部に交代登録後、主審の了解を得て隨時何回でも交代可能

*相手に怪我をさせない、リスペクト精神を持ってプレー、審判への異議は禁止

⑦ 使用ボール

*5号球・380g軽量級（JAF公認球）

⑧ 試合担当審判

*主審・副審（審判有資格者）は、SFL審判部から派遣、第4審判は試合本部担当

⑨ その他

*選手は、スポーツ障害安全保険に加入、緊急連絡カードの持参義務

*熱中症、雷雨、台風等の悪天候時予想時は、SFL運営本部が試合の開催可否を判断して、試合前日までに各チームに連絡する

SFL70リーグ戦の運営

SFL70

SFL70リーグ幹事長
竹嶋 明彦氏



本部運営委員
左から
近見 竹彦氏、
松原 真人氏、
森田 明夫氏

ますますレベルアップするSFL70

2012年にSFL70リーグは創設されました。その後、登録チームが増加し、2024年度の参加登録チームは21チームまで拡大しました。

大幅な増加となったため、2024年度から年間リーグ戦を2部制として、1部10チーム、2部11チームとして、リーグ戦を開始しました。2025年度にはさらに6チーム増え、計26チーム（1部10チーム、2部Aグループ8チーム、2部Bグループ8チーム）となりました。

ますます元気な優れた選手やチームが増加し、試合内容もレベルアップしています。

都代表や日本一を目指とするチームが増加

2022年度からO-70の日本チャンピオンチームを決める全日本シニアサッカー大会（JFA主催）が開催されることになり、東京都代表を決めるための東京都予選大会も始まりました。

従来の東京都代表チームは、年間リーグ戦のチャンピオンチームが出場していましたが、2024年度からはリーグ戦とは別の予選トーナメント大会を開催し、東京都代表チームを決定することになりました。

最近のO-70の選手達は、健康で”良く走り、良く蹴

る熟練技能選手”が増え、東京都代表や日本一を目指とするチームも増加しています。連盟としても、JFA主催の日本一を決める全日本シニアサッカーO-70大会が開催されたことにより、東京都代表チームが日本チャンピオンになるための全面的な支援をしていきたいと思っています。

今までの”楽しむサッカー”の選手やチームに加えて、”勝利を目指す競技サッカー”的選手やチーム増加により、今後もシニアサッカーの普及と発展が続いていくと思われます。

東京都シニアサッカー連盟を代表するチームが日本チャンピオンに輝くことを祈念すると共に、ますますの発展のために努力をしていきたいと思います。

皆様からのご協力とご支援をよろしくお願いします。



本部運営委員 左から
岡垣 良則氏、田中 篤夫氏、渡辺 正博氏、諸田 恒弘氏

SFLリーグ審判部の運営

SFL審判部長
笹谷 俊水氏



SFL顧問(元審判部長) SFL審判部事務長
伊藤 朝男氏 松原 真人氏

SFLリーグ審判部の経緯と現状

2012年にSFL70リーグが創設されましたが、審判部がなかったため、試合チームから審判担当を出す

相互審判でスタートしました。

以降3年間は審判を希望するボランティア選手が審判を担当しましたが、チーム数が増え、試合数も増大

したこと、審判判断に対する不平不満の抗議による試合の質の低下が目立ったことなど課題が多くありました。

そこで、2016年にSFLリーグ審判部を創設。主・副審（主審は審判資格保有者）を審判部からの派遣と共に、審判の質の向上のための審判講習会の開催や審判インストラクターによる講習等を行いました。そして、2022年度以降は副審も各チームの審判資格保有者に変更しました。

以上のような経緯で、現在のSFL70・75・80の試合審判（主審、副審）は審判資格保有者に限定して担当しており、主審担当はJFA3級審判15名で構成されています。

審判は、試合全体の舵取り役であり船長であるとも言われています。SFLリーグ設立以来、審判部はJFA審判委員会のミッション（使命・任務）のもと、試合中プレーの的確な判断とフェアプレーの実践、そして、リスペクト精神の実践等レベルアップに努めてきました。

■JFA審判委員会ミッション

全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめるように、審判員の育成と競技規則とその精神の理解・浸透を行う。

審判部の今後の課題

審判部では以下の5点を今後の課題として捉えています。審判部としてこれらの課題を解決し、今後も連盟全体でシニアサッカーの発展のために努力を続けていきます。

■審判部の課題

- ① 担当審判員のスキルアップ（アドバイザー制度、定期的意見交換）
- ② さらなるチーム増加による担当審判員の増員
- ③ 悪質プレー等警告履歴管理の質的向上（本部記録様式見直し、年間警告実態把握）
- ④ SFLリーグ固有の競技規則の判断と安全管理
- ⑤ 高齢者特有の安全上の規則（過度のショルダーチャージ、スライディングタックルは反則等）の統一的な審判判断および他の安全上の規則の検討

【SFL審判部審判員（JAF公式審判資格3級）】



左から 小川聰志氏、松下兼幸氏、大多和求氏、竹嶋明彦氏、渡辺知行氏、小松茂明氏、長澤正氏



左から 吉川誠氏、及川喜美男氏、山下英治氏、井上一真氏、伊藤茂氏、菊池史郎氏／(写真無し) 神田明氏、守屋俊秀氏



SFLリーグ審判講習会



SFL70・75・80の 「安全・安心の環境づくり」と 「フェアプレーとリスペクト精神の発揮」を 目指す審判講習会



審判講習会の意義

連盟の最高齢者グループであるSFLリーグの試合は、常に安全・安心の環境のもと、フェアプレーとリスペクトの精神に満ちていなければなりません。手本・規範となる試合を実現するため、試合をコントロールする審判団（主審、副審、本部委員）には優れた裁量が必要となります。

連盟では、そのために審判部を組織化。審判部長のもと、審判資格保有者（JFA 3～4級）を登録選手の中から集めて、有資格審判員による全試合の開催を目指しています。

審判講習会の内容

審判講習会は定期的に開催されています。2025年は、駒沢補助競技場の会議室にて、審判講習会を実施しました。

有資格審判員で年間の試合数を安定して開催するには人員の強化が不可欠です。主審担当に関しては問題ないものの、副審（線審）まで含めると人員に課

題が生じます。

その課題を解決するため、副審講習会を実施。受講者に対しては、SFL運営本部が「有資格者と同等」と判断し、独自にSFLリーグ副審許可証を発行しています。

2025年の講習会では、旗（フラッグ）の持ち方や上げ方、基本ルールからオフサイドの判定、ルール変更や審判用服装、ボールのインとアウトの判断等、基本的なことから応用編まで約2時間にわたって講義が行われました。受講者からは試合における疑問点などの多くの質問があり、講師はそれらの質問に対して明確に回答。好評のうちに講習会を終えることができました。



審判講習会講師：大多和求審判委員

安全・安心の環境創り

CPR(心肺蘇生)・AED講習会の実施



CPR・AED練習用人形

■AED(Automated External Defibrillator:

自動体外式除細動器)とは?

心肺停止(心室細動)で全身に血液を送れないとき、電気ショックを与え正常な機能を回復させる装置です。救急車が到着するまでの間にAEDを使って素早く適切な処置を行うことで、助かる可能性を上げることができます。



CPR・AED講習会の開催

SFL運営本部では、高齢者リーグSFL70・75・80の「安全・安心の環境創り」の一環として、運営本部委員および希望選手を対象に2~3年ごとに地域の消防署に依頼し、「人工呼吸とAEDの講習会」を開催しています。この講習を受けると東京消防庁より、「救命技能認定証(認定有効期間3年間)」が授与されます。

本年は、駒沢オリンピック公園陸上競技場内の会議室を借りて、約20名が参加して講習会を実施しました。

救急救命対応の大切さ

競技中に頭や心臓に異変が起こり心肺停止状態になったとき、救急車が到着するまでの間に人工呼吸とAED装置を使って救命措置をとることが必要となります。

試合を運営・記録しているSLF本部委員は「救命技

能認定証」を取得しており、救急救命対応を行うことができます。実例として、3年前、心房細動が原因で心肺停止となった選手が救急救命処置により助かったことがあります。

選手の中には医師免許保持者もいます。その選手は本部救急班のリーダーとして登録しており、救急医療が必要な場合は、その選手の指示のもと本部委員が対応を行います。

また、SFL70・75・80に登録している選手は全員、救急事故時に必要な情報を記入した「緊急連絡カード」(名前・生年月日・住所・緊急連絡先・血液型・持病・常用薬等)の携帯が義務付けられています。



人工呼吸人形で練習中

ピッチを支えるもうひとつの力

—女子レフェリー座談会

近年、女子アクティブ審判員の活躍が注目されており、連盟においても10名弱の方にご協力いただいています。女子アクティブ審判員は日本のトップリーグ(Jリーグ)でも積極的に採用されています。この動きにならい、性別の分け隔てなく、実力のある女子アクティブ審判員の採用を進めています。

本企画では、連盟で活躍する女子レフェリーの皆様にお集まりいただき、率直な思いや体験を語っていただきました。和やかな雰囲気の中で繰り広げられた座談会から、その一部を抜粋してご紹介します。



シニアサッカー参加のきっかけ

多くの方が「前部長に声をかけてもらったこと」がきっかけだったと口を揃えます。最初は自信がなくとも、「大丈夫だから来てみなさい」というひと言で背中を押され、シニアの世界に足を踏み入れました。

「少年や女子の試合とは違う雰囲気に驚いた」「最初は緊張したが、仲間に迎え入れてもらえた」など、それぞれが新しい挑戦として受け止めています。

シニアの試合で感じたこと

シニアの試合は、40代・50代・60代とカテゴリーごとに分かれていますが、どの世代も「熱さ」が共通しています。

プレー中は厳しい言葉が飛び交っても、試合後は肩を叩き合い笑顔で称え合う。その独特的な空気感に感銘を受けたという声が多くありました。

「罵声かと思えば実は信頼の裏返し。終われば互いを称え合う」

そんなシニアならではの“絆”を感じる場面が多いと語られました。

選手から学ぶこと

印象的だったのは、選手自身からの言葉です。「40代から50代に上がる2年間が一番輝ける

時間だ」と語る選手に触れ、年齢を重ねることの前向きさを学んだというエピソードが紹介されました。

また、判定に対して厳しい意見が出ても「次につながるように」と優しく教えてくれる選手が多く、レフェリーにとって成長の機会になっているとのことでした。

仲間としての喜び

女子レフェリーが増えることで、多様な視点や雰囲気が連盟にもたらされていることを、参加者全員が実感しています。

「最初はメンタルを鍛え直さなきゃと思ったけれど、実際はリスペクトの中で安心して学べた」

「一緒にフィールドに立つことが楽しく、次のシーズンも続けたい」

こうした声からは、仲間として迎え入れられた喜びと、これからへの意欲がじみ出していました。

まとめ

今回の座談会を通じて浮かび上がったのは、女子レフェリーが担う役割の大きさと、その存在がシニア連盟に新たな活力をもたらしているという事実です。

25周年という節目に、彼女たちの率直な言葉を残せたことは大きな財産となることでしょう。

言葉を越えたサッカーのつながりと 元国家代表との真剣勝負

東アジアシニアサッカー大会

東京都シニアサッカー連盟では、国内にとどまらず、サッカーを通じて世代と文化を超えた交流を行っています。2014年から始まった「東アジアシニアサッカー大会」は、そうした取り組みを象徴するもの。東アジアシニアサッカー大会が始まった経緯や交流の様子、参加チーム、これまでの戦績などをご紹介します。



■ はじめに

「シニア世代の国際大会」と聞くと、和やかな友好ムードにあふれた交流試合を思い浮かべる人も多いかもしれません。

しかし、東アジアシニアサッカー大会は和やかさだけではありません。歓迎レセプションでは笑顔と歓談があふれますが、ひとたびピッチに立てば現役ながらの激しい真剣勝負が繰り広げられます。韓国ソウル市や中国の参加各都市の代表チームには、元国家代表のレジェンドたちが数多く名を連ね、そのプレーはこの年代のトップレベルであり、東京代表の選手たちは彼らとの試合を通じて大きな刺激と学びを得てきました。そして試合が終われば握手を交わし、健闘を称え合い、一体となって記念写真を撮り、言葉を越えたサッカーのつながりを実感します。

東京代表の選手たちは、仕事や家庭の時間をやりくりしながら、参加費の自己負担も捻出して大会に参加します。それでも「出場すれば得難い経験と大きな満足感がある」「また次も出たい」と口をそろえます。

国際舞台での普段は得難い経験が、日々のトレーニングやリーグ戦のモチベーションになっています。

一方で、運営側にとっても大会の継続は容易ではありませんでした。会場の急な変更や経済悪化による参加都市の離脱、試合でヒートアップしての乱闘騒動に、政治的混乱による渡航懸念など、幾度も社会情勢や経済、政治環境の変化に翻弄されてきました。

各都市のシニアサッカーの成り立ちや向き合い方も異なる中で、これらの事態解決に向けて合意を形成し、ベクトルを合わせることは苦労の連続でしたが、「大会を続けることに大きな意義がある」との思いを共有して、関係者が力を合わせて乗り越えてきました。

このように、この大会は選手にとって、少なくない負担を負いながらも、意義ある経験を得る機会と言えますが、運営側としても、困難に向き合いながら、大会を維持発展させ、その価値を高め続けるというチャレンジの場でもありました。

■ 目的と概要

この大会は、東京都・ソウル市・中国都市代表（初期は広州、2023年からは上海）による国際交流を目的として、当連盟の提唱により2014年に誕生しました。

その前史は2010年、東京のリーグ優勝チームとソウル代表による定期戦にさかのぼります。そこに東京が中国の参加を呼びかけたことで広州が応じ、2014年12月、赤羽スポーツの森公園で第1回大会が開催。以来、東京のシニア世代にとって「東京制覇の先にある新たな目標」として定着してきました。

曹明初代委員長は大会創設にあたり「かつてシニアの目標は全国大会出場だったが、国際大会に出たいという新たなモチベーションが生まれた」「最大の目的は、サッカーを通じた国際交流で仲良くなること」と語りました。初回大会を視察した田嶋幸三氏（当時JFA副会長）は「シニアでもみんな本当によく走っている」

と感嘆の言葉を残しました。

今後も各都市のレジェンドを相手とする国際経験の貴重な機会として、さらには、言葉と国境を越えたサッカーのつながりで相互の理解を深め、各都市のシニアサッカーのさらなる発展につなげていくことが期待されます。

東アジアシニアサッカー大会の歩み

- ・3都市での持ち回り開催
- ・当初はO-40/O-50の2カテゴリー。
各都市1チームずつの総当たり戦。
- ・2019年（ソウル開催）から開催都市2チーム出場に。
- ・同年より東京・ソウルO-60交流戦、2023年にはO-70交流戦がスタート。
- ・コロナで3年間の中止を経て、2023年東京大会で再開。広州市は経済的事情で参加辞退、新たに上海市が参画し大会は存続。
- ・2024年当初は上海開催の予定が準備不足により急遽ソウル開催に変更

■ 東京代表

2014年から2016年はリーグ順位を基準に選出、2016年より全国大会東京都予選会を基準に代表チームを選出、人数が不足する場合はリーグ選抜や合同チームでの参加実績があります。

ソウルと中国のレジェンドチームの壁を乗り越えるのは容易ではなく、善戦しながらもO-40は連続で3位、O-50も2位あるいは3位とどちらも優勝の実績があ

りません。一方で東京ソウルの交流戦参加のO-60、O-70では、2019年ソウル開催においてO-60東京選抜が「ロイヤルFC60」に、2024年ソウル開催でもO-70「Super Infinito」が「ロイヤルFC70」に圧勝するなど好成績を収めてきました。

（追記：2025年上海大会では東京はO-50優勝、O-40、O-60で2位と好成績を収めました。）

回数	年	開催地	O-40		O-50		O-60(東京ソウル交流戦)	O-70(東京ソウル交流)
第1回	2014年	東京	Tドリームス	3位	セレクション・トキオ	2位		
第2回	2015年	広州	TCL選抜	3位	セレクション・トキオ	2位		
第3回	2016年	ソウル	Tドリームス	3位	東京ベイFC O-50	2位		
第4回	2017年	東京	FC青山オーバーフォーティ	3位	東京ベイFC O-50	2位		
第5回	2018年	広州	Tドリームス	3位	MITAKA EAGLES	3位		
第6回	2019年	ソウル	FC青山オーバーフォーティ	3位	武藏四十雀東京連合	3位	CWL選抜	勝
	2020年		コロナウイルスの影響により中止					
	2021年		コロナウイルスの影響により中止					
	2022年		コロナウイルスの影響により中止					
第7回	2023年	東京	C.A.REAL TOKYO40	1敗	FC武蔵ユナイテッド50	引分	PET60	Super Innito
			HTK Albiceleste	1分1敗	FC青山オーパー・フィフティ	勝	T-DREAMS60	墨東70
第8回	2024年	ソウル	エリース東京シニア40	3位	TSL選抜	3位	FCトリプレッタ60	2敗
第9回	2025年	上海	エリース東京シニア40	2位	四十雀クラブ東京50	優勝	東京ベイFC O-60	2位
							墨東70	2敗

東アジアシニアサッカー大会

■ 2014年 第1回東京



東京選手団

■ 2015年 第2回広州



東京とソウルの選手団

■ 2017年 第4回東京



試合前O-40、O-50三都市チーム代表集合



閉幕式での三都市選手団



歓迎レセプションでの初代曹明委員長の挨拶



歓迎レセプションでのプレゼント交換
広州から東京へ



歓迎レセプションでのプレゼント交換
東京からソウルへ

■ 2019年 第6回ソウル



東京選手団レセプションにて



O-50 武藏四十雀東京連合

■ 2023年 第7回東京 東京代表チーム



O-40 HTK Albiceleste



O-40 C.A.REAL TOKYO40



O-50 FC武藏ユナイテッド50



O-50 FC青山オーバー・フィフティ



O-60 PET60



O-60 T-DREAMS60



O-70 Super Infinito



O-70 墨東70



レセプション会場



金田JFAシニアサッカーアンバサダー挨拶



佐藤前委員長挨拶

■ 2024年 第8回ソウル



O40、O50 東京とソウルの選手団



O-60 東京とソウルの選手団



O-70 東京とソウルの選手団

東アジアシニアサッカー大会

■ 対戦チーム

対戦したソウル、広州、上海の各チームは、東京代表のように大会の優勝チームが代表として参加する形態とは異なり、レジェンド選手が数多く所属する各都市の名門チームが参加してきました。

ソウル市代表

ロイヤルFC(O-40、O-50、O-60、O-70)

韓国のシニアサッカークラブで、かつて韓国サッカーワールドを牽引した元代表選手や指導者が中心となり、「年齢を重ねてもサッカーを楽しみ続ける」ことを目的に発足した伝統あるチームです。設立時から韓国サッカー協会関係者がサポートし、シニアサッカーの発展と健康増進を目指すクラブとして活動を展開しています。設立背景には韓国サッカー黄金期を支えたレジェンドたちの存在があります。

団長は元ソウル市サッカー協会会長の崔在益氏で、設立以来チームを牽引、韓国サッカー協会OB、ソウル市サッカー協会関係者などが組織を支えています。李会沢氏、金鎮國氏、金在漢氏、金黄虎氏など、往年の元韓国代表経験者が多数参加しています。

Seoul-FC applerind(40's、50's)

Applerindという韓国のスポーツアパレルブランドに関連するソウルを拠点とするシニアサッカークラブ。元韓国代表の李乙容氏など経験豊富なベテラン選手が名を連ねています。



ロイヤルFC60



ロイヤルFC70



Seoul-FC applerind (40's, 50's)

広州市代表

広州歳月名星足球隊 (O-40)

広州歳月明星足球隊は、1990年代の中国のトップリーグであった旧甲Aリーグ時代に活躍した広州太陽神足球隊の元スター選手や、その他引退選手たちを集めて結成された「レジェンド・スターチーム」です。彭^{ペン}偉國氏など、旧甲A世代のスター選手が参加しています。このチームは以下に記した「全国甲A明星サッカーリーグ」に参戦しています。



広州歳月名星足球隊 (O-40)

■全国甲A明星サッカーリーグ(通称：老甲A賽)とは

2012年に、広州の彭偉國氏や上海の范志毅氏ら、かつての旧甲Aリーグ時代のレジェンドが発起人となり、引退した名選手たちを集めた大会「全国甲A明星サッカーリーグ(通称：老甲A賽)」がスタートしました。その後2019年まで全国各地で8回開催され、コロナでの中断を経て2023年には「中国レジェンドサッカースターリーグ」として再編。旧甲A時代のスターたちによる全国規模の引退選手の大会として復活しました。

同大会は、上位のスーパーグループと下位のチャンピオン・グループの2部制を採用し、「昇降級制度」も導入されています。

広州634足球隊 (O-50)

広州634足球隊は、1970年代に広州市体育職業技術学院サッカー専攻の1963・1964年組出身選手を基盤として2013年に結成されたクラブです。チーム名の「634」はこの63年組・64年組に由来しておりチームメンバーは各分野で活躍するリーダーやスポーツ界の名士が集っています。チームは結成当初から「中国サッカーのレジェンド」級の選手を多く擁しています。



広州634足球隊 (O-50)

上海市代表

上海甲A明星足球俱楽部 (O-40)

上海甲A明星足球俱楽部も、旧甲Aリーグ時代に活躍した選手たちによって各地に結成された「レジェンド・スターチーム」のうち、上海を拠点とするチームです。メンバーは元中国代表主将でアジア最優秀選手の范志毅氏^{ファン・ジイイ}、さらには孫吉氏^{ソン・ジー}など、多くの元国家代表選手が在籍しています。このチームも全国甲A明星サッカーリーグに参戦しています。



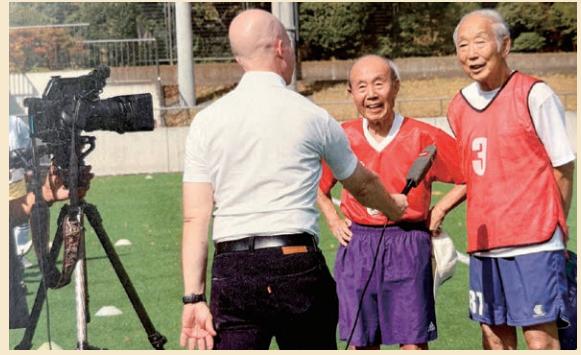
上海甲A明星足球俱楽部 (O-40)

東アジアシニアサッカー大会

大会結果

回数	年	開催地	会場	カテゴリー	順位	都市	チーム	戦績	勝点	得点	失点	得失点
第1回	2014年	東京	赤羽スポーツの森公園	O-40	優勝	ソウル	ROYAL FC40	1勝1分	4	4	3	+1
					準優勝	広州	広州歳名月足球隊	1勝1敗	3	4	2	+2
					3位	東京	Tドリームス	1分1敗	3	6	3	▲3
				O-50	優勝	広州	広州634足球隊	1勝1敗	3	4	2	+3
					準優勝	東京	セレクシオンオントキオ	1勝1敗	3	3	3	±0
					3位	ソウル	ROYAL FC 50	1勝1敗	3	4	6	▲2
第2回	2015年	広州	燕子崗体育場	O-40	優勝	広州	広州 名月足球隊	2勝	6	4	1	+3
					準優勝	ソウル	ROYAL FC40	1勝1敗	3	5	2	+3
					3位	東京	東京リーグ選抜40	2敗	0	0	6	▲6
			越秀山体育場	O-50	優勝	ソウル	ROYAL FC50	1勝1分	4	4	3	+1
					準優勝	東京	セレクシオンオントキオ	1勝1敗	3	3	2	+1
					3位	広州	広州634足球隊	1分1敗	0	2	4	▲2
第3回	2016年	ソウル 坡州市	韓国ナショナルTC	O-40	優勝	ソウル	ROYAL FC40	2勝	6	5	2	+4
					準優勝	広州	広州 名月足球隊	1分1敗	1	2	4	▲2
					3位	東京	Tドリームス	1分1敗	1	1	3	▲2
			O-50	O-50	優勝	ソウル	ROYAL FC50	1勝1分	6	5	3	+2
					準優勝	東京	東京 150	1勝1敗	3	3	3	+0
					3位	広州	広州634足球隊	1分1敗	1	2	4	▲2
第4回	2017年	東京	味の素フィールド 西が丘	O-40	優勝	広州	広州 名月足球隊	1勝1分	4	2	1	+1
					準優勝	ソウル	ROYAL FC40	1勝1分	4	1	0	+1
					3位	東京	FC青山オーバーフォーティ	2敗	0	1	3	▲2
			赤羽スポーツの森公園	O-50	優勝	広州	広州634足球隊	2勝6	6	3	3	+3
					準優勝	東京	東京 150	1勝1敗	3	5	5	+0
					3位	ソウル	ROYAL FC50	2敗	0	3	6	▲3
第5回	2018年	広州	燕子崗体育場	O-40	優勝	—	—	—	—	—	—	—
					準優勝	—	—	—	—	—	—	—
					3位	東京	Tドリームス	2敗	0	—	—	—
			越秀山体育場	O-50	優勝	—	—	—	—	—	—	—
					準優勝	—	—	—	—	—	—	—
					3位	東京	MITAKA EAGLES	2敗	0	1	6	▲5
第6回	2019年	ソウル 龍仁市	仁市サッカーセンター	O-40	優勝	ソウルB	Seoul-FC applerind 40's	2勝1分	4	15	4	+11
					準優勝	広州	広州歳名月足球隊	2勝1分	4	3	1	+2
					3位	東京	FC青山オーバーフォーティ	1勝2敗	3	7	6	+1
					4位	ソウル	ROYAL FC40	3敗	0	3	17	▲14
				O-50	優勝	ソウルA	ROYAL FC50	2勝1分	4	8	2	+6
					準優勝	広州	広州634足球隊	2勝1分	4	5	0	+5
					3位	東京	武藏四十雀東京連合	1勝2敗	3	3	5	▲2
					4位	ソウルB	Seoul Selection	3敗	0	0	9	▲9
				O-60	1位	東京	東京リーグ選抜60	2勝1分	7	10	1	+9
					2位	ソウル	ROYAL FC60	1分2敗	1	1	10	▲9
	2020年							コロナウイルスの影響により中止				
	2021年							コロナウイルスの影響により中止				
	2022年							コロナウイルスの影響により中止				
第7回	2023年	東京	駒沢第二球技場	O-40	優勝	上海	上海老甲A明星足球俱部	3勝		9	0	+9
					東京B	C.A.REAL TOKYO 40	1分1敗		2	3		▲1
					ソウル	Seoul-FC applerind 40's	1分1敗		2	7		▲5
					東京A	HTK Albiceleste	1敗		0	3		▲3
				O-50	優勝	東京B	FC青山オーバーフィティ	2勝		4	1	+3
					準優勝	東京A	FC武藏ユナイテッド50	2分		2	2	+0
					3位	ソウル	Seoul-FC applerind 50's	2分2敗		3	6	▲3
				O-60	優勝	ソウル	ROYAL FC60	4勝		14	3	+11
					東京A	PET60	2敗		2	6		▲4
					東京B	T-DREAMS60	2敗		1	8		▲7
				O-70	優勝	ソウル	ROYAL FC70	2勝1分		7	3	+4
					東京A	Super Infinito	1勝1敗		3	4		▲1
					東京B	墨東70	1敗		0	3		-3
第8回※	2024年	ソウル	孝昌運動場	O-40	優勝	ソウル	ROYAL FC40	2勝	6	5	3	+2
					準優勝	上海	上海市代表40	1勝1敗	3	6	4	+2
					3位	東京	エリース東京シニア40	2敗	0	0	4	▲4
					優勝	上海	上海市代表50	1勝1分	4	3	1	+2
				O-50	準優勝	ソウル	ROYAL FC50	1勝1敗	3	2	2	+0
					3位	東京	東京リーグ選抜50	1分1敗	1	1	3	▲2
					1位	ソウル	ROYAL FC60	2勝	6	6	1	+5
					2位	東京	FCトリプレッタ 60	2敗	0	1	6	-5
				O-60	1位	ソウル	Super Infinito	2勝1敗	6	3	1	+2
					2位	ソウル	ROYAL FC70	1勝2敗	3	1	3	▲2
				O-70	優勝	上海A	上海老甲A明星足球队	2勝1分	7	12	3	+8
					準優勝	東京	エリース東京シニア40	2勝1分	7	7	2	+5
					3位	ソウル	Seoul-FC applerind 40's	1勝2敗	3	3	4	▲1
					4位	上海B	上海澤天FC	3敗	0	2	15	▲13
					優勝	東京	四十雀クラブ東京50	3勝	9	11	1	+10
					準優勝	上海A	上海叁壹零足球俱部	1勝1敗1分	4	5	6	▲1
					3位	ソウル	Seoul-FC applerind 50's	2分1敗	2	3	8	▲5
					4位	上海B	上海之光50+足球队	1分2敗	1	1	5	▲4
					優勝	ソウル	ROYAL FC60	2勝1分	7	8	1	+7
					準優勝	東京	東京ベイ60	2勝1分	7	4	0	+4
第9回	2025年	上海	汊得之星足球場 青浦联城足球場	O-40	3位	上海A	上海之光60+足球队	1勝2敗	3	2	5	▲3
					4位	上海B	上海华理众达FC	3敗	0	1	9	▲8
					1位	ソウル	ROYAL FC70	2勝	6	8	0	+8
					2位	東京	墨東70	2敗	0	0	8	▲8

※ 2日目までの結果 3日目は東京ソウルの交流戦を全世代で実施



距離と年齢を超え、サッカーでつながる世界交流

アフリカ寄付プロジェクト

東京都シニアサッカー連盟の国際交流はアジアを超え、アフリカにも広がっています。2024年から始まった「アフリカ寄付プロジェクト」では、ボールやスパイクの寄付を通じて、現地の子どもたちとの交流を拡大。活動の経緯や参加チームを巻き込んだ取り組み、寄付先の子どもたちの様子などをご紹介します。

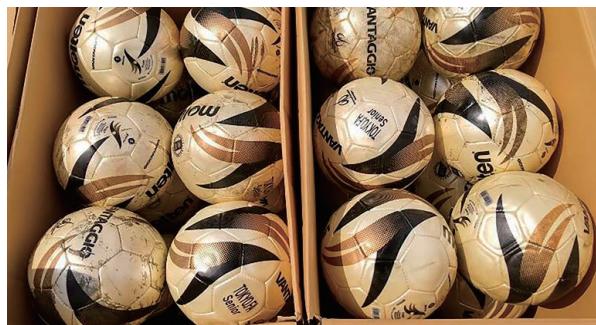


Project C 2025年8月25日、YASUDA本社にてスパイク30足受領
(東京都シニア児島／YASUDA佐藤社長)

■ 倉庫移転に伴う旧型軽量球寄付

東京都シニアサッカー連盟では、これまで「葛飾にいじゅくみらい公園運動場」最寄りの埼玉県三郷市に備品倉庫を借用し、運用していました。その後、城西地区（練馬・南豊ヶ丘）での活動が増えてきたため、利便性向上とコスト削減を目的に備品倉庫を移転することになりました。

倉庫を整理する過程で旧型軽量球が大量に見つかりました。50代の一般球化も重なり、見つかった旧型軽量球をどうするか、処分に困る状況が生まれました。



三郷倉庫に眠っていた旧型軽量球

Project A

有効な活用方法を検討する中で、アフリカ支援活動をする一般社団法人A-GOALの岸様とTAIYO財団の伊藤様と知り合い、2024年3月に48球、6月に72球の寄付を行うことになりました。

2024年10月、ケニアとナイジェリアで寄付したボールが活躍している写真をお送りいただきました。見慣れた軽量球を追いかける子どもたちの笑顔が印象的です。



アフリカの子どもたちの笑顔と見慣れた軽量球が活躍する姿に感激です

■ 70&80リーグからアフリカの子どもたちへ

Project B

アフリカの灼熱の大地ではボールの消耗が激しいとの情報が届き、ボール寄付の第二弾として、「70&80リーグからアフリカの少年達へ」を企画しました。

短い募集期間ながら支援の輪が急速に広がり、約60球ものボールが集まりました。ボール回収時に「こういうの良いよ! 頑張ってよ!」と応援の声も多数いただきました。



2025年7月、寄付先のナイジェリアから現地の写真が届きました。
距離(約13,500キロ)も年齢(60歳以上)も超越した交流を実現することができました!



2025年6月6日の70リーグ、6月13日の80リーグでは、
メディア2社が取材に!

■ YASUDA社コラボスパイクを寄付

Project C



YASUDA社のスパイク
2025年6月末、埼玉シニア小杉さん所属の「大宮50」と「四十雀東京50M」(本件担当、私・兒島が所属)でチームミーティングを行った際、YASUDA社の社長を務める佐藤さんをご紹介いただきました。

佐藤さんにアフリカ寄付の話をしたところ、すでにスパイクのサブスク「Excel Feed(エクセルフィード)」を展開されていたこともあり意気投合。早速に連携してスパイクのアフリカ寄付を企画することになりました。短い期間ながら「四十雀東京50M」から7足、YASUDA社から30足のスパイクが集まり、TAIYO財団へお渡しすることができました。



「四十雀東京50M」スパイク



2025年9月、ナイジェリアにスパイクが送られ、現地から写真が届きました。
ボロボロのスパイクを履いていたアフリカの若者たちに大変喜ばれました。

Member Teams

チーム紹介

地域に根ざし、共に歩んだ仲間たち。
25年の歴史を支えたチームの軌跡を紹介します。

加盟チーム数:267チーム
登録選手数:6,323名
(2025年現在)

TCL-1



チーム名	エリーストウキョウシニアフォーティ	本拠地区	豊島区
エリーストウキョウシニア40		創設年度	1970年
		加盟年度	2014年

スローガン FRA (フェアプレイ、リスペクト、アブリシエイト)



チーム名	ジュール	本拠地区	
ジュール		創設年度	2016年
		加盟年度	2016年

スローガン



チーム名	エイチティーケーアルビセレステ	本拠地区	渋谷区
HTK Albiceleste		創設年度	2018年

スローガン LORDS OF HTK



チーム名	エフシーフエンヒガシクルメ オーヴァー40	本拠地区	東久留米市
FC.ファンテ東久留米O40		創設年度	2017年
		加盟年度	2017年

スローガン WIN by ALL



チーム名	シーエーレアルトウキヨウヨンジュウ	本拠地区	東京都
C.A.REALTOKYO 40		創設年度	2003年

スローガン 常におしゃれで、強くて、カッコイイを東京から世界へ発信し続け
サッカー界の発展にとどまらず生涯スポーツの発展に貢献する。



チーム名	トウキョウキタクシニア エフシー40	本拠地区	北区
東京北区シニアFC・40		創設年度	

スローガン 北区リーグの精鋭が集結。赤スポから頂点へ!



チーム名	トウキョウビアオールドボーイズ	本拠地区	東京都
Tokyo Beer Old Boys		創設年度	2017年

スローガン 試合後のBeerのために



チーム名	オオタクシニア40	本拠地区	大田区
大田区シニア40		創設年度	1995年
スローガン	サッカーを通じて人生を豊かに		



チーム名	アストラクラブオーバーフォーティ	本拠地区	千代田区
アストラ倶楽部O40		創設年度	2022年
スローガン	『ハードワーク』		



チーム名	エフシーアオヤマオーバー・フォーティ	本拠地区	渋谷区
FC青山オーバー・フォーティ		創設年度	2015年
スローガン	常にチャレンジャー精神		



チーム名	シジュウカラクブトウキヨミドル	本拠地区	東京都
四十雀クラブ東京40ミドル		創設年度	1952年
スローガン	OneTeam、挑戦、enjoy、リスペクトの精神で楽しむ		



チーム名	シジュウカラクラブトウキヨウ	本拠地区	東京都
四十雀クラブ東京		創設年度	1952年
スローガン	【愛絆勝魂】パイオニア(日本最古創部71年)としての誇りを胸に、シニアサッカー界を牽引する存在になる		



チーム名	フチュアスレティックフットボールクラブ40	本拠地区	府中市
府中アスレティックフットボールクラブ40		創設年度	2013年
スローガン	府中アスレティックFCは、「府中市民の誇りとなる総合型地域スポーツクラブ」の実現を目指す、府中愛に満ちたスポーツクラブです。		



チーム名	ティー・ドリームス ヨンジュウ	本拠地区	板橋区
T・ドリームス40		創設年度	2007年
スローガン	Modesty Respect Enjoy		



チーム名	シブヤクエフシミミドルヨンジュウ	本拠地区	渋谷区
渋谷区FCミドル40		創設年度	1993年
スローガン	心は青春、全員で前へ!		

チーム紹介



チーム名	オオタクシニアヨンジュウミドル	本拠地区	大田区
	大田区シニア40ミドル	創設年度	2017年
		加盟年度	2018年

スローガン サッカーを通じて人生を豊かに



チーム名	シナガワシニア40	本拠地区	品川区
	品川シニア40	創設年度	2000年
		加盟年度	2005年

スローガン 60超えて仲間と共にサッカーを



チーム名	スギナミユナイテッド40	本拠地区	東京都杉並区
	杉並UNITED40	創設年度	2021年

スローガン Respect all



チーム名	エフシームサシユナイテッドオーバー40	本拠地区	東京都
	FC武蔵ユナイテッドOver40	創設年度	2014年

スローガン チーム一丸



チーム名	タウエ40	本拠地区	練馬区
	TUA40	創設年度	2017年

スローガン RUN AND FUN!



チーム名	シンジュクシニアマエストロス40	本拠地区	新宿
	新宿シニアマエストロス40	創設年度	2010年(憲測)

スローガン 全員サッカー、全員運営。



チーム名	エフシータマガワッコ	本拠地区	東京都
	FC.玉川つ子	創設年度	1986年

スローガン みんなで楽しく玉川つ子らしく



チーム名	セタガヤパークエフシー	本拠地区	東京都世田谷区
	SETAGAYA PARK FC	創設年度	2022年

スローガン Goodコミュニケーションで勝負に
こだわるチームのベースを創ること



チーム名	トキヨウベイフィットボールクラブオーバー40	本拠地区	品川区
東京ベイフィットボールクラブ O-40		創設年度	2013年
		加盟年度	2013年

スローガン エンジョイフィットボール



チーム名	コウトウゴクジュウカラサッカークラブ40	本拠地区	江戸川区
江東五区四十雀サッカークラブ40		創設年度	1984年
		加盟年度	2004年

スローガン 全力一丸!



チーム名	ムサシノエフーシュインズ	本拠地区	武蔵野市
むさしのFCウインズ		創設年度	1986年
		加盟年度	2004年

スローガン チーム一丸になって勝利を目指す



チーム名	バジーエフシー	本拠地区	世田谷区
buzzy FC		創設年度	2016年
		加盟年度	2016年

スローガン ENJOY FOOTBALL!



チーム名	セタガヤエフエー40	本拠地区	世田谷区
世田谷FA40		創設年度	1954年
		加盟年度	2005年

スローガン 総合力で勝負し、
勝利にこだわりながらサッカーを楽しむ。



チーム名	トキヨウキタクシニア エフシー 45	本拠地区	東京都北区
東京北区シニアFC・45		創設年度	
		加盟年度	

スローガン サッカーを続けたい人たちの受け皿になりたい!



チーム名	エフシートリプレッタフォーティ	本拠地区	渋谷区
FCトリプレッタ40		創設年度	2004年
		加盟年度	2017年

スローガン 生涯サッカーチーム、大人のチーム、
フォア・ザ・チーム



チーム名	ウッズ ベテラン	本拠地区	東京都
WOODS VETERANO		創設年度	1996年
		加盟年度	2023年

スローガン 永遠の青春

チーム紹介



チーム名	ジーガ	本拠地区	新宿区
ZIGA		創設年度	2016年
		加盟年度	2018年

スローガン 怪我しない怪我させない



チーム名	シブヤエフシーミドルヨンジュウゴ	本拠地区	渋谷区
渋谷区FCミドル45		創設年度	2006年
		加盟年度	2007年

スローガン まず走り勝つ!



チーム名	カツシカシニアミドル	本拠地区	葛飾区
葛飾シニアミドル		創設年度	2023年
		加盟年度	2023年

スローガン 楽しく! 怪我なく! 未永く!



チーム名	ダックスヨンジュウ	本拠地区	東京都
ダックス40		創設年度	不明
		加盟年度	不明

スローガン 怪我無く、楽しむ!!



チーム名	エフシー トホク ヨンジュウ	本拠地区	文京区
FC.TOHOKU40		創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン がんばろう東北



チーム名	キリイチゾウマスターズ	本拠地区	葛飾区
桐一族ますたーず		創設年度	1970年
		加盟年度	2001年

スローガン 競技志向のサッカーを良い仲間と生涯楽しむ



チーム名	アラカワクシニアヨンジュウ	本拠地区	荒川区
荒川区シニア40		創設年度	2001年
		加盟年度	2001年

スローガン 生涯スポーツとしてサッカーを楽しむ!



チーム名	カツシカシニアO-40	本拠地区	葛飾区
葛飾シニアO-40		創設年度	
		加盟年度	

スローガン 楽しく! 怪我なく! 未永く!



チーム名	バジーエフシーネクスト	本拠地区	世田谷区
	buzzyFC next	創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン 楽しく真剣に週末サッカーをプレーする。



チーム名	エフシーボルド	本拠地区	世田谷区
	F.C.BOLD	創設年度	1994年
		加盟年度	2016年

スローガン 相手をリスペクトし、協調・共闘し、
楽しいシニアサッカーライフを目指しています。



チーム名	ルーフトップス	本拠地区	東京都
	Rooftops	創設年度	1973年
		加盟年度	2011年

スローガン 异格を目指して頑張ろう!



チーム名	アリアンザ	本拠地区	東京
	ALIANZA	創設年度	
		加盟年度	

スローガン ほどほどに真剣に、楽しみは全力で



チーム名	シンジュクエフシーマエストロスマドリ	本拠地区	新宿
	新宿FCマエストロスマドリ	創設年度	2015年
		加盟年度	2015年

スローガン 全員出場し勝利を目指す



チーム名	シナガワシニア40ネクスト	本拠地区	品川区
	品川シニア40Next	創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン 60超えても仲間と共にサッカーを



チーム名	ミタカシュウキュウダンシニア	本拠地区	三鷹市
	三鷹蹴球団シニア	創設年度	1983年
		加盟年度	2000年

スローガン 全員サッカー



チーム名	アンクラーズエフシー	本拠地区	葛飾区
	アンクラーズFC	創設年度	1993年
		加盟年度	2017年

スローガン 生涯通じてサッカーを楽しむ

チーム紹介

TCL-3C



チーム名	エフシーフリーダムシニア	本拠地区	北区
FC Freedom Senior		創設年度	1985年
		加盟年度	2015年

スローガン 楽しく！ 完全燃焼！



チーム名	エフシーアーリーバードヨンジュウ	本拠地区	練馬区
FC EARLY BIRD 40		創設年度	2010年
		加盟年度	2011年

スローガン エンジョイサッカー!!



チーム名	エフシーリジョイズ	本拠地区	江東区
FC.REJOYS		創設年度	2019年

スローガン プロみたいな素人集団で若い頃の青春を取り戻す



チーム名	セイケイエフシーシニア	本拠地区	東京都
SEIKEI FC Senior		創設年度	2017年

スローガン 勝っても負けても楽しく面白く



チーム名	ルーズユナイテッド フットボールクラブ 40	本拠地区	青梅市
LOOSE UNITED FOOTBALL CLUB 40		創設年度	2001年

スローガン 全員参加でアメイジングなサッカーをする！



チーム名	ホウセイクラブ	本拠地区	
HOSEI CLUB 40		創設年度	

スローガン



チーム名	ティーエムティーシニア	本拠地区	港区
TMTシニア		創設年度	2000年

スローガン 絆を育み仲間力を育むチーム



チーム名	セレジェイロ コガネイ 40	本拠地区	小金井市
Cerejeiro KOGANEI・40		創設年度	2024年

スローガン リスペクトの精神、チーム一丸でサッカーを楽しむ



チーム名	チュウオウクアイアンズ	本拠地区	東京都中央区
創設年度	2009年	加盟年度	2009年
スローガン	もう一度あの時の輝きを!!		



チーム名	クラブフォアローゼス	本拠地区	世田谷区
創設年度	1999年	加盟年度	1999年
スローガン	磨き続ける技と心、そして相手へのリスペクトを忘れない		

TCL-3D



チーム名	アダチオーバーヨンジュウ	本拠地区	足立区
創設年度	2000年	加盟年度	2001年
スローガン	常に全力プレーで!		

チーム名	コクブンジセレゾン40	本拠地区	国分寺市
創設年度	不明	加盟年度	不明
スローガン	経験と絆でゴールをつかむ!		



チーム名	エーシークリエンテ	本拠地区	清瀬市
創設年度	2001年	加盟年度	2018年
スローガン	シニアリーグに新たな旋風を巻き起こすべく、力を合わせてエイエイオーする良いチーム。		



チーム名	エフシーグリフィントキヨウフォーティ	本拠地区	品川区
創設年度	2024年	加盟年度	2024年
スローガン	FC.Griffin東京のシニアチームとして2024年度からシニアリーグに参戦しました		



チーム名	メグロクシニア	本拠地区	目黒区
創設年度	1994年	加盟年度	2004年
スローガン	Enjoy Football!		



チーム名	キュッシュウカイ クガヤマエフシー40	本拠地区	杉並区
創設年度	2017年	加盟年度	2018年
スローガン	美しく勝て		

チーム紹介



チーム名	ヒャクシキ	本拠地区	杉並区
	HYAKU-SHIKI	創設年度	2021年
		加盟年度	2021年

スローガン 楽しく勝つ、サッカーは生涯スポーツ



チーム名	エフシームサシユナイテッド	本拠地区	東京都
	FC武藏ユナイテッド50	創設年度	2017年
		加盟年度	2019年

スローガン 勝っても、負けても、笑顔で顔晴ろう!

TSL-1



チーム名	ティ・ドリームスゴジュウ	本拠地区	東京
	T・ドリームス50	創設年度	2018年
		加盟年度	2018年

スローガン RESPECT 謙虚 ENJOY



チーム名	エリーストウキョウシニア50	本拠地区	東京都内
	エリーストウキョウシニア50	創設年度	1970年
		加盟年度	2014年

スローガン F (fair play). R (respect). A (appreciation)



チーム名	シジュウカラクラブトウキョウ50	本拠地区	東京都
	四十雀クラブ東京50	創設年度	1952年
		加盟年度	2008年

スローガン もう一度全国優勝! を目指して全員一丸



チーム名	トウキョウキタクシニアエフシー50	本拠地区	東京都北区
	東京北区シニアFC・50	創設年度	1993年
		加盟年度	2005年

スローガン 団結して勝利を目指す



チーム名	エフシーオヤマオーバー・フィティ	本拠地区	渋谷区
	FC青山オーバー・フィフティ	創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン the one and only!
唯一無二のシニアサッカーチームを目指して!



チーム名	エフシー ボノス 50	本拠地区	東京都
	FC BONOS 50	創設年度	2004年
		加盟年度	2014年

スローガン 個人の強みを生かし楽しみながら勝つ!



チーム名	ミタカシュウキュウダン イーグルス	本拠地区	三鷹市
	三鷹蹴球団 EAGLES	創設年度	2000年
		加盟年度	2009年

スローガン 楽しくサッカーやろう! 自分に試合に勝とう!!



チーム名	シブヤクエフシーミドル50	本拠地区	渋谷区
	渋谷区FCミドル50	創設年度	2011年

スローガン 「keep on trying」「何度も挑戦する」



チーム名	ペット50	本拠地区	府中市
	PET50	創設年度	2009年

スローガン 絆を育み仲間力を育むチーム



チーム名	セタガヤエフエゴジュウ	本拠地区	世田谷区
	世田谷FA50	創設年度	1954年

スローガン 仲間と向き合うサッカー! 運営、対戦相手も仲間!
勝ち負けの前に。



チーム名	エフシーマチダ50	本拠地区	町田市
	FC町田 50	創設年度	2016年

スローガン 全国制覇(サッカーの街 町田が全盛期だった頃を
シニア年代でも再現できるよう活動しております)



チーム名	シンジュクエフシーマエストロスゴジュウ	本拠地区	新宿区
	新宿FC マエストロス50	創設年度	1990年

スローガン 新宿区FAの模範となれ!



チーム名	シーエーレアルトウキョウビーオーエフゴジュウ	本拠地区	東京都
	C.A.REAL TOKYO.BOF50	創設年度	2003年

スローガン 常におしゃれで、強くて、カッコイイを東京から世界へ発信し続け
サッカー界の発展にとどまらず生涯スポーツの発展に貢献する。



チーム名	エficoganei 50	本拠地区	小金井市
	FC小金井50	創設年度	2021年

スローガン 皆で一緒にサッカーを楽しむ!

チーム紹介



チーム名	セレクション・トキオ・フットボールクラブ	本拠地区	なし
セレクション・トキオ・ フットボールクラブ		創設年度	2007年
		加盟年度	2007年

スローガン チーム一丸になって1部復帰を目指す



チーム名	エフシー アーリーバード50	本拠地区	練馬区
FC EARLY BIRD 50		創設年度	2014年
		加盟年度	2014年

スローガン エンジョイサッカー!!



チーム名	ミタカシュウキュウダン オウルズアンドメリ	本拠地区	三鷹市
三鷹蹴球団50 OWLS & MER		創設年度	1983年
		加盟年度	2009年

スローガン リーグ戦全員出場で上位を目指します。



チーム名	アダチクマスターズ50	本拠地区	足立区
足立区マスターズ50		創設年度	1996年
		加盟年度	2003年

スローガン 愉しいサッカーと仲間づくり



チーム名	ムサシノエフシーラッジョ	本拠地区	武藏野市
むさしのFCラッジョ		創設年度	2006年
		加盟年度	2006年

スローガン まだまだ走る、楽しみながら50代の挑戦!



チーム名	フチュワスレティックフットボールクラブ50	本拠地区	府中市
府中アスレティックフット ボールクラブ50		創設年度	2021年
		加盟年度	2021年

スローガン 府中アスレティックFCは、「府中市民の誇りとなる総合型地域スポーツクラブ」の実現を目指す、府中愛に満ちたスポーツクラブです。



チーム名	リボーン エフ・シー	本拠地区	葛飾区
ReBorn F.C		創設年度	2007年10月
		加盟年度	2008年

スローガン サッカーの基本はハートである



チーム名	オオタクシニア50	本拠地区	大田区
大田区シニア50		創設年度	1997年
		加盟年度	2005年

スローガン サッカーを通じて人生を豊かに



チーム名	シジュウカラクラブトウキョウ50ミドル	本拠地区	東京都
創設年度	1952年	加盟年度	
四十雀クラブ東京50ミドル		2000年	

スローガン 相手、味方をリスペクト。For The Teamでプレー



チーム名	コクブンジセレソン50	本拠地区	東京都
創設年度		加盟年度	
国分寺セレソン50			

スローガン サッカーを全員で楽しみながら勝利を目指す



チーム名	エフシーデルミーナトウキョウ	本拠地区	東京都
FCデルミーナ東京50		創設年度	2006年
		加盟年度	2007年

スローガン 尊敬、協力、楽しく、真剣勝負



チーム名	トウキョウベイファットボールクラブ オーバー50	本拠地区	品川区
創設年度		加盟年度	2013年
東京ベイファットボールクラブ O-50			2014年

スローガン エンジョイファットボール



チーム名	シナガワシニア50	本拠地区	品川区
品川シニア50		創設年度	2000年
		加盟年度	2000年

スローガン 2部 残留



チーム名	シタマチサンツ	本拠地区	江戸川区
下町サンツ		創設年度	1997年
		加盟年度	2008年

スローガン 楽しく、元気に、いつまでも



チーム名	エフシートリプレッタフィティー	本拠地区	渋谷区
FCトリプレッタ50		創設年度	2015年
		加盟年度	2020年

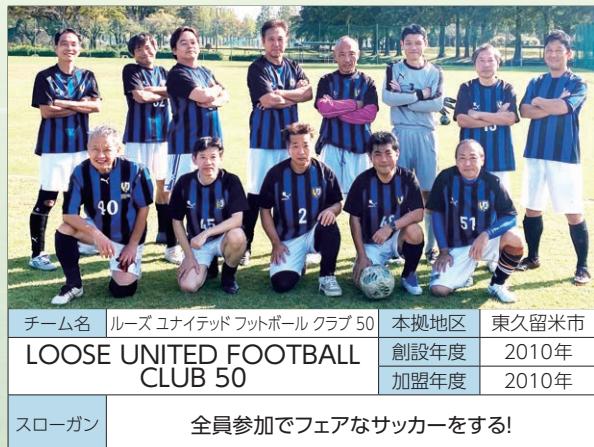
スローガン 仲間とサッカーを生涯楽しみ、そして勝利を目指す



チーム名	エフシーボールド50	本拠地区	世田谷区
F.C. BOLD50		創設年度	1994年
		加盟年度	2023年

スローガン チーム全員がエース。
仲間に信じて、勝利を信じて、最後まで走り切る!

チーム紹介





チーム名	ブレインズ	本拠地区	東京都
	ブレインズ	創設年度	1964年
		加盟年度	2002年

スローガン 高いレベルでサッカーを楽しむ



チーム名	アラカワシニアオー50	本拠地区	荒川区
	荒川区シニアO50	創設年度	2008年1月
		加盟年度	2008年1月

スローガン エンジョイ・フットボール!荒川から世界へ!



チーム名	エフシーケルピエ	本拠地区	文京区
	FCケルピエ	創設年度	2018年
		加盟年度	2019年

スローガン 明るく 楽しく 元気に サッカーを満喫しよう!
(来季は「FCタウリン」にチーム名を変更)



チーム名	シンフォニア	本拠地区	東京都大田区
	シンフォニア	創設年度	2015年
		加盟年度	2017年

スローガン 個々の音色(持ち味)を
活かしていい曲(サッカー)を奏でる



チーム名	ゼロシキ	本拠地区	杉並区
	ZERO-SHIKI	創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン 零式サッカースタイルを探す冒險



チーム名	コウトウゴクシジュウガラエジー55	本拠地区	江戸川区
	江東五区四十雀SC55	創設年度	1984年
		加盟年度	2006年

スローガン エンジョイ・フットボール



チーム名	ムグンファ50	本拠地区	
		創設年度	
		加盟年度	

スローガン

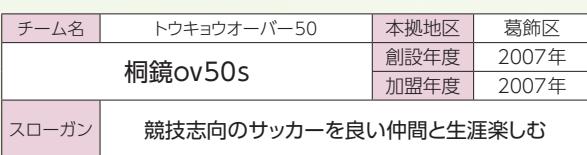


チーム名	Foot Ball Club ロッサ	本拠地区	府中
	FC ROSA	創設年度	1997年
		加盟年度	2018年

スローガン ベストパフォーマンス、ベストコーポレーション、
ベストリスペクト

チーム紹介

TSL-3C



TSL-3D



チーム名	メグロクシニアゴジュウエフシー	本拠地区	東京都目黒区
創設年度	2007年	加盟年度	2008年
スローガン	俺たちはまだまだ上手くなれる! ～学び続ける50代～		



チーム名	ダブリューエムダブリュー オーバー 50	本拠地区	東京都
創設年度	2008年	加盟年度	2008年
スローガン	東伏見4年間の昔話に花を咲かせつつ、 親睦と健康の増進を図る機会を持つ		



チーム名	ランザトウキョウゴジュウ	本拠地区	東京都
創設年度	2005年	加盟年度	2012年
スローガン	ケガをしない! させない!!		



チーム名	ビーアールビーシニアゴジュウ	本拠地区	東京都
創設年度	2017年	加盟年度	2017年
スローガン	練習ハ不可能ヲ可能ニス		



チーム名	ホセイクラブ50	本拠地区	東京都
創設年度	1973年	加盟年度	2010年
スローガン	楽しく強いサッカーを生涯続けよう		



チーム名	セイザンキッカーズ50	本拠地区	世田谷区
創設年度	1968年	加盟年度	2009年
スローガン	「生涯スポーツ」としてのサッカーを楽しむ		



チーム名	フチュアスレティックエフシーエクレウス	本拠地区	府中市
創設年度	2024年	加盟年度	2024年
スローガン	府中アスレティックFCは、「府中市民の誇りとなる総合型地域スポーツクラブ」の実現を目指す、府中愛に満ちたスポーツクラブです。		



チーム名	ジーエフソシア50	本拠地区	東京都
創設年度	2023年度	加盟年度	2023年度
スローガン	紳士らしく、真剣に楽しむ!		

チーム紹介

TSL-3E



チーム名	コウトウゴクシジュウカラサッカークラブ 江東五区四十雀サッカークラブ(50)	本拠地区	東京都江東区
創設年度	1984年	加盟年度	2006年
スローガン	シニアサッカーに定年はない! 何歳になってもボールを追いかけていたい。そんな仲間の集うサッカーチーム!		



チーム名	ホンゴウ50	本拠地区	豊島区
	FC本郷 50	創設年度	2007年
		加盟年度	2007年

スローガン	生涯現役
-------	------



チーム名	カツシカシニアO-50	本拠地区	葛飾区
創設年度		加盟年度	
スローガン	楽しく! 怪我なく! 未永く!		



チーム名	エドモンズ	本拠地区	東京都
	EDOMON'S	創設年度	2006年
		加盟年度	2006年

スローガン	創部19年を迎えます。今では江戸者(エドモン)だけでなく、埼玉者・神奈川者・千葉者も交え、楽しくボールを追いかけています。
-------	---



チーム名	ティーティー ゴジュウ	本拠地区	豊島区
	TT50	創設年度	1989年
		加盟年度	2005年

スローガン	生涯現役!シニアサッカーを楽しむ!
-------	-------------------



チーム名	シンジュクシニアマエストロスゴジュウミドル	本拠地区	新宿区
	新宿シニアマエストロス50ミドル	創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン	サッカーを楽しむ、全員出場が基本です。
-------	---------------------



チーム名	セレジェイロ コガネイ 50	本拠地区	小金井市
	Cerejeiro KOGANEI 50	創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン	100年の未来を創る、小金井サッカーの絆
-------	----------------------



チーム名	シーエーレアルトキヨウビーオーエフプラチナフィティ	本拠地区	東京都
	C.A.REAL TOKYO.BOF PLATINA 50	創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン	仲間がいるからサッカーが出来る。 敬意を胸にピッチで1つに。
-------	-----------------------------------

CWL-1



チーム名	ペット60	本拠地区	東京都
	PET60	創設年度	2015年
		加盟年度	2015年

スローガン 絆を育み 仲間力を育むチーム



チーム名	トキョウカクシニアエフシー60	本拠地区	東京都北区
	東京北区シニアFC・60	創設年度	1993年

スローガン 北区リーグ選抜で優勝を目指す!



チーム名	ティードリームス60	本拠地区	東京都
	T-Dreams60	創設年度	2017年

スローガン シニアサッカー界でリスペクトされるチームになりたい!!
また、日本一目指そう!!



チーム名	エフシーマチダ60	本拠地区	町田市
	FC町田 60	創設年度	2018年

スローガン 半世紀を経て、再び全国へ!



チーム名	シブヤカットボールクラブ60	本拠地区	東京都渋谷区
	渋谷区FCミドル60	創設年度	2016年1月

スローガン 渋谷区リーグから選抜された選手を中心に
品格、誇り、協調性、責任を持ったメンバーのチーム



チーム名	エリーストウキョウシニア60	本拠地区	東京都
	エリース東京シニア60	創設年度	2015年

スローガン F(fair play) R(respect) A(appreciation)



チーム名	エフシートリプレッタ60	本拠地区	渋谷区
	FCトリプレッタ60	創設年度	2021年

スローガン 生涯サッカーチーム/
大人のチーム/フォア・ザ・チーム



チーム名	ポクトウビーオーエフ	本拠地区	江東区
	墨東BOF	創設年度	2008年

スローガン 仲間がいるからサッカーができる。
敬意を胸にピッチで1つに。

チーム紹介



チーム名	オオタクシニア60	本拠地区	大田区
創設年度	2012年	加盟年度	2013年
スローガン	サッカーを通じて人生を豊かに		



チーム名	三鷹蹴球団60(ミタカシュウキュウダンロクジュウ)	本拠地区	三鷹市
創設年度	1983年	加盟年度	2000年
スローガン	来るもの拒まず、去る者追わず、楽しく勝つ		



チーム名		本拠地区	世田谷区
創設年度	2013年	加盟年度	2013年
スローガン	メンバー同志が協調しつつ 切磋琢磨しチーム力の向上を図る。		



チーム名	ニシトウキョウシミンフットボールクラブ60	本拠地区	東京都西東京市
創設年度	1973年	加盟年度	2022年
スローガン	サッカーの縁を大切に皆で幸せになる		



チーム名	セタガヤFA60	本拠地区	世田谷区
創設年度	2016年	加盟年度	2016年
スローガン	対戦相手、審判をリスペクトし、全員で勝負する。		



チーム名	ビーアールビーシニアロクジュウ	本拠地区	東京都
創設年度	2022年	加盟年度	2022年
スローガン	練習ハ不可能ヲ可能ニス		



チーム名	エフシーアーリーバードロクジュウビー	本拠地区	練馬区
創設年度	2023年	加盟年度	2023年
スローガン	エンジョイサッカー!!		



チーム名	トウキョウ グラナータ	本拠地区	東京
創設年度	2016年	加盟年度	2016年
スローガン	競技志向のサッカーを良い仲間と生涯楽しむ		



チーム名	ティーティー ロクジュウ	本拠地区	豊島区
	TT60	創設年度	2019年
		加盟年度	2020年

スローガン 生涯現役!シニアサッカーを楽しむ!



チーム名	シンジュクシニア マエストロス60	本拠地区	新宿区
	新宿シニア マエストロス60	創設年度	2012年
		加盟年度	2012年

スローガン シンプルに、よりシンプルに、アグレッシブに
(ゾーン2) (ゾーン1) (ゾーン3)



チーム名	シブヤソフトボールクラブ60セカンド	本拠地区	東京都渋谷区
	渋谷区FC60.2nd	創設年度	2021年1月

スローガン 渋谷区リーグから選抜された
品格、誇り、協調性、責任を持ったメンバーのチーム



チーム名	エフシーマジョール	本拠地区	東京都
	FC マジョール	創設年度	2007年

スローガン やみくも!



チーム名	エルビゴテンシタシニア60	本拠地区	東京都
	LB御殿下シニア60 フットボールクラブ	創設年度	1999年

スローガン 勝利と絆を目指す



チーム名	ホンゴウ60	本拠地区	豊島区
	FC本郷60	創設年度	2020年

スローガン 生涯現役



チーム名	シジュウカラクブトウキョウ60	本拠地区	東京都
	四十雀クラブ東京60	創設年度	1952年

スローガン 全ては楽しむために。
一人ひとりのプレーの質を上げ、チーム力を高める



チーム名	ペットマックス	本拠地区	府中
	PETmax	創設年度	2020年

スローガン 絆を育み仲間力を育むチーム

チーム紹介



チーム名	ムサシノエフシーゼファー	本拠地区	武藏野市
むさしのFCゼファー		創設年度	2014年
		加盟年度	2015年

スローガン 蹴って、走って、楽しんで!

CWL-3A



チーム名	ランザトウキョウ60	本拠地区	東京都
LANZA 東京60		創設年度	2008年
		加盟年度	2011年

スローガン 生涯サッカーを「楽しみ・仲間を「リスペクト」すること
「勝利」に基づき目標を達成し「歓び」をわかちあうチームを目指しています



チーム名	フチュウ ロクキュウ	本拠地区	府中市
府中60		創設年度	2014年
		加盟年度	2015年

スローガン 生涯スポーツとしてサッカーを楽しむ



チーム名	ビープラス	本拠地区	東京都国分寺市
B+		創設年度	1981年
		加盟年度	2003年

スローガン 日々サッカーを通じて体を鍛え、
健康維持を目的とし明るい活気あるクラブを目指す



チーム名	ホセイクラブ 60	本拠地区	東京都
HOSEICLUB60		創設年度	1973年
		加盟年度	2015年

スローガン 優勝を目指してチャレンジする。ただし、チームの
メンバー同士をリスペクトしあう姿勢を維持する。



チーム名	シジュウカラクラブトウキョウ60ミドル	本拠地区	東京都
四十雀クラブ東京60ミドル		創設年度	1952年(2009~)
		加盟年度	2009年

スローガン 四十雀クラブとしての誇りを
持ち生涯サッカーを楽しむ



チーム名	コウトウゴクシジュウガラサッカーチーム	本拠地区	江戸川区
江戸川区四十雀		創設年度	1984年
サッカーチーム60		加盟年度	2004年

スローガン 心に沁みる美しい交響樂蹴鞠



チーム名	セタガヤシニア60	本拠地区	世田谷区
世田谷シニア60		創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン 心からサッカーを楽しみ サッカーを愛し続ける
この仲間たちと共に



チーム名	エフシー アーリーバード ロクジュウ エー	本拠地区	練馬区
創設年度	2017年1月	加盟年度	2017年1月
FC EARLY BIRD 60A			

スローガン エンジョイサッカー!!



チーム名	シブヤ1950	本拠地区	東京都
渋谷1950		創設年度	2002年
		加盟年度	2002年

スローガン 一生懸命に楽しくリスペクトとフェアプレイで勝利を目指す



チーム名	トウキョウシニアクラブ	本拠地区	墨田区
東京シニアクラブ		創設年度	2009年
		加盟年度	2009年

スローガン リスペクトとフェアプレーの実践!



チーム名	シンジュクシニアモンエテ	本拠地区	新宿区
新宿シニアモンエテ		創設年度	2017年
		加盟年度	2017年

スローガン サッカーを楽しむこと

CWL-3B



チーム名	トウキョウベイフィットボールクラブ オーバー60	本拠地区	品川区
東京ベイフィットボールクラブ O-60		創設年度	2013年
		加盟年度	2024年

スローガン エンジョイフィットボール



チーム名	エリーストウキョウシニア60エス	本拠地区	豊島区
エリース東京シニア60S		創設年度	2021年
		加盟年度	2021年

スローガン 「強くて楽しいサッカー」ができるチームづくりを目指す。



チーム名	コクブンジセレソン60	本拠地区	多摩地区
国分寺セレソン60		創設年度	1998
		加盟年度	2000

スローガン 国分寺、調布、府中、三鷹近辺で活動しています。「来るもの拒まず去る者追わず」でどなたでも入部可能です。



チーム名	ブレインズ60	本拠地区	東京都
ブレインズ60		創設年度	1964年
		加盟年度	2019年

スローガン 楽しく笑顔で全員サッカー

チーム紹介



チーム名	コウトウゴクシジュカラサッカーラブ60シニア	本拠地区	江戸川区
江東五区四十雀		創設年度	1984年
サッカーカラーブ60シニア		加盟年度	2004年

スローガン のんびりゆったり心で蹴ろう江東五区



チーム名	ニシトウキヨシミンフットボルクラブシニア	本拠地区	西東京市
西東京市民		創設年度	1973年
フットボルクラブシニア		加盟年度	2023年

スローガン サッカーの縁を大切に皆で幸せになる



チーム名	ワイケーティーシニア	本拠地区	練馬区
YKTシニア		創設年度	1992年
		加盟年度	2010年

スローガン みんな楽しく生涯サッカー



チーム名	トウキョウキタクシニアエフシー 60 プラス	本拠地区	北区
東京北区シニアFC・60+		創設年度	1993年
		加盟年度	2016年

スローガン 北区四十雀として創設され北区60から将来SFL70を目指す北区70への橋渡し



チーム名	イノセント	本拠地区	足立区
Innocents		創設年度	2014年
		加盟年度	2014年

スローガン 楽しく仲良く。勝敗よりチームの和。



チーム名	アンドウハザマ60	本拠地区	世田谷区
安藤ハザマ60		創設年度	2013年
		加盟年度	2017年

スローガン 仕事もサッカーも楽しく一所懸命



チーム名	ニコタマエフシアネックス	本拠地区	東京都
二子玉FCアネックス		創設年度	2016年
		加盟年度	2017年

スローガン みんなが楽しく! 自分も楽しく!



チーム名	ミタカシュウキュウダンロクジュウメル	本拠地区	三鷹市
三鷹蹴球団60 MER		創設年度	1983年
		加盟年度	2000年

スローガン 来るもの拒まず、去る者追わず、楽しく勝つ



チーム名	アラカワシニアオーロクジュウ	本拠地区	アラカワク
創設年度	2020年	加盟年度	2020年
スローガン	エンジョイ、サッカー		



チーム名	ジーエフシーソシア60	本拠地区	東京都
創設年度	2014年	加盟年度	2020年
スローガン	常に、輪を大切に!		



チーム名	トシマクシニアロクジュウ	本拠地区	豊島区
創設年度	2015年	加盟年度	2015年
スローガン	全てのサッカーチームをリスペクトし 参加者全員で勝利を目指す		



チーム名	ポクトウ コスマス	本拠地区	江東区
創設年度	2013年	加盟年度	2013年
スローガン	—「仲間がいるからサッカーができる」— 敬意を胸に、ピッチで一つに!		

CWL-3D



チーム名	ダブルエムダブル オーバーロクジュウ	本拠地区	東京都
創設年度	2022年	加盟年度	2023年
スローガン	東伏見4年間の昔話に花を咲かせつつ、 親睦と健康の増進を図る機会を持つ		



チーム名	オオタクシニア60ミドル	本拠地区	大田区
創設年度	2020年	加盟年度	2021年
スローガン	サッカーを通じて人生を豊かに		



チーム名	エフシーマチダ60 スーペル	本拠地区	町田市
創設年度	2023年	加盟年度	2023年
スローガン	試合に参加したメンバー全員が楽しめるサッカーを!		



チーム名	チュウクラブ	本拠地区	小金井市
創設年度	2014年	加盟年度	2016年
スローガン	生涯スポーツとして行えるサッカー倶楽部とする。 向上心を持って活動するが、楽しむサッカーを目的とする。		

チーム紹介



チーム名	スギナミリベルタサッカーカークラブ	本拠地区	杉並区
	杉並リベルタサッカーカークラブ	創設年度	2016年
		加盟年度	2017年

スローガン いつまでも、健康で楽しくサッカーをしよう!



チーム名	ボクトウ ティーディー ロクジュウゴ	本拠地区	江東区
	墨東TD65	創設年度	2014年
		加盟年度	2014年

スローガン 一「仲間がいるからサッカーができる。
敬意を胸にピッチで1つに。」—

CWL65-1



チーム名	エフシー セロ	本拠地区	東京都
	FC Cero	創設年度	2016年
		加盟年度	2017年

スローガン 年齢に負けず、新たな夢や希望をいつまでも!
(Club Cero)



チーム名	エリーストウキョウシニア65	本拠地区	豊島区
	エリース東京シニア65	創設年度	1970年
		加盟年度	2022年

スローガン 「強くて楽しいサッカー」ができる
チームづくりを目指す。



チーム名	エフシー ウノ	本拠地区	東京北区
	FC.UNO	創設年度	2019年
		加盟年度	2019年

スローガン 楽しく勝つ



チーム名	ダブリュケイユウ 65	本拠地区	東京都
	WKU-65	創設年度	2008年
		加盟年度	2013年

スローガン 生涯スポーツであるサッカーを永く楽しむために、怪我をしない・
させない、相互リスペクト・非難しない、全員参画・ゲストはいない



チーム名	インフィニト	本拠地区	東京都
	Infinito	創設年度	2020年
		加盟年度	2021年

スローガン 年齢に負けず、新たな夢や希望をいつまでも!
(Club Cero)



チーム名	トキヨウ ダンディーズ65	本拠地区	東京都
	TOKYOダンディーズ65	創設年度	2014年
		加盟年度	2014年

スローガン 楽しく、常にチーム向上心を!



チーム名	シジュウカラクラブトウキョウ65	本拠地区	東京都
創設年度	1952年(2014~)	スローガン	四十雀クラブとしての誇りを持ち 生涯サッカーを楽しむ
加盟年度	2014年		



チーム名	ムサシノエフシースカイ	本拠地区	武藏野市
創設年度	2021年	スローガン	蹴れず 走れず へこたれず
加盟年度	2021年		



チーム名	トウキョウキタクシニア	本拠地区	東京都北区
創設年度	1993年12月	スローガン	北区リーグ選抜で優勝を目指す!!
加盟年度	2023年		



チーム名	ピープラス65	本拠地区	東京都国分寺市
創設年度	1981年	スローガン	日々サッカーを通じて体を鍛え、 健康維持を目的とし明るい活気あるクラブを目指す
加盟年度	2019年		



チーム名	トウキョウ65	本拠地区	東京都
創設年度	2021年	スローガン	
加盟年度	2021年		



チーム名	ミタカシュウキュウダン65	本拠地区	三鷹市
創設年度	1983年	スローガン	メンバー全員出場で勝利を目指す・エンジョイ・ リスクペクト
加盟年度	2019年		



チーム名	CWL65-2A	本拠地区	府中
創設年度	2023年	スローガン	絆を育み仲間力を育むチーム
加盟年度	2023年		



チーム名	ニコタマエフシーロクジュウゴ	本拠地区	世田谷区
創設年度	2018年	スローガン	厳しくも楽しく
加盟年度	2018年		

チーム紹介



チーム名	ダンディーズ ニイマルイチキウ	本拠地区	新宿
ダンディーズ2019		創設年度	2019年
		加盟年度	2019年

スローガン 楽しく・けがなく・颯爽と美しく・狂い咲き



チーム名	チュウフ克拉ブ65	本拠地区	小金井市
中附俱楽部65		創設年度	2018年
		加盟年度	2018年

スローガン 生涯スポーツとして行えるサッカー倶楽部とし、楽しむサッカーを目的とする。



チーム名	セタガヤシニアプラス	本拠地区	世田谷区
世田谷シニア65プラス		創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン チームの仲間と共に長く楽しくプレーする!



チーム名	フチウ ロクジュウゴ	本拠地区	府中市
府中65		創設年度	2014年
		加盟年度	2016年

スローガン 生涯スポーツとしてサッカーを楽しむ



チーム名	レジェンド65	本拠地区	葛飾区
Legend65		創設年度	2019年
		加盟年度	2019年

スローガン まだまだ伸び代を実感! アフターサッカーも実感♪!



チーム名		本拠地区	東京都
TSFC		創設年度	1989年
		加盟年度	2000年

スローガン 全てのメンバーをリスペクト、
楽しみながらフェアプレイで勝利を目指す



チーム名	セタガヤシニア65	本拠地区	世田谷区
世田谷シニア65		創設年度	2020年
		加盟年度	2020年

スローガン サッカーを楽しむ



チーム名	エルビーゴテンシニア65エフシー	本拠地区	東京都
LB御殿下シニア65FC		創設年度	1999年
		加盟年度	2014年

スローガン 勝利と絆を目指す



チーム名	ワイケーティ65	本拠地区	練馬区
	YKT65	創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン みんなで楽しく生涯サッカー!



チーム名	コウトウゴクエフシー65	本拠地区	江戸川区
	J東戸五区FC65	創設年度	1984年
		加盟年度	2016年

スローガン 「来るもの拒まず 去るもの追わず」を信条とし
サッカーを謳歌!



チーム名	シンジュク 65	本拠地区	新宿区
	新宿65	創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン 仲間を増やす、仲間を知る



チーム名	エフシーマジョール65	本拠地区	東京都
	FCマジョール65	創設年度	2007年

スローガン 3F フレンドシップ、フェアプレー、
ファイティングスピリット



チーム名	ビープラス65シニア	本拠地区	東京都国分寺市
	B+65シニア	創設年度	1981年
		加盟年度	2024年

スローガン 日々サッカーを通じて体を鍛え、
健康維持を目的とし明るい活気あるクラブを目指す



チーム名	シブヤ1950	本拠地区	東京都目黒区
	渋谷1950	創設年度	2021年

スローガン 全員参加で和気あいあいと楽しく
(試合中も試合後も)



チーム名	ブレインズ65	本拠地区	東京都中央区
	ブレインズ65	創設年度	1964年

スローガン みんなで楽しく全員サッカー



チーム名	シンセタガヤシニア65	本拠地区	世田谷区
	シン世田谷シニア65	創設年度	2024年

スローガン 明るく楽しくリスペクト

CWL65-2C



チーム名	ブレインズ65	本拠地区	東京都中央区
	ブレインズ65	創設年度	1964年

スローガン みんなで楽しく全員サッカー

チーム紹介



チーム名	ボクトウ ロクジュウゴ ミドル	本拠地区	江東区
墨東65ミドル		創設年度	2019年
		加盟年度	2019年

スローガン
—「仲間がいるからサッカーが出来る」—
“生涯スポーツとしてのサッカーを楽しく続けよう!”



チーム名	ボクトウ ナナジュウ	本拠地区	江東区
墨東70		創設年度	2016年
		加盟年度	2016年

スローガン
—「仲間がいるからサッカーが出来る。敬意を胸にピッチで1つに。」—



チーム名	コクブンジセレソン65	本拠地区	東京都
国分寺セレソン65		創設年度	2014年
		加盟年度	2014年

スローガン
楽しいサッカー、点を取りにいくぞ!



チーム名	シジュウカラクラブトウキョウ70	本拠地区	東京都
四十雀クラブ東京70		創設年度	1952年
		加盟年度	2006年

スローガン
フォア・ザ・チーム、フォア・ザ・クラブ



チーム名	スペル インフィニト	本拠地区	東京都
Super Infinito		創設年度	2021年
		加盟年度	2022年

スローガン
年齢に負けず、新たな夢や希望をいつまでも!
(Club Cero)



チーム名	ダブリュケイユ オーバー70	本拠地区	東京都
WKU Over-70		創設年度	2008年
		加盟年度	2012年

スローガン
早(W)慶(K) OB融合チームとして、選手間の親睦を深めるに同時に、シニアサッカーリーグ他チームの選手ともサッカーを愛する仲間として友好を深めることをします。



チーム名	セタガヤシニア70	本拠地区	世田谷区
世田谷シニア70		創設年度	2023年
		加盟年度	2023年

スローガン
笑う門には福来る



チーム名	アカバネマジョール	本拠地区	東京都
赤羽マジョール		創設年度	2012年
		加盟年度	2012年

スローガン
赤羽水曜会でプレーしていたメンバーで“赤羽70”を立ち上げ参加、2022年に改名。フレンドリーにフェアプレーでファイト(3F)



チーム名	チュウフ克拉ブ70	本拠地区	東京都小金井市
中附俱楽部70		創設年度	2013年
スローガン	力戦奮闘 (全力で勇気を奮って戦う)		
加盟年度	2020年		



チーム名	ムサシノフチウ	本拠地区	府中市
武蔵野府中		創設年度	2019年
スローガン	サッカーの試合や練習を通じ技術や体力の向上を図ると共に団体員相互の協調性と信頼感養う		
加盟年度	2020年		



チーム名	エルビーフラブ	本拠地区	東京都
LBクラブ		創設年度	1999年
スローガン	勝利と絆を目指す		
加盟年度	2012年		



チーム名	ダンディーズ トキヨウ	本拠地区	東京都
ダンディーズTOKYO		創設年度	2023年
スローガン	楽しく、常にチーム向上心を!		
加盟年度	2023年		

SFL-2



チーム名	ミタカシュウキュウダン70	本拠地区	三鷹市
三鷹蹴球団 70		創設年度	1983年
スローガン	メンバー全員出場で勝利を目指す・エンジョイ・リスペクト		
加盟年度	2024年		



チーム名	はちおうじごーるどまんなじゅう	本拠地区	
ハ王子ゴールドマン70		創設年度	
スローガン			
加盟年度			



チーム名	コマザワ70	本拠地区	世田谷区
駒沢70		創設年度	2012年
スローガン	勝利を目指し、楽しいサッカー		
加盟年度	2012年		



チーム名	ポクトウ セブン キッカーズ	本拠地区	江東区
墨東7キッカーズ		創設年度	2018年
スローガン	—「仲間がいるからサッカーができる」— “楽しいサッカー”蹴って、走って、皆と一緒に良い汗かこう!”		
加盟年度	2018年		

チーム紹介



チーム名		本拠地区	
	ダンディーズ70	創設年度	
		加盟年度	

スローガン [チームのために・みんなのために・いつも全力全開]



チーム名	ムサシノコクブンジ70	本拠地区	調布市
	武藏野国分寺70	創設年度	2022年
		加盟年度	2022年

スローガン 夢を追い ひとり一役みんなが主役



チーム名	セタガヤシニアアナジュウプラス	本拠地区	世田谷区
	世田谷シニアFC70プラス	創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン 周りの全てにリスペクトしてプレーを楽しむ



チーム名	ムサシノ 70	本拠地区	武藏野地域
	武藏野 70	創設年度	2015年
		加盟年度	2015年

スローガン “ナイスゲーム”と言えるプレーを!!



チーム名	コウトウゴク70	本拠地区	江戸川区
	江東五区70	創設年度	1984年
		加盟年度	2022年

スローガン 「来るもの拒まず 去るもの追わず」を信条とし
サッカーを謳歌!



チーム名	キュリオシティ	本拠地区	葛飾区
	Curiosity	創設年度	2023年
		加盟年度	2023年

スローガン 野外ライブの会 (^^♪。たまにサッカー (^_-)-☆



チーム名	トウキョウ エド ウィンズ	本拠地区	東京都
	東京江戸ウィンズ	創設年度	2024年
		加盟年度	2024年

スローガン サッカーを楽しみ、ボールと仲間と人生を繋ぐ



チーム名		アタッカーズ75

スローガン 蹴って! 走って! 汗かいて!



チーム名	LBクラブ75
スローガン	和して尚、挑め勝利、満喫・生涯蹴球



チーム名	武蔵野三寿
スローガン	走って健康 楽しくサッカー



チーム名	武蔵野75
スローガン	凡ミスを責めるな励ませ我ら武蔵野



チーム名	WKU75
スローガン	楽しく、健やかに、爽やかに!



チーム名	ダンディーズ75
スローガン	ダンディーズ75はダンディーたれ!



チーム名	ドリーム75
スローガン	永く、コツコツ続けよう!



チーム名	ハッピー75
スローガン	最善の努力と助け合いをコツコツと!



チーム名	ボーアイズ75
スローガン	勝利! 友好! 健康!



チーム名	
墨東75	
スローガン	生涯サッカーで健康と仲間づくりを!

SFL80



チーム名	ブルーハワイ	本拠地区	駒沢地区
		創設年度	2022年
	ブルーハワイ		
		加盟年度	2023年
スローガン	永くコツコツ続けよう		



チーム名	レッドスター	本拠地区	駒沢地区
		創設年度	2023年
	レッドスター		
		加盟年度	2024年
スローガン	出場仲間全員での試合参加ゲームを楽しむ		



チーム名	ホワイトベア	本拠地区	駒沢地区
		創設年度	2023年
	ホワイトベア		
		加盟年度	2024年
スローガン	助け合うサッカー 出席の仲間で最大のチーム力発揮		

シニア連盟リーグ戦 上位チーム一覧

O-40

年度	チーム数 (リーグ)	TCL-1 (2013までTCL)			TCL-2A (2017年まではTCL-2)	特記 事項
		優勝	準優勝	3位		
2000		-	-	-	-	
2001		-	-	-	-	※ 1
2002		-	-	-	-	
2003		-	-	-	-	
2004	30	-	-	-	-	※ 2
2005	32	北区シニアFC40	四十雀クラブ東京	高麗SC	-	※ 3
2006	31	北区シニアFC40	FC本郷	世田谷区四十雀	-	
2007	36	新宿区マエストロス40	高麗SC 40	T・ドリームス	-	※ 4
2008	37	四十雀クラブ東京	高麗SC 40	新宿マエストロス 40	-	
2009	37	トヨペットクラブ	世田谷区シニア40FC	高麗SC 40	-	
2010	39	ラ・セレクシオーネ世田谷40	高麗SC 40	渋谷区FCミドル40	-	
2011	41	四十雀クラブ東京	ラ・セレクシオーネ世田谷40	三鷹蹴球団シニア	-	
2012	41	四十雀クラブ東京	三鷹蹴球団シニア	高麗SC 40	-	
2013	44	足立マスターズ	四十雀クラブ東京	東京北区シニアFC・40	-	
2014	46	四十雀クラブ東京	T・ドリームス	足立マスターズ	三鷹蹴球団シニア	※ 5
2015	51	T・ドリームス	四十雀クラブ東京	東京北区シニアFC・40	大田区シニア40	※ 6
2016	51	T・ドリームス	東京北区シニアFC・40	四十雀クラブ東京	FC青山オーバーフォーティ	※ 7
2017	56	T・ドリームス	四十雀クラブ東京	FC武蔵ユナイテッド	府中アスレティックFC	
2018	60	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	FC青山オーバーフォーティ	T・ドリームス	東京北区シニアFC・40	
2019	61	エリース東京シニア40	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	T・ドリームス	四十雀クラブ東京	※ 8
2020	59	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	FC青山オーバーフォーティ	T・ドリームス	北区シニアFC40	※ 9
2021	60	エリース東京シニア40	T・ドリームス	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	ジュール	
2022	61	HTK Albiceleste	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	エリース東京シニア40	FC・フエンテ東久留米O-40	
2023	64	C.A.REAL TOKYO 40	エリース東京シニア40	HTK Albiceleste	東京北区シニアFC・40	
2024	66	エリース東京シニア40	ジュール	HTK Albiceleste	T・ドリームス40	
2025	69	HTK Albiceleste	エリース東京シニア40	東京北区シニアFC・40	四十雀クラブ東京	

※ 1 SML (23区代表リーグ)、SSL (三多摩リーグ) は継続。

※ 2 クラブチーム向けリーグとしてTMLを新設 (2003年より準備)。SML、TML、SSLの上位チームが翌2005年度新設のTCLに参戦。

※ 3 TCLをSML、TML、SSLの上位リーグとして新設。開始後数年間はリーグ戦の間にフレンドリーマッチを組み入れ。

※ 4 セカンドチーム参加開始 (北区、渋谷区、四十雀クラブ東京)。

※ 5 リーグをTCLに一元化。

※ 6 TCL1:1位2位は同条件のため抽選にて順位決定。

※ 7 参加資格年齢を実質1年繰り下げ (年度初基準から年度内基準に変更)。

※ 8 サブ登録制度廃止。

※ 9 コロナウィルス蔓延で一時全大会を中断、再開後リーグを2ブロックに分けて縮小開催。

シニア連盟リーグ戦 上位チーム一覧

O-40												
年度	チーム数 (リーグ)	TCL-2B		TCL-3A		TCL-3B		TCL-3C		TCL-3D		特記 事項
		優勝	-	優勝	-	優勝	-	優勝	-	優勝	-	
2000		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2001	年度	SML	-	TML-1	-	TML-2	-	SSL	-	特記 事項	※ 1	
2002		優勝	-	優勝	-	優勝	-	優勝	-			
2003	2000	7回 不明	-	-	-	-	-	-	-	※ 1		
2003		8回 不明	-	-	-	-	-	-	-			
2004	30	9回 不明	-	-	-	-	-	-	-	※ 2		
2005		10回 不明	-	-	-	-	-	-	-			
2006	31	北区シニア	高麗SC	マンモス	三鷹蹴球団	※ 2	※ 3					
2006	2005	世田谷区四十雀	FC本郷	-	桑の根SCO-40	※ 3						
2007		新宿マエストロス	トヨペットクラブ	-	TCLとの関係解消					※ 4		
2007	36	渋谷区FCミドル	四十雀クラブ東京	FCデルミーナ東京	-	※ 4						
2008		世田谷区シニア40FC	FCデルミーナ東京	WMW	-							
2009	37	渋谷区FCミドル	T.ドリームス	下町サントス	-							
2009		足立マスターズ	FCデルミーナ東京	東京ベイFC 0-40	-							
2010	39	大田区シニア	東京ベイFC40	BVクラージュ40	-							
2011		東京北区シニアFC40	BVクラージュ40	むさしのFCワインズ	-							
2012	41	北区45	トヨペットクラブ	エリース40	-							
2012		2014以降はTCLに一元化	2014以降はTCLに一元化	2014以降はTCLに一元化	※ 5							
2013	44	-	-	-	-	-	-	-	-			
2014	46	-	下町サントス	LANZA東京40	中央区アイアンズ	-	-	-	-	※ 5		
2015	51	-	FC玉川っ子	FC青山オーバーフォーティ	目黒区シニア	-	-	-	-			
2016	51	-	荒川区シニア40	FC Freedom Senior	むさしのFCワインズ	府中アスレティックFC	※ 7					
2017	56	-	新宿FCマエストロス40	BVクラージュFC40	四十雀クラブ東京40ミドル	ジュール						
2018	60	ジュール	Rooftops	Rooftops	武蔵Uクレシエンテ	東京北区シニアFC・45						
2019	61	大田区シニア40	葛飾シニアO-40	FCトリプレッタ40	HTK Albiceleste	江東五区四十雀SC	※ 8					
2020	59	FCトリプレッタ40	東京北区シニアFC・45	ZIGA	渋谷区FCミドル45	-	-	-	-	※ 9		
2021	60	HTK Albiceleste	TMTシニア	TURQUOISE	品川シニア40	-	-	-	-			
2022	61	大田区シニア40	杉並UNITED40	東京ベイFC O-40	F.C.BOLD40	アストラ俱楽部O40						
2023	64	Tokyo Beer Old Boys	FC.玉川っ子	東京北区シニアFC・45	TMTシニア	大田区シニア40ミドル						
2024	66	FC武蔵ユナイテッドOver40	WOODS VETERANO	葛飾シニアO-40	FC Freedom Senior	足立O-40						
2025	69	FC青山オーバー・フォーティ	DESEO東京40	FC EARLY BIRD 40	buzzyFC next	FC.Griffin東京40						

※ 1 SML(23区代表リーグ)、SSL(三多摩リーグ)は継続。

※ 2 クラブチーム向けリーグとしてTMLを新設(2003年より準備)。SML、TML、SSLの上位チームが翌2005年度新設のTCLに参戦。

※ 3 TCLをSML、TML、SSLの上位リーグとして新設。開始後数年間はリーグ戦の間にフレンドリーマッチを組み入れ。

※ 4 セカンドチーム参加開始(北区、渋谷区、四十雀クラブ東京)。

※ 5 リーグをTCLに一元化。

※ 6 TCL1:1位2位は同条件のため抽選にて順位決定。

※ 7 参加資格年齢を実質1年繰り下げ(年度初基準から年度内基準に変更)。

※ 8 サブ登録制度廃止。

※ 9 コロナウイルス蔓延で一時全大会を中断、再開後リーグを2ブロックに分けて縮小開催。

O-50						
年度	チーム数 (リーグ)	TSL-1			TSL-2A	特記 事項
		優勝	準優勝	3位	優勝	
2002						
2003						
2004						
2005						
2006	17	大田区シニア50／セレクション・トキオ	むさしのFC／高麗SC50	エドモンズ／豊島区50	-	※ 1
2007	20	セレクション・トキオ	エドモンズ	高麗SC50	桐鏡Ov50s	※ 2
2008	27	高麗SC 50	セレクシオントキオ	EDOMON'S	ブレインズ	※ 3
2009	32	セレクション・トキオ	高麗SC50	東京北区シニアFC50	FC本郷 50	
2010	36	高麗SC 50	EDOMON'S	東京北区シニアFC.50	toyopet-senior	
2011	36	toyopet-senior	セレクション・トキオ	東京北区シニアFC.50	桐鏡Ov50s	
2012	40	toyopet-senior	高麗SC50	セレクション・トキオ	四十雀クラブ東京50	
2013	40	toyopet-senior	高麗SC50	渋谷50	デルミーナ50	
2014	45	セレクション・トキオ	toyopet-senior	高麗SC50	WMW OVER 50	
2015	45	セレクション・トキオ	toyopet-senior	四十雀クラブ東京50	東京ベイ 50	
2016	45	セレクション・トキオ	レアル東京50	東京ベイFC O-50	FC BONOS50	※ 4
2017	48	東京ベイFC O-50	レアル東京50	toyopet-senior	LANZA東京50	
2018	51	東京ベイFC O-50	四十雀クラブ東京50	toyopet-senior	FC BONOS50	※ 5
2019	51	四十雀クラブ東京50	東京ベイFC O-50	レアル東京50	エリース東京シニア50	※ 6
2020	54	四十雀クラブ東京50	MITAKA EAGLES	東京ベイFC O-50	FC武蔵ユナイテッド50	※ 7
2021	56	FC武蔵ユナイテッド50	T・ドリームス50	MITAKA EAGLES	PET50	
2022	61	T・ドリームス 50	FC武蔵ユナイテッド50	四十雀クラブ東京50	東京ベイFC O-50	
2023	68	T・ドリームス 50	四十雀クラブ東京50	FC武蔵ユナイテッド50	FC青山O50	
2024	73	T・ドリームス 50	四十雀クラブ東京50	FC青山オーバー・フィフティ	C.A.REAL TOKYO BOF 50	
2025	77	FC青山オーバー・フィフティ	T・ドリームス 50	エリース東京シニア50	府中アスレティック フットボールクラブ50	

※ 1 クラブチームも交えたリーグTSLを新設してSMLを吸収。初年度は2ブロック制。

※ 2 2部を新設(この年は2ブロック)。

※ 3 3部を新設。2部を1ブロックとしてその後のチーム数拡大は3部のブロック数拡大で対応(2017年度まで)。

※ 4 参加資格年齢を実質1年繰り下げ(年度初基準から年度内基準に変更)。

※ 5 2部を2ブロック化。

※ 6 サブ登録制度廃止。

※ 7 コロナウイルス蔓延で一時全大会を中断、再開後リーグを2ブロックに分けて縮小開催。

シニア連盟リーグ戦 上位チーム一覧

		O-50						
年度	チーム数 (リーグ)	TSL-2B	TSL-3A	TSL-3B	TSL-3C	TSL-3D	TSL-3E	特記 事項
		優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	
2002								
2003				年度	SML			
2004					優勝			
2005					2002	第1回 不明		
2006	17	-	-		2003	第2回 不明		
2007	20	世田谷区シニア50FC	-		2004	大田区シニア50		
2008	27	-	FC本郷 50		2005	豊島区シニア50		
2009	32	-	toyopet-senior	MITAKA EAGLES		-	-	
2010	36	-	T's-50	YKTマスターズ50		-	-	
2011	36	-	VERRE50	世田谷シニア50		-	-	
2012	40	-	ランザ東京FC	FCデルミーナ東京50		-	-	
2013	40	-	WMW50	むさしのFCラッジョ		-	-	
2014	45	-	東京ペイ 0-50	HOSEI CLUB 50	BONOS 50	-	-	
2015	45	-	シニア03	エリース50	ブレインズ	-	-	
2016	45	-	むさしのFCラッジョ	大田区シニア50	FC EARLY BIRD 50	-	-	※ 4
2017	48	-	FC町田50	FC本郷50	シニア03	-	-	
2018	51	新宿FCマエストロス50	T DREAMS-50	江東五区四十雀SC50	FC武蔵ユナイテッド50	-	-	※ 5
2019	51	むさしのFCラッジョ	豊島区シニア50	渋谷区FCミドル55	FCトリプレッタ50	-	-	※ 6
2020	54	T・ドリームス-50	下町サントス	シンフォニア	OWLS&MER	-	-	※ 7
2021	56	FC BONOS50	府中アスレティックFC50	ブレインズ	ReBorn F.C	-	-	
2022	61	エリース東京シニア50	FC青山O50	BOF50	ベリーニ50	目黒区シニア50FC	-	
2023	68	FC町田50	FC EARLY BIRD 50	足立区マスターズ50	リボーンエフシー	小金井50	-	
2024	73	足立区マスターズ50	FC BOLD50	ベリーニ50	ターコイズFC	目黒区シニア50FC	江東五区SC50	
2025	77	目黒区シニア50FC	ムグンファ50	FC BEDA	HTK50／50	ZIGA∞	むさしのFCラッジョ	

※ 1 クラブチームも交えたリーグTSLを新設してSMLを吸収。初年度は2ブロック制。

※ 2 2部を新設(この年は2ブロック)。

※ 3 3部を新設。2部を1ブロックとしてその後のチーム数拡大は3部のブロック数拡大で対応(2017年度まで)。

※ 4 参加資格年齢を実質1年繰り下げ(年度初基準から年度内基準に変更)。

※ 5 2部を2ブロック化。

※ 6 サブ登録制度廃止。

※ 7 コロナウイルス蔓延で一時全大会を中断、再開後リーグを2ブロックに分けて縮小開催。

O-60							
年度	チーム数 (リーグ)	CWL-1			CWL-2A		特記事項
		優勝	準優勝	3位	優勝		
2008	6	四十雀東京60(1回)／FC OKINA(2回)	FC OKINA(1回)／四十雀東京60(2回)	青山キッカーズ(1回)／墨東60(2回)	-	※ 1	
2009	8	四十雀東京60	WKU	東京シニアクラブ	-		
2010	9	四十雀東京60	東京シニアクラブ	FC マジョール	-		
2011	12	東京シニアクラブ	渋谷1950	四十雀クラブ東京60	-		
2012	15	Lazos 27	四十雀クラブ東京60	東京シニアクラブ	-	※ 2	
2013	17	Lazos 27	FC マジョール	東京シニアクラブ	トキオ・ロホ	※ 3	
2014	21	墨東60	FC マジョール	トキオ・ロホ	江東五区四十雀SC60	※ 4	
2015	29	Lazos 2011	墨東60	四十雀クラブ東京60	PET60		
2016	33	セレクシオン・トキオ・ロホ	Lazos 2011	墨東60	新宿FCマエストロス60		
2017	38	セレクシオン・トキオ・ロホ	北区シニアFC60	Lazos 2011	桐鏡グラナーダ		
2018	44	PET60	渋谷区FCミドル60	セレクシオン・トキオ・ロホ	ラ・セレクシオーネ世田谷60	※ 5	
2019	46	PET60	Lazos 2011	渋谷区FCミドル60	FC町田60	※ 6	
2020	49	PET60	渋谷区FCミドル60	FC町田60	エリース東京シニア60	※ 7	
2021	55	PET60	セレクシオン・トキオ・ロホ	渋谷区FCミドル60	大田区シニア60		
2022	57	PET60	四十雀クラブ東京60	渋谷区FCミドル60	新宿マエストロス60		
2023	59	渋谷区FCミドル60	T-Dreams60	PET60	FCトリプレッタ60		
2024	61	PET60	T-Dreams60	渋谷区FCミドル60	世田谷FA60		
2025	63	T-Dreams60	PET60	エリース東京シニア60	LANZA東京60		

※ 1 CWL(東京都クラウンサッカーリーグ)をスタート、初年度は2回開催。

※ 2 CWLを2ブロック制で開催。順位戦により優勝を決定。

※ 3 CWLを1-2部制に。

※ 4 CWL-2を2ブロック化。

※ 5 3部を新設し、2部を1ブロック、3部を3ブロックとした。

※ 6 サブ登録制度廃止。

※ 7 コロナウィルス蔓延で一時全大会を中断、再開後リーグを2ブロックに分けて縮小開催。

O-65						
年度	チーム数 (リーグ)	CWL65-1			特記事項	
		優勝	準優勝	3位		
2014	7	WKU65	墨東65	四十雀クラブ東京65	CWL65開幕	
2015	7	ダンディーズ	墨東65	四十雀クラブ東京65		
2016	10	墨東65	マジョール65	四十雀クラブ東京65		
2017	12	FC Cero	LB御殿下シニア	墨東65		
2018	14	FC Cero	FC Cero	FCマジョール		
2019	19	墨東65	墨東65ミドル	墨東65ミドル	2ブロック制	
2020	20	FC Cero	FC uno	墨東65	2部制に移行	
2021	26	FC Cero	FC uno	東京ダンディ		
2022	29	FC Cero	ダンディーズ65	FC UNO		
2023	31	FC Cero	墨東TD65	Infinito		
2024	33	FC Cero	FC.UNO	Infinito		
2025	37					

シニア連盟リーグ戦 上位チーム一覧

O-60								
年度	チーム数 (リーグ)	CWL-2B	CWL-2C	CWL-3A	CSL-3B	CWL-3C	CWL-3D	特記 事項
		優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	
2008	6	-		-				※ 1
2009	8	-		-				
2010	9	-		-				
2011	12	-		-				
2012	15	-		-				※ 2
2013	17	-		-				※ 3
2014	21	大田区シニア60						※ 4
2015	29	B+						
2016	33	WKU	東京北区シニアFC・60					
2017	38	渋谷区FCミドル60	T・DREAMS 60					
2018	44	-		中附俱楽部	FC町田60	FC マジョール		※ 5
2019	46	-		江東五区四十雀 SC60	国分寺セレゾン60	B+		※ 6
2020	49	-		FCマジョール	府中60	TT60		※ 7
2021	55	-		PETmax	FCトリプレッタ60	西東京市民 フットボールクラブ 60	府中60	
2022	57	-		BRBシニア60	TT60	FC マジョール	FC本郷60	
2023	59	セレクション・トキオ・ロホ・FC		渋谷区FC60.2nd	FC EARLY BIRD 60B	HOSEI CLUB60	むさしのFCゼファー	
2024	61	四十雀クラブ東京60		LANZA東京60	東京ベイFC O-60	二子玉FC アネックス	WMW OVER60	
2025	63	東京ベイ フットボールクラブ O-60		LB御殿下 シニア60FC	江東五区四十雀 サッカーフラブ60	ブレインズ60	TOKYO BEAST 66	

※ 1 CWL (東京都クラウンサッカーリーグ) をスタート、初年度は2回開催。

※ 2 CWLを2ブロック制で開催。順位戦により優勝を決定。

※ 3 CWLを1-2部制に。

※ 4 CWL-2を2ブロック化。

※ 5 3部を新設し、2部を1ブロック、3部を3ブロックとした。

※ 6 サブ登録制度廃止。

※ 7 コロナウイルス蔓延で一時全大会を中断、再開後リーグを2ブロックに分けて縮小開催。

O-65					
年度	チーム数 (リーグ)	CWL65-2A	CWL65-2B	CWL65-2C	特記事項
		優勝	優勝	優勝	
2014	7	-	-	-	CWL65開幕
2015	7	-	-	-	
2016	10	-	-	-	
2017	12	-	-	-	
2018	14	-	-	-	
2019	19	-	-	-	2ブロック制
2020	20	世田谷65	-	-	2部制に移行
2021	26	ブレインズ65	FC Infinito	-	
2022	29	二子玉FC65	エリース65	-	
2023	31	WKU-65	東京北区60ミドル	-	
2024	33	PET 01bole	世田谷65	ブレインズ65	
2025	37				

年度	O-70					
	チーム数 (リーグ)	SFL70-1			SFL70-2	特記事項
		優勝	準優勝	3位	優勝	
2012	4	WKU70	AKB70(赤羽)	四十雀クラブ東京70	-	SFL70開幕※1
2013	5	WKU70	四十雀クラブ東京70	赤羽70	-	
2014	6	WKU70	四十雀クラブ東京70	赤羽70	-	
2015	7	駒沢70	WKU70	四十雀クラブ東京70	-	
2016	8	四十雀クラブ東京70	墨東70	武蔵野70	-	
2017	8	武蔵野70	LBクラブ	四十雀クラブ東京70	-	
2018	11	四十雀クラブ東京70	武蔵野ベータ	墨東70	-	
2019	12	ダンディーズ	墨東70	武蔵野ベータ	-	
2020	14	墨東70	四十雀クラブ東京70	武蔵野ベータ	-	2ブロック+総合順位戦の結果
2021	14	墨東70	四十雀クラブ東京70	WKU70	-	2ブロック+総合順位戦の結果
2022	15	Super Infinito	墨東70	WKU70	-	2ブロック+総合順位戦の結果
2023	18	Super Infinito	墨東70	四十雀クラブ東京70	-	2ブロック+総合順位戦の結果
2024	21	Super Infinito	世田谷シニアFC70	墨東70	三鷹蹴球団70	2部制に移行
2025	26					

※1 前半までの結果、最終順位不明

年度	O-75				特記事項	O-80				
	チーム数 (リーグ)	SFL75				チーム数 (リーグ)	SFL80			
		優勝	準優勝	3位			優勝	準優勝	3位	
2012										
2013										
2014										
2015										
2016										
2017	4	ドリーム75	アタッカーズ75	ハッピー75	SFL75開幕					
2018	4	ドリーム75	アタッカーズ75	ボーイズ75						
2019	4	ボーイズ75	ハッピー75	ドリーム75						
2020	5	ボーイズ75	LBクラブ75	アタッカーズ75						
2021	6	ボーイズ75	ドリーム75	武蔵野75						
2022	8	墨東75	ボーイズ75	LBクラブ75						
2023	9	墨東75	ボーイズ75	WKU75	3	レッドスター	ホワイトベア	ブルーハワイ	SFL80開幕	
2024	10	WKU75	武蔵野三寿	ダンディーズ75	3	ブルーハワイ	レッドスター	ホワイトベア		
2025	11				3					

シニア連盟トーナメント大会 上位チーム一覧

全国大会東京都予選会 (当初より:1次予選リーグ、2次予選、決勝トーナメント形式／2020年度より:トーナメント形式に一本化)

年度	O-40				特記 事項
	優勝	準優勝	ベスト4		
2001	高麗SC	四十雀クラブ東京	Tドリームス	不明	※ 1
2002	高麗SC	四十雀クラブ東京	北区シニア	不明	
2003	高麗SC	四十雀クラブ東京	北区シニア	不明	
2004	高麗SC	四十雀クラブ東京	北区シニア	Tドリームス	
2005	世田谷区四十雀	四十雀クラブ東京	トヨペットクラブ(3位)	高麗SC(4位)	
2006	新宿マエストロス	トヨペットクラブ	三鷹蹴球団	高麗SC	
2007	トヨペットクラブ	新宿マエストロス	北区シニア(3位)	デルミーナ東京(4位)	
2008	新宿マエストロス	東京北区シニアFC	高麗SC	Tドリームス	
2009	高麗SC	新宿マエストロス	トヨペットクラブ	デルミーナ東京	
2010	高麗SC	東京ベイFC	ラ・セレクシオーネ世田谷40	デルミーナ東京	
2011	東京ベイFC40	四十雀クラブ東京	デルミーナ東京	三鷹蹴球団	
2012	東京ベイFC40	北区シニア	ラ・セレクシオーネ世田谷	三鷹蹴球団	
2013	四十雀クラブ東京	足立40	北区シニア	高麗SC	※ 2
2014	T・ドリームス	高麗SC	四十雀クラブ東京	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	
2015	FC青山オーバー・フォーティ	T・ドリームス	武藏ユナイテッド	高麗SC40	
2016	T・ドリームス	四十雀クラブ東京	北区シニア40(3位)	武藏ユナイテッド(4位)	
2017	FC青山オーバー・フォーティ	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	四十雀クラブ東京	Tドリームス	
2018	T・ドリームス	四十雀クラブ東京	FC青山オーバー・フォーティ	ジュール	
2019	FC青山オーバー・フォーティ	エリース東京シニア40	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	Tドリームス	
2020	エリース東京シニア40	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	Tドリームス	FC青山オーバー・フォーティ	※ 3
2021	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	エリース東京シニア40	Tドリームス	FC青山オーバー・フォーティ	
2022	T・ドリームス	エリース東京シニア40	C.A.REAL.TOKYO.De.Cuarenta	FC青山オーバー・フォーティ	
2023	C.A.REAL TOKYO 40	エリース東京シニア40	Tドリームス	HTK Albiceleste	※ 4
2024	エリース東京シニア40	FC青山オーバー・フォーティ	HTK Albiceleste	C.A.REAL TOKYO40	※ 5
2025	エリース東京シニア40	FC武藏ユナイテッドOver40	C.A.REAL TOKYO 40	HTK Albiceleste	

※ 1 日本マスターズ東京予選を開始。

※ 2 日本体育協会主催の日本マスターズ大会がO-35に変更、新たにJFA主催の全国シニアO-40大会がスタート。

※ 3 コロナウイルス蔓延で一時全大会を中断。

※ 4 東京都予選会の優勝、準優勝の2チームが関東予選進出。

※ 5 東京都予選会の優勝、準優勝の2チームが関東予選進出。

秋季大会 (全国大会予選上位12チーム 4ブロックの予選リーグとブロック1位による決勝トーナメント)

年度	O-40				特記 事項
	優勝	準優勝	ベスト4		
2001	高麗SC	新宿マエストロス	四十雀クラブ東京(3位)	不明	※ 1
2002	高麗SC	不明	不明	不明	※ 2
2003	高麗SC	不明	不明	不明	
2004	高麗SC	世田谷区四十雀	トヨペットクラブ	むさしのウィンズ	
2005	高麗SC	世田谷区四十雀	むさしのウィンズ	FC本郷	
2006	トヨペットクラブ	新宿マエストロス	四十雀クラブ東京	世田谷区四十雀	
2007	北区シニア	高麗SC	世田谷区四十雀(3位)	toyopet-senior(4位)	
2008	高麗SC	Tドリームス	四十雀クラブ東京	江東五区四十雀	
2009	北区シニア	高麗SC	Tドリームス	トヨペットクラブ	
2010	東京ベイ	高麗SC	ラセレクシオーネ世田谷	北区シニア	
2011	不明	不明	不明	不明	
2012	渋谷区FCミドル	東京ベイ	三鷹蹴球団	北区シニア	
2013	北区シニア	足立40	高麗SC	渋谷区FCミドル	
2014	Tドリームス	高麗SC	四十雀クラブ東京	レアル東京	※ 3

※ 1 2001年はプレ開催。

※ 2 秋季大会を開始。前年の予選会上位チームに参加資格を付与。

※ 3 2014年度で大会終了。

全国大会東京都予選会 (当初より：予選リーグ、決勝トーナメント形式／2020年度より：トーナメント形式に一本化)

年度	O-50				特記事項
	優勝	準優勝	ベスト4		
2002	桑の根SC	不明	不明	不明	※ 1
2003	東京シニア	不明	不明	不明	
2004	セレクシオントキオ	新宿区マエストロス50	ブレインズ(3位)	国分寺セレソング(4位)	
2005	セレクシオントキオ	大田区シニア50	ブレインズ(3位)	新宿区マエストロス50(4位)	
2006	セレクシオントキオ	高麗SC 50	HFC ウィングス(3位)	新宿区マエストロス50(4位)	
2007	高麗SC 50	セレクシオントキオ	大田区シニア50(3位)	新宿区マエストロス50(4位)	
2008	高麗SC 50	セレクシオントキオ	北区シニア50	リボーンFC	
2009	高麗SC 50	EDOMON'S	セレクシオントキオ	大田区シニア50	
2010	高麗SC 50	toyopet-senior	EDOMON'S	北区シニア50	
2011	toyopet-senior	高麗SC 50	北区シニア50	ブレインズ	
2012	toyopet-senior	高麗SC 50	リボーンFC	セレクシオントキオ	
2013	toyopet-senior	渋谷区FC50ミドル	セレクシオントキオ	高麗SC 50	
2014	toyopet-senior	セレクシオントキオ	北区シニア	高麗SC 50	
2015	toyopet-senior	セレクシオントキオ	豊島区50	東京ベイ50	
2016	東京ベイ50	セレクシオントキオ	toyopet-senior	渋谷区FC50ミドル	
2017	東京ベイ50	toyopet-senior	レアル東京50	セレクシオントキオ	
2018	MITAKA EAGLES	東京ベイ50	レアル東京50	toyopet-senior	
2019	FC武蔵ユナイテッド50	四十雀クラブ東京50	東京ベイ50	MITAKA EAGLES	
2020	四十雀クラブ東京50	FC武蔵ユナイテッド50	MITAKA EAGLES	T・ドリームス50	
2021	四十雀クラブ東京50	東京ベイ50	FC武蔵ユナイテッド50	MITAKA EAGLES	
2022	T・ドリームス50	FC武蔵ユナイテッド50	四十雀クラブ東京50	FC青山オーバー・フィフティ	
2023	T・ドリームス50	FC青山オーバー・フィフティ	FC町田50	FC武蔵ユナイテッド50	※ 2
2024	T・ドリームス50	FC武蔵ユナイテッド50	FC青山オーバー・フィフティ	四十雀クラブ東京50	※ 3
2025	T・ドリームス50	FC青山オーバー・フィフティ	エリース東京シニア50	四十雀クラブ東京50	

※ 1 全国シニア東京予選を主管開催。

※ 2 東京都予選会の優勝、準優勝の2チームが関東予選進出、東京同士の決勝対決をTドリームスが制して優勝、武蔵が準優勝。

※ 3 東京都予選会の優勝、準優勝の2チームが関東予選進出。

秋季大会 (全国大会予選上位6チーム 2ブロックの予選リーグとブロック1位による決勝戦)

年度	O-50		特記事項
	優勝	準優勝	
2003	東京シニア or ブレインズ	東京シニア or ブレインズ	※ 1
2004	セレクシオントキオ	ブレインズ	
2005	北区シニア50	セレクシオントキオ	
2006	高麗SC 50	セレクシオントキオ	
2007	高麗SC 50	セレクシオントキオ	
2008	北区シニア50	EDMON'S	
2009	高麗SC 50	セレクシオントキオ	
2010	toyopet-senior	高麗SC50	
2011	toyopet-senior	高麗SC50	
2012	toyopet-senior	MITAKA EAGLES	
2013	セレクシオントキオ	高麗SC50	
2014	セレクシオントキオ	toyopet-senior	※ 2

※ 1 秋季大会を開始。前年の予選会上位チームに参加資格を付与。

※ 2 秋季大会終了。

シニア連盟トーナメント大会 上位チーム一覧

全国大会東京都予選会 (当初より: 予選リーグ、決勝トーナメント形式 / 2020年度より: トーナメント形式に一本化)

年度	O-60				特記事項
	優勝	準優勝	ベスト4		
2017	Lazos 2011	セレクション・トキオ・ロホ	PET60	T Dreams-60	※ 1
2018	PET60	渋谷区FC60ミドル	四十雀クラブ東京60	T Dreams-60	
2019	PET60	渋谷区FC60ミドル	FC町田60	墨東60	
2020	PET60	渋谷区FC60ミドル	セレクション・トキオ・ロホ	墨東60	
2021	渋谷区FC60ミドル	Lazos 2011	セレクション・トキオ・ロホ	PET60	
2022	PET60	渋谷区FC60ミドル	T Dreams-60	新宿シニアマエストロス60	
2023	T Dreams-60	トリプレッタ60	PET60	新宿シニアマエストロス60	
2024	PET60	トリプレッタ60	T Dreams-60	セレクション・トキオ・ロホ	※ 2
2025	T Dreams-60	東京ベイ60	FC町田60	PET60	

※ 1 全国シニア東京都予選会を導入 (前年度まではリーグ優勝チームに権利付与)。

※ 2 東京都予選会の優勝、準優勝の2チームが関東予選進出。

春季大会

年度	O-60		特記事項
	優勝	準優勝	
2009	四十雀クラブ東京60	東京シニアクラブ	※ 1
2010	FCマジョール	東京シニアクラブ	
2011	(中止)	(中止)	※ 2
2012	FCマジョール	江東五区五十雀	
2013	御殿下シニア	Lazos27	
2014	Lazos27	FCマジョール	
2015	セレクション・トキオ・ロホ	墨東60	
2016	Lazos 2011	PET60	※ 4

秋季大会

年度	O-60		特記事項
	優勝	準優勝	
2009	東京シニア	四十雀クラブ東京60	※ 1
2010	FCマジョール	WKU	
2011	(中止)	(中止)	※ 2
2012	東京シニア	江東五区四十雀FC60	※ 3
2013	-	-	
2014	-	-	
2015	-	-	
2016	-	-	

※ 1 春季大会、秋季大会を開始。

※ 2 東日本大震災の影響で、春季大会、秋季大会を中止。

※ 3 秋季大会終了。

※ 4 春季大会終了。

シニア健康フェスティバル (2013年より、シニア健康フェスティバル主管運営開始、上位チームからねんりんピック向け代表チームを組成。)

年度	O-60			
	Aブロック 優勝		Bブロック 優勝	
2018	墨東		新宿マエストロス	
2019	豊島区シニア60		渋谷区ミドル60	
2020	-		-	
2021	セレクション・トキオ・ロホ		PET	
2022	世田谷FA60		セレクション・トキオ・ロホ	
2023	セレクション・トキオ・ロホ		墨東TD	
2024	エリース東京シニア60		墨東TD	
2025	墨東TD		板橋O-60	

全国大会東京都予選会

年度	O-70			
	優勝	準優勝	ベスト4	
2023	Super Infinito de Cero	墨東70	四十雀クラブ東京70	WKU70
2024	CeroO70	LBクラブ	墨東7K	四十雀クラブ東京70
2025	CeroO70	墨東70	四十雀クラブ東京70	Curiosity

2024年 常任委員		えなが たかひこ 末永 孝彦 委員長	わだ ひろし 和田 展史 副委員長/大会統括	やまもと まなぶ 山本 学 副委員長	もりもと かつひこ 森本 勝彦 事務局長/情報管理	さとう やすし 佐藤 也寸志 コーディネーター 東京FA評議員
2024年時点での東京都シニアサッカー連盟の常任委員よりシニアサッカーとの関わりの中に感じてきたことについて、一言コメントをいただきました。	①サッカー歴 ②一言コメント					
FCトリプレッタ	T・ドリームス50	ZIGA/HTK	東京北区シニアFC・40+	TT60(東京豊島区60)		
①中・高・大→社会人 →(少し休み)→シニア ②サッカーがつなぐ友情を大切にして、これからもその輪を広げていきたいと思います。	①中→シニアO-40 →シニアO-50 ②シニアになっても真剣な遊びを楽しめる場を整備していきたいです。	②パソコン一ใชえません が人当たりの良さと人徳だけで頂点を目指します。	①中→高→大→社会人 →シニア ②40歳から北区のチームに所属し、リバビリ期間には連盟活動にも深く関わりました。3度の膝手術を乗り越え、来期からOver50カテゴリーで新たな挑戦を始めます。	①中学生より (豊島区立千川中学校) ②趣味: 大会運営 写真: 2017年東アジア大会(赤羽サッカーフィールド)運営の師匠 藤野勤さん(新宿マエストロス)と(2018年7月9日没)		
かたやま こう 片山 康 本部会計	みねの としまさ 嶺野 俊将 会計(~2024年)	にしむら あつや 西村 篤也 審判部 部長	あさの まさき 浅野 政樹 40統括	きだ やすひろ 木田 安洋 50統括	ながしま ゆうき 長島 雄己 60統括(2023-24)	
FC武藏ユナイテッド	四十雀クラブ東京/Cero70	府中アスレティックフットボールクラブ	四十雀クラブ東京	東京北区シニアFC50	大田区シニア60ミドル	
①中・高・大・社会人→シニア ②生涯スポーツとしてサッカーが身近にある環境に感謝しています。 (常任委員一同より)	①四十雀クラブ東京 ②長年慎細な会計業務を担当いただき、温かい気遣いと笑顔で連盟でも守護神でした。ありがとうございました! (常任委員一同より)	②審判部では、審判派遣要請に基づき試合への審判員割り当てを行い、共有された情報をもとに審判活動の質向上につなげてまいります。	①小学校→高校→北区社会人→北区シニア ②シニアサッカーを、さらに、共に、盛り上げていきましょう。	①小学校から高校まで社会人を経てシニアリーグも20年を超えた。 ②40、50、60、70、80、90…生涯サッカーを楽しめたいですね!!	①中学からサッカーを始めた高校・社会人を経てシニアリーグも20年を超えた。 ②世界で注目される80リーグまで続けれられよう頑張れたらいいなと思っています。	
こじま りんべい 兒島 林平 40統括(2023-24)/ アフリカ寄付担当他	くらた ひろあき 倉田 弘明 大会統括補佐/藤枝交流	おおつき ひでき 大槻 秀樹 リーグ会計	あおやま てつし 青山 哲司 O-70/O-75/O-80担当	ちょうじゅざん 張 寿山 O-65幹事長		
四十雀東京40ミドル	東京北区シニアFC60+	江東五区四十雀SC60	三鷹蹴球団(O-65-O-70)	三鷹蹴球団 他		
①斑鳩→明星→同志社 →IBMサッカー部 ②2022年から四十雀事務局、常任委員で40統括担当後、母国(?)アフリカ寄付担当。かすみ草のように選手とシニア連盟を縁の下で支えます。	①高校→北区社会人・シニア ②元シニア連盟副委員長 北区シニア委員会 副委員長 北区FC統括部事務局	①結構長い ②膝の故障を騙し騙し、あと10年はサッカー続けていきたいと思う今日この頃です。	①中学・高校空いて、60才からリストア ②シニアサッカーの世界は今80代まで広がりました。40代から40年以上ほぼ人生の半分を楽しめる世界です。会社人生より長くなるかも。	①小学校高学年から ②シニアサッカーの世界は今80代まで広がりました。40代から40年以上ほぼ人生の半分を楽しめる世界です。会社人生より長くなるかも。		
わたなべ まさひろ 渡辺 正博 水曜練習会 O-65、70幹事	すずき やすお 鈴木 康雄 登録補佐	さわい やすはる 澤井 康治 O-60統括補佐	たかの ひろのり 高野 浩徳 O-40統括補佐 スポーツエス東京担当	たなか つかさ 田中 司 O-40統括補佐 特命プロジェクト担当	きのした みよ 木下 美代 25周年誌編纂	
Club Cero65、70	PET	FC武藏ユナイテッド50	渋谷FC45	ACクレシエンテシニア	東京北区FC50	
①高校、大学 →シニアO-60から参加 ②O-75リーグまでは頑張ります!	②長きにわたりPETの黄金期を支えてきました。シニア連盟も今となっては歴代最長の在籍期間となってしまいました…。もう腰が痛いです。	①1968年より小中高、大学、社会人からシニア ②メキシコ1968の歓喜から日本サッカー暗黒の時代を経て、今は下は19歳方とブレイし日本サッカーの進歩と成長を実感しています。	①NTT本社サッカー部→FC LANDS→F.C.BOLD→渋谷区FCミドル40 ②身長は大谷翔平選手と同じ193センチ。右投げ右打ち。ブレイヤーと常任委員の二刀流で、東京のシニアサッカーを盛り上げていく所存です。	①小中高→大学→一般 →シニア ②私の父親は、試合から帰ってきた私に結果を聞いてきたことは一度もありませんでした。聞かれることはいつも「楽しかったか?」の一言だけ。そういう大人であります。	①徳島県阿南市 ②息子のサポートに始まったサッカーつながりも37年。その間、JFA日本フットサル連盟常任理事を歴任。ブレーは全くですが、サッカー熱は○。	

体制遷移

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
委員長											曹明	
副委員長											小倉功	
事務局長				小林久士								
常任委員											曹明	
											小倉功	
											小林久士	
					小野津博好							
			本間弘一								伊崎公男	
			両角氏								林志寿雄	
			小林康夫				内田清文					
			尾崎氏									
											深澤光賢	
											小更友道	
											中條満	
特任委員												
顧問												

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年		
深澤 光賢					佐藤 也寸志					未永 孝彦					
					嶺野 俊将					和田 展史					
					倉田 弘朗					山本 学					
深澤 光賢					佐藤 也寸志	未永 孝彦									
					木田 安洋										
本間 孝										大槻 秀樹		森本 勝彦			
鈴木 康雄															
本間 孝															
嶺野 俊将															
沖山 亮一															
藤野 勤															
倉田 弘朗															
佐藤 也寸志															
大槻 秀樹															
猪鼻 孝之															
古賀 研二															
川崎 勝															
木田 安洋										木田 安洋					
浜田 裕															
長島 雄己															
末永 孝彦															
澤井 康治															
和田 展史															
田崎 一男															
森本 勝彦															
山本 学															
波頭 次郎															
西村 篤也															
池森 俊文															
三上 早苗															
田中 司										田中 司					
兒島 林平															
渡辺 正博															
浅野 政樹															
青山 哲司															
張 寿山															
片山 康															
吉野 美智子															
高野 浩徳															
浜田 裕															
猪鼻 孝之										木下 美代					
海江田 万里															
曹 明															
小倉 功															
本間 孝															

あとがき

本誌は、「25周年誌をつくろう」という、当時委員長であった佐藤さんの唐突な一言から始まりました。なぜ「25周年」なのか。20周年はコロナ禍の影響で身動きがとれず、また30周年を待つよりも、東京都のシニアサッカーを支えてこられた諸先輩方が元気なうちに、その想いや記録をしっかりと受け継いでおこう——そんな考えが背景にありました。

もっとも、その後しばらくは手つかずの状況が続き、いつの間にか周年誌のことは、みんなの頭からすっかり抜け落ちていました。

そんな中、次に繰り出されたのが、「編集長をSFLを統括する御厨さんにお願いする」という、誰も想定していなかった一手でした。

これまで連盟全体の運営に深く関わってこられたわけではない御厨さんが、佐藤さんの熱い想いに心を動かされ、いわば“無茶振り”とも言えるアプローチを受けて編集長を引き受けくださいたことで、2024年6月、25周年誌プロジェクトは本格的に動き出しました。

この25年間で、東京のシニアサッカーは大きく発展してきました。その歩みを一冊にまとめる作業は決して容易ではなく、過去の大会記録や人の動き、さまざまなイベントを、関わった人たちの想いと共に丁寧に掘り起こす必要がありました。

その過程で多くの方々のご協力を賜り、約1年半の時間をかけて、本誌を発行することができました。心より感謝申し上げます。

また、編集にあたっては、奥村印刷株式会社の皆様から多くのご助言をいただきましたこと、併せて御礼申し上げます。

仕上がった本誌を見返すと、この25年間に関わってくださった皆さんのサッカーに対する愛情と、シニアサッカーの発展に向けた情熱が、あらためて伝わってきます。

本誌が、シニア連盟の歩みを振り返ると共に、これから未来を切り拓く力となれば幸いです。

いつの日か、シニアサッカーの代名詞が、金田喜稔さんが掲げる「かっこいい大人」となることを願って。

(末永記)

創立25周年記念誌 編集委員会

編集長	御厨 雅宏
副編集長	佐藤 也寸志
編集委員	末永 孝彦 森本 勝彦 大槻 秀樹 兒島 林平 浅野 政樹 木下 美代

東京都シニアサッカー連盟 創立25周年記念誌

2026年1月24日発行

[発行] 東京都シニアサッカー連盟
[編集] 創立25周年記念誌 編集委員会
[制作] 株式会社オクムラ・グラフィックアーツ
[印刷] 奥村印刷株式会社

©東京都シニアサッカー連盟 本書掲載内容の無断転載、複写を禁じます。

